湘南医療大学 大学院
Graduate School of Shonan University of Medical Sciences

2025年度

シラバス

湘南医療大学　大学院　保健医療学研究科　修士課程

湘南医療大学大学院
Graduate School of Shonan University of Medical Sciences

SYLLABUS
授業概要

◇2025年度◇

保健医療学研究科　保健医療学専攻　修士課程

2025.3

目次

Ⅰカリキュラム・履修モデル	ページ
Ⅰ－1 カリキュラム	2
Ⅰ－2 履修モデル	4

Ⅱ共通科目	科目責任者	ページ
保健医療学特論	喜多村　健	18
医療倫理学特論	勝井　恵子	20
医療社会学特論	景山　晶子	22
生涯教育特論	小山 紳一郎	24
英語購読	小山田　幸永	26
研究特論	窪田　和巳	28
医療管理学特論	大道　久	30
形態機能・病態学特論	柴田　昌和	32
家族ケア特論	牛田　貴子	34
多職種協働・地域連携特論	小林　紀明	36
看護教育特論	川本　利恵子	38
看護理論	川本　利恵子	40
コンサルテーション論	渡邉　眞理	42
フィジカルアセスメント	山勢　善江	44
臨床薬理学	渡邉　眞理	46

Ⅲ専門科目（健康増進・予防領域）	科目責任者	ページ
在宅・公衆衛生学特論Ⅰ	石川　眞里子	50
在宅・公衆衛生学特論Ⅱ	小林　紀明	52
在宅・公衆衛生学演習	石川　眞里子	54
女性保健学特論Ⅰ	山﨑　圭子	56
女性保健学特論Ⅱ	山﨑　圭子	58
女性保健学演習	山﨑　圭子	60
精神保健医療学特論Ⅰ	片山　典子	62
精神保健医療学特論Ⅱ	片山　典子	64
精神保健医療学演習	片山　典子	66
生活支援医療学特論Ⅰ	山勢　善江	68
生活支援医療学特論Ⅱ	内藤　亜由美	70
生活支援医療学特論Ⅲ	山勢　善江	72
生活支援医療学演習Ⅰ	山勢　善江	74
生活支援医療学演習Ⅱ	内藤　亜由美	76

Ⅲ専門科目（健康増進・予防領域：がん看護コース）	科目責任者	ページ
がん看護学特論Ⅰ	渡邉　眞理	78
がん看護学特論Ⅱ	渡邉　眞理	80
がん看護学特論Ⅲ	渡邉　眞理	82
がん看護学特論Ⅳ	渡邉　眞理	84
がん看護学特論Ⅴ	渡邉　眞理	86
がん看護学演習Ⅰ	渡邉　眞理	88
がん看護学演習Ⅱ	渡邉　眞理	91
がん看護学実習Ⅰ	渡邉　眞理	94
がん看護学実習Ⅱ	渡邉　眞理	96
がん看護学実習Ⅲ	渡邉　眞理	98

Ⅲ専門科目（健康増進・予防領域：感染看護コース）	科目責任者	ページ
感染看護学特論Ⅰ	渡部　節子	100
感染看護学特論Ⅱ	渡部　節子	102
感染看護学特論Ⅲ	渡部　節子	104
感染看護学特論Ⅳ	渡部　節子	106
感染看護学特論Ⅴ	渡部　節子	108
感染看護学演習Ⅰ	渡部　節子	110
感染看護学演習Ⅱ	渡部　節子	112
感染看護学実習Ⅰ	渡部　節子	114
感染看護学実習Ⅱ	渡部　節子	116
感染看護学実習Ⅲ	渡部　節子	118

Ⅳ専門科目（心身機能回復領域）	科目責任者	ページ
運動・動作制御学特論	柴田　昌和	122
運動・動作制御学演習	柴田　昌和	124
呼吸循環機能学特論	森尾　裕志	126
呼吸循環機能学演習	森尾　裕志	128
運動機能回復学特論	田邉　浩文	130
運動機能回復学演習	田邉　浩文	132
脳機能回復学特論	鈴木　雄介	134
脳機能回復学演習	鈴木　雄介	136

Ⅴ専門科目（助産学領域）	科目責任者	ページ
助産学概論	山﨑　圭子	140
助産学特論Ⅰ	山﨑　圭子	142
助産学特論Ⅱ	山﨑　圭子	144
地域・国際助産学特論	山﨑　圭子	147
助産管理・経営学	山﨑　圭子	149
母乳育児支援論	山﨑　圭子	151
比較文化助産論	山﨑　圭子	152
助産学教育・研究・実践論	山﨑　圭子	153
助産学演習Ⅰ	山﨑　圭子	154
助産学演習Ⅱ	山﨑　圭子	156
助産学実習Ⅰ	山﨑　圭子	158
助産学実習Ⅱ	山﨑　圭子	160
助産学実習Ⅲ	山﨑　圭子	162

Ⅵ専門科目（医療・マネジメントエグゼクティブ領域）	科目責任者	ページ
医療政策（特論）	菅河　真紀子	166
福祉と安全（特論）	菅河　真紀子	168
医療情報戦略と物的資源管理（演習）	菅河　真紀子	170
人的資源教育と組織戦略（特論）	菅河　真紀子	172
医療ビジネス（演習）	菅河　真紀子	174

Ⅶ特別研究科目	ページ
健康増進・予防特別研究	178
心身機能回復特別研究	190
助産学特別研究	202
医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究	203

Ⅷ教員一覧	ページ
教員一覧	207

Ⅰ　カリキュラム・履修モデル

Ⅰ—1 カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	
				必修	選択
共通科目		保健医療学特論	1前	2	
		医療倫理学特論	1前	2	
		医療社会学特論	1後		2
		生涯教育特論	1後		2
		英語講読	1前		2
		研究特論	1前	2	
		医療管理学特論	1前		2
		形態機能・病態学特論	1後		2
		家族ケア特論	1前		2
		多職種協働・地域連携特論	1後	2	
		看護教育特論	1後		2
		看護理論	1前		2
		コンサルテーション論	1後		2
		フィジカルアセスメント	1前		2
		臨床薬理学	1後		2
		小計（15 科目）		8	22
専門科目	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ	1前		2
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ	1前		2
		在宅・公衆衛生学演習	1後		4
		女性保健学特論Ⅰ	1前		2
		女性保健学特論Ⅱ	1前		2
		女性保健学演習	1後		4
		精神保健医療学特論Ⅰ	1前		2
		精神保健医療学特論Ⅱ	1前		2
		精神保健医療学演習	1後		4
		生活支援医療学特論Ⅰ	1前		2
		生活支援医療学特論Ⅱ	1前		2
		生活支援医療学特論Ⅲ	1前		2
		生活支援医療学演習Ⅰ	1後		4
		生活支援医療学演習Ⅱ	1後		4
		がん看護学特論Ⅰ	1前		2
		がん看護学特論Ⅱ	1後		2
		がん看護学特論Ⅲ	1前		2
		がん看護学特論Ⅳ	1後		2
		がん看護学特論Ⅴ	1後		2
		がん看護学演習Ⅰ	1前		2
		がん看護学演習Ⅱ	1前		2
		がん看護学実習Ⅰ	1後		2
		がん看護学実習Ⅱ	2前		4
		がん看護学実習Ⅲ	2前		4
		感染看護学特論Ⅰ	1前		2
		感染看護学特論Ⅱ	1前		2
		感染看護学特論Ⅲ	1前		2
		感染看護学特論Ⅳ	1前		2
		感染看護学特論Ⅴ	1後		2
		感染看護学演習Ⅰ	1後		2
		感染看護学演習Ⅱ	1後		2
		感染看護学実習Ⅰ	1後		3
		感染看護学実習Ⅱ	2前		4
		感染看護学実習Ⅲ	2前		3
	健康増進・予防領域 （34 科目）小計			0	86
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論	1前		2
		運動・動作制御学演習	1後		4
		呼吸循環機能学特論	1前		2
		呼吸循環機能学演習	1後		4
		運動機能回復学特論	1前		2
		運動機能回復学演習	1後		4
		脳機能回復学特論	1前		2
		脳機能回復学演習	1後		4
	心身機能回復領域 （8 科目）小計			0	24

専門科目	助産学領域	助産学概論	1前		2
		助産学特論Ⅰ	1通		4
		助産学特論Ⅱ	1通		6
		地域･国際助産学特論	1前		2
		助産管理･経営学	1前		2
		母乳育児支援論	1後		1
		比較文化助産論	2前		1
		助産学教育･研究･実践論	2前		1
		助産学演習Ⅰ	1前		2
		助産学演習Ⅱ	1前～2前		2
		助産学実習Ⅰ	1後		2
		助産学実習Ⅱ	1後～2前		8
		助産学実習Ⅲ	2前		1
	助産学領域 （13科目）小計			0	34
	医療・マネジメントエグゼクティブ領域	医療政策(特論)	1後		2
		福祉と安全(特論)	1後		2
		医療情報戦略と物的資源管理(演習)	1前		2
		人的資源教育と組織戦略(特論)	1後		2
		医療ビジネス(演習)	1前		2
	医療・マネジメントエグゼクティブ領域 （5科目）小計			0	10
専門科目 （60科目）計				0	154
特別研究科目		健康増進・予防特別研究	1～2通		10
		心身機能回復特別研究	1～2通		10
		助産学特別研究	1～2通		10
		医療･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域特別研究	1～2通		10
		特別研究科目 （4科目）計		0	40

修了要件

（修了要件）
学位取得にあたっては、以下の通りとする。

【修士（保健医療学）】

共通科目から12単位以上（必修科目8単位、選択科目4単位以上）、専門科目から10単位以上（選択した特別研究に係る研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上）、特別研究科目から10単位を履修し、合計32単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する修士論文審査及び最終試験に合格すること。また、助産師国家試験受験資格を取得する者は、上記に加え、助産学領域の選択科目13科目34単位の内、「助産学教育・研究・実践論」科目を除く12科目33単位を取得すること。

※ なお、高度実践看護師（がん看護学・感染看護学）の受験資格を取得する者は、共通科目の「保健医療学特論」、「医療倫理学特論」、「研究特論」、「医療管理学特論」、「看護教育特論」、「看護理論」、「コンサルテーション論」の中から8単位を履修し、かつ、「形態機能・病態学特論」、「フィジカルアセスメント」、「臨床薬理学」の6単位を履修する。

専門科目からは「がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ」または「感染看護学特論Ⅰ～Ⅴ」、「がん看護学演習Ⅰ～Ⅱ」または「感染看護学演習Ⅰ～Ⅱ」、「がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ」または「感染看護学実習Ⅰ～Ⅲ」の24単位を履修すること。

Ⅰ―2 履修モデル

①健康増進・予防領域を主たる学修領域とする履修

科目区分		履修科目	履修年次・単位数 1年	2年	計
共通科目		保健医療学特論	●2		
		医療倫理学特論	●2		
		医療社会学特論	○2		
		生涯教育特論			
		英語講読			
		研究特論	●2		
		医療管理学特論			
		形態機能・病態学特論			
		家族ケア特論	○2		
		多職種協働・地域連携特論	●2		
		看護教育特論			
		看護理論			
		コンサルテーション論			
		フィジカルアセスメント			
		臨床薬理学			
		共通科目計	12	0	12
	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ			
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ	○2		
		在宅・公衆衛生学演習			
		女性保健学特論Ⅰ			
		女性保健学特論Ⅱ			
		女性保健学演習			
		精神保健医療学特論Ⅰ			
		精神保健医療学特論Ⅱ			
		精神保健医療学演習			
		生活支援医療学特論Ⅰ	○2		
		生活支援医療学特論Ⅱ	○2		
		生活支援医療学特論Ⅲ			
		生活支援医療学演習Ⅰ		○4	
		生活支援医療学演習Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅰ			
		がん看護学特論Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅲ			
		がん看護学特論Ⅳ			
		がん看護学特論Ⅴ			
		がん看護学演習Ⅰ			
		がん看護学演習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅰ			
		がん看護学実習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅰ			
		感染看護学特論Ⅱ			
		感染看護学特論Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅳ			
		感染看護学特論Ⅴ			
		感染看護学演習Ⅰ			
		感染看護学演習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅰ			
		感染看護学実習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅲ			
		健康増進・予防領域（34科目） 小計	6	4	10
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論			
		運動・動作制御学演習			
		呼吸循環機能学特論			
		呼吸循環機能学演習			
		運動機能回復学特論			
		運動機能回復学演習			
		脳機能回復学特論			
		脳機能回復学演習			
		心身機能回復領域（8科目） 小計	0	0	0

	助産学領域	助産学概論 助産学特論Ⅰ 助産学特論Ⅱ 地域･国際助産学特論 助産管理・経営学 母乳育児支援論 比較文化助産論 助産学教育･研究・実践論 助産学演習Ⅰ 助産学演習Ⅱ 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ			
		助産学領域（13 科目）　小計	0	0	0
	医療マネジメント・エグゼクティブ領域	医療政策（特論） 福祉と安全（特論） 医療情報戦略と物的資源管理（演習） 人的資源教育と組織戦略（特論） 医療ビジネス（演習）			
		医療・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域（5 科目）　小計	0	0	0
	専門科目　計		6	4	10
特別研究科目		健康増進・予防特別研究 心身機能回復特別研究 助産学特別研究 医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究	○	○10	
		特 別 研 究 科 目　計	0	10	10
合 計			18	14	32

期待される能力

保健医療学を基盤として、多職種連携、チーム医療活動における健康増進・予防領域の課題や考察能力を修得し、地域社会に貢献する能力を養う。

修了後の主な進路

医療機関、介護保険下の諸施設、保健福祉行政等で、継続教育の指導的立場で職員の能力開発の指導に携わる。さらには臨床実習学生の教育・研究活動に従事する。

適用　●：必修科目、○：選択科目、数字は単位数

②健康増進・予防領域（高度実践看護師教育課程がん看護学）を主たる学修領域とする履修

科目区分		履修科目	履修年次・単位数 1年	2年	計
共通科目		保健医療学特論	●2		
		医療倫理学特論	●2		
		医療社会学特論			
		生涯教育特論			
		英語講読			
		研究特論	●2		
		医療管理学特論			
		形態機能・病態学特論	●2		
		家族ケア特論			
		多職種協働・地域連携特論	●2		
		看護教育特論			
		看護理論		○2	
		コンサルテーション論		○2	
		フィジカルアセスメント	●2		
		臨床薬理学	●2		
		共通科目計	14	4	18
専門科目	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ			
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ			
		在宅・公衆衛生学演習			
		女性保健学特論Ⅰ			
		女性保健学特論Ⅱ			
		女性保健学演習			
		精神保健医療学特論Ⅰ			
		精神保健医療学特論Ⅱ			
		精神保健医療学演習			
		生活支援医療学特論Ⅰ			
		生活支援医療学特論Ⅱ			
		生活支援医療学特論Ⅲ			
		生活支援医療学演習Ⅰ			
		生活支援医療学演習Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅰ	●2		
		がん看護学特論Ⅱ	●2		
		がん看護学特論Ⅲ	●2		
		がん看護学特論Ⅳ		●2	
		がん看護学特論Ⅴ		●2	
		がん看護学演習Ⅰ	●2		
		がん看護学演習Ⅱ	●2		
		がん看護学実習Ⅰ	●2		
		がん看護学実習Ⅱ		●4	
		がん看護学実習Ⅲ		●4	
		感染看護学特論Ⅰ			
		感染看護学特論Ⅱ			
		感染看護学特論Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅳ			
		感染看護学特論Ⅴ			
		感染看護学演習Ⅰ			
		感染看護学演習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅰ			
		感染看護学実習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅲ			
		健康増進・予防領域（34科目） 小計	12	12	24
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論			
		運動・動作制御学演習			
		呼吸循環機能学特論			
		呼吸循環機能学演習			
		運動機能回復学特論			
		運動機能回復学演習			
		脳機能回復学特論			
		脳機能回復学演習			
		心身機能回復領域（8科目） 小計	0	0	0

	助産学領域	助産学概論 助産学特論Ⅰ 助産学特論Ⅱ 地域･国際助産学特論 助産管理・経営学 母乳育児支援論 比較文化助産論 助産学教育･研究・実践論 助産学演習Ⅰ 助産学演習Ⅱ 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ			
		助産学領域（13 科目）　小計	0	0	0
	医療マネジメント・エグゼクティブ領域	医療政策（特論） 福祉と安全（特論） 医療情報戦略と物的資源管理（演習） 人的資源教育と組織戦略（特論） 医療ビジネス（演習）			
		医療・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域（5 科目）　小計	0	0	0
	専門科目　計		12	12	24
特別研究科目		健康増進・予防特別研究 心身機能回復特別研究 助産学特別研究 医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究	○	○10	
		特 別 研 究 科 目　計	0	10	10
合 計			26	26	52

期待される能力

保健医療学を基盤として、多職種連携、チーム医療活動における健康増進・予防領域の課題や考察能力を修得し、地域社会に貢献する能力を養う。

修了後の主な進路

医療機関、介護保険下の諸施設、保健福祉行政等で、継続教育の指導的立場で職員の能力開発の指導に携わる。さらには臨床実習学生の教育・研究活動に従事する。

適用　●：必修科目、○：選択科目、数字は単位数

③健康増進・予防領域（高度実践看護師教育課程感染看護学）を主たる学修領域とする履修

科目区分		履修科目	履修年次・単位数 1年	2年	計
共通科目		保健医療学特論	●2		
		医療倫理学特論	●2		
		医療社会学特論			
		生涯教育特論			
		英語講読			
		研究特論	●2		
		医療管理学特論			
		形態機能・病態学特論	●2		
		家族ケア特論			
		多職種協働・地域連携特論	●2		
		看護教育特論			
		看護理論		○2	
		コンサルテーション論		○2	
		フィジカルアセスメント	●2		
		臨床薬理学	●2		
		共通科目計	14	4	18
専門科目	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ			
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ			
		在宅・公衆衛生学演習			
		女性保健学特論Ⅰ			
		女性保健学特論Ⅱ			
		女性保健学演習			
		精神保健医療学特論Ⅰ			
		精神保健医療学特論Ⅱ			
		精神保健医療学演習			
		生活支援医療学特論Ⅰ			
		生活支援医療学特論Ⅱ			
		生活支援医療学特論Ⅲ			
		生活支援医療学演習Ⅰ			
		生活支援医療学演習Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅰ			
		がん看護学特論Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅲ			
		がん看護学特論Ⅳ			
		がん看護学特論Ⅴ			
		がん看護学演習Ⅰ			
		がん看護学演習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅰ			
		がん看護学実習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅰ	●2		
		感染看護学特論Ⅱ	●2		
		感染看護学特論Ⅲ	●2		
		感染看護学特論Ⅳ	●2		
		感染看護学特論Ⅴ		●2	
		感染看護学演習Ⅰ		●2	
		感染看護学演習Ⅱ		●2	
		感染看護学実習Ⅰ	●3		
		感染看護学実習Ⅱ		●4	
		感染看護学実習Ⅲ		●3	
		健康増進・予防領域（34科目） 小計	11	13	24
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論			
		運動・動作制御学演習			
		呼吸循環機能学特論			
		呼吸循環機能学演習			
		運動機能回復学特論			
		運動機能回復学演習			
		脳機能回復学特論			
		脳機能回復学演習			
		心身機能回復領域（8科目） 小計	0	0	0

	助産学領域	助産学概論 助産学特論Ⅰ 助産学特論Ⅱ 地域･国際助産学特論 助産管理・経営学 母乳育児支援論 比較文化助産論 助産学教育･研究・実践論 助産学演習Ⅰ 助産学演習Ⅱ 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ			
		助産学領域（13 科目）　小計	0	0	0
	医療マネジメント・エグゼクティブ領域	医療政策（特論） 福祉と安全（特論） 医療情報戦略と物的資源管理（演習） 人的資源教育と組織戦略（特論） 医療ビジネス（演習）			
		医療・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域（5 科目）　小計	0	0	0
	専門科目　計		11	13	24
特別研究科目		健康増進・予防特別研究 心身機能回復特別研究 助産学特別研究 医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究	○	○10	
		特 別 研 究 科 目　計	0	10	10
合 計			25	27	52

期待される能力

保健医療学を基盤として、多職種連携、チーム医療活動における健康増進・予防領域の課題や考察能力を修得し、地域社会に貢献する能力を養う。

修了後の主な進路

医療機関、介護保険下の諸施設、保健福祉行政等で、継続教育の指導的立場で職員の能力開発の指導に携わる。さらには臨床実習学生の教育・研究活動に従事する。

適用　●：必修科目、○：選択科目、数字は単位数

④心身機能回復領域を主たる学修領域とする履修

科目区分		履修科目	履修年次・単位数 1年	2年	計
共通科目		保健医療学特論	●2		
		医療倫理学特論	●2		
		医療社会学特論			
		生涯教育特論	○2		
		英語講読			
		研究特論	●2		
		医療管理学特論			
		形態機能・病態学特論	○2		
		家族ケア特論			
		多職種協働・地域連携特論	●2		
		看護教育特論			
		看護理論			
		コンサルテーション論			
		フィジカルアセスメント			
		臨床薬理学			
		共通科目計	12	0	12
専門科目	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ			
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ			
		在宅・公衆衛生学演習			
		女性保健学特論Ⅰ			
		女性保健学特論Ⅱ			
		女性保健学演習			
		精神保健医療学特論Ⅰ			
		精神保健医療学特論Ⅱ			
		精神保健医療学演習			
		生活支援医療学特論Ⅰ			
		生活支援医療学特論Ⅱ			
		生活支援医療学特論Ⅲ			
		生活支援医療学演習Ⅰ			
		生活支援医療学演習Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅰ			
		がん看護学特論Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅲ			
		がん看護学特論Ⅳ			
		がん看護学特論Ⅴ			
		がん看護学演習Ⅰ			
		がん看護学演習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅰ			
		がん看護学実習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅰ			
		感染看護学特論Ⅱ			
		感染看護学特論Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅳ			
		感染看護学特論Ⅴ			
		感染看護学演習Ⅰ			
		感染看護学演習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅰ			
		感染看護学実習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅲ			
		健康増進・予防領域（34科目）　小計	0	0	0
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論	○2		
		運動・動作制御学演習			
		呼吸循環機能学特論		○2	
		呼吸循環機能学演習			
		運動機能回復学特論			
		運動機能回復学演習			
		脳機能回復学特論	○2		
		脳機能回復学演習	○4		
		心身機能回復領域（8科目）　小計	8	2	10

	助産学領域	助産学概論 助産学特論Ⅰ 助産学特論Ⅱ 地域･国際助産学特論 助産管理・経営学 母乳育児支援論 比較文化助産論 助産学教育･研究・実践論 助産学演習Ⅰ 助産学演習Ⅱ 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ			
		助産学領域（13 科目）　小計	0	0	0
	医療マネジメント・エグゼクティブ領域	医療政策（特論） 福祉と安全（特論） 医療情報戦略と物的資源管理（演習） 人的資源教育と組織戦略（特論） 医療ビジネス（演習）			
		医療・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域（5 科目）　小計	0	0	0
	専門科目　計		8	2	10
特別研究科目		健康増進・予防特別研究 心身機能回復特別研究 助産学特別研究 医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究	○	○10	
		特 別 研 究 科 目　計	0	10	10
合 計			20	12	32

期待される能力

保健医療学を基盤として、多職種連携、チーム医療活動における心身機能回復領域の課題や考察能力を修得し、地域社会に貢献する能力を養う。

修了後の主な進路

医療機関、介護保険下の諸施設、保健福祉行政等で、継続教育の指導的立場で職員の能力開発の指導に携わる。さらには臨床実習学生の教育・研究活動に従事する。

適用　●：必修科目、○：選択科目、数字は単位数

⑤助産学領域を主たる学修領域とする履修

科目区分		履修科目	履修年次・単位数 1年	2年	計
共通科目		保健医療学特論	●2		
		医療倫理学特論	●2		
		医療社会学特論	○2		
		生涯教育特論			
		英語講読	○2		
		研究特論	●2		
		医療管理学特論			
		形態機能・病態学特論			
		家族ケア特論			
		多職種協働・地域連携特論	●2		
		看護教育特論			
		看護理論			
		コンサルテーション論			
		フィジカルアセスメント			
		臨床薬理学			
		共通科目計	12	0	12
専門科目	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ			
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ			
		在宅・公衆衛生学演習			
		女性保健学特論Ⅰ	○2		
		女性保健学特論Ⅱ	○2		
		女性保健学演習	○4		
		精神保健医療学特論Ⅰ			
		精神保健医療学特論Ⅱ			
		精神保健医療学演習			
		生活支援医療学特論Ⅰ			
		生活支援医療学特論Ⅱ			
		生活支援医療学特論Ⅲ			
		生活支援医療学演習Ⅰ			
		生活支援医療学演習Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅰ			
		がん看護学特論Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅲ			
		がん看護学特論Ⅳ			
		がん看護学特論Ⅴ			
		がん看護学演習Ⅰ			
		がん看護学演習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅰ			
		がん看護学実習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅰ	○2		
		感染看護学特論Ⅱ			
		感染看護学特論Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅳ			
		感染看護学特論Ⅴ			
		感染看護学演習Ⅰ			
		感染看護学演習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅰ			
		感染看護学実習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅲ			
		健康増進・予防領域（34科目）　小計	10	0	10
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論			
		運動・動作制御学演習			
		呼吸循環機能学特論			
		呼吸循環機能学演習			
		運動機能回復学特論			
		運動機能回復学演習			
		脳機能回復学特論			
		脳機能回復学演習			
		心身機能回復領域（8科目）　小計	0	0	0

	助産学領域	助産学概論	○2		
		助産学特論Ⅰ	○4		
		助産学特論Ⅱ	○6		
		地域･国際助産学特論	○2		
		助産管理・経営学	○2		
		母乳育児支援論	○1		
		比較文化助産論		○1	
		助産学教育･研究・実践論		○1	
		助産学演習Ⅰ	○2		
		助産学演習Ⅱ	○1	○1	
		助産学実習Ⅰ	○2		
		助産学実習Ⅱ	○4	○4	
		助産学実習Ⅲ		○1	
		助産学領域（13 科目）　小計	26	8	34
	医療マネジメント・エグゼクティブ領域	医療政策（特論）			
		福祉と安全（特論）			
		医療情報戦略と物的資源管理（演習）			
		人的資源教育と組織戦略（特論）			
		医療ビジネス（演習）			
		医療・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域（5 科目）　小計	0	0	0
	専門科目　計		48	8	56
特別研究科目		健康増進・予防特別研究			
		心身機能回復特別研究			
		助産学特別研究	○	○10	
		医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究			
		特 別 研 究 科 目　計	0	10	10
合 計			48	18	66

期待される能力

①周産医療センター及び病医院の機能に応じて妊婦健診・正常分娩を自立して助産できる能力

②妊産婦及び新生児のハイリスク事例に対して緊急対応ができる助産師が持つべき判断力と技術力

修了後の主な進路

産科を標榜する病医院及助産院、MFICU、NICU、院内助産システムの施設、保健所・保健センター、市町村の母子保健行政担当、進学（大学院及び認定看護管理コース）

適用　●：必修科目、○：選択科目、数字は単位数

⑥医療・マネジメントエグゼクティブ領域を主たる学修領域とする履修

科目区分		履修科目	履修年次・単位数		
			1年	2年	計
共通科目		保健医療学特論	●2		
		医療倫理学特論	●2		
		医療社会学特論			
		生涯教育特論			
		英語講読			
		研究特論	●2		
		医療管理学特論	○2		
		形態機能・病態学特論			
		家族ケア特論	○2		
		多職種協働・地域連携特論	●2		
		看護教育特論			
		看護理論			
		コンサルテーション論			
		フィジカルアセスメント			
		臨床薬理学			
		共通科目計			
専門科目	健康増進・予防領域	在宅・公衆衛生学特論Ⅰ			
		在宅・公衆衛生学特論Ⅱ			
		在宅・公衆衛生学演習			
		女性保健学特論Ⅰ			
		女性保健学特論Ⅱ			
		女性保健学演習			
		精神保健医療学特論Ⅰ			
		精神保健医療学特論Ⅱ			
		精神保健医療学演習			
		生活支援医療学特論Ⅰ			
		生活支援医療学特論Ⅱ			
		生活支援医療学特論Ⅲ			
		生活支援医療学演習Ⅰ			
		生活支援医療学演習Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅰ			
		がん看護学特論Ⅱ			
		がん看護学特論Ⅲ			
		がん看護学特論Ⅳ			
		がん看護学特論Ⅴ			
		がん看護学演習Ⅰ			
		がん看護学演習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅰ			
		がん看護学実習Ⅱ			
		がん看護学実習Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅰ			
		感染看護学特論Ⅱ			
		感染看護学特論Ⅲ			
		感染看護学特論Ⅳ			
		感染看護学特論Ⅴ			
		感染看護学演習Ⅰ			
		感染看護学演習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅰ			
		感染看護学実習Ⅱ			
		感染看護学実習Ⅲ			
		健康増進・予防領域（34科目）　小計	0	0	0
	心身機能回復領域	運動・動作制御学特論			
		運動・動作制御学演習			
		呼吸循環機能学特論			
		呼吸循環機能学演習			
		運動機能回復学特論			
		運動機能回復学演習			
		脳機能回復学特論			
		脳機能回復学演習			
		心身機能回復領域（8科目）　小計	0	0	0

	助産学領域	助産学概論 助産学特論Ⅰ 助産学特論Ⅱ 地域･国際助産学特論 助産管理・経営学 母乳育児支援論 比較文化助産論 助産学教育･研究・実践論 助産学演習Ⅰ 助産学演習Ⅱ 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ			
		助産学領域（13 科目）　小計	0	0	0
	医療マネジメント・エグゼクティブ領域	医療政策（特論） 福祉と安全（特論） 医療情報戦略と物的資源管理（演習） 人的資源教育と組織戦略（特論） 医療ビジネス（演習）	○2 ○2 ○2 ○2 ○2		
		医療・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ領域（5 科目）　小計			
	専門科目　計				
特別研究科目		健康増進・予防特別研究 心身機能回復特別研究 助産学特別研究 医療・マネジメントエグゼクティブ特別研究	○	○10	
		特 別 研 究 科 目　計	0	10	10
合 計			48	18	66

期待される能力

これからの医療界の中核を担うリーダーとして未来を的確に予測し、厳しい社会情勢に柔軟に対応しながら組織を統率し、社会連携を築き上げていく能力を養う。

修了後の主な進路

博士課程に進学し、さらに学問を深める。医療施設・福祉施設・教育施設の管理、運営に携わる。

適用　●：必修科目、○：選択科目、数字は単位数

Ⅱ　共通科目

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
保健医療学特論	講義	必修	喜多村 健
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	喜多村 健、川本 利恵子、小林 紀明、山崎 圭子、大森 圭貢、小林 和彦、菅河 真紀子、扇谷 秀樹、鶴見 隆彦

授業概要

本研究科は、保健医療に関わる高度専門職として、医療施設、保健施設、行政、地域で、チーム医療の中心として臨床を行う人材育成が目的である。この目的達成の基本的要件として、保健医療学特論を設けている。我が国は、世界的にも例をみない急速な年齢構成と疾病構造の変化に直面し、国は各地域における地域医療構想（地域医療ビジョン）の策定を求め、各地域においては、それぞれ保健医療提供ならびに、連携体制の構築が進められている。本科目では、この変革の時期にあたり、新しい保健医療体制の中で要として機能するに必要な項目を学ぶ。

到達目標

1）保健医療学の概要について説明することができる。
2）我が国の保健と医療の動向の概要について述べることが出来る。
3）地域医療構想の概要について述べることが出来る。
4）保健医療における専門職の役割について述べることができる。
5）保健ならびに衛生行政の現状を理解し、その課題を抽出することが出来る。
6）保健医療福祉システムについて述べることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	序論・保健医療学総論	保健医療学の概要を解説し、科目の目指す内容を学ぶ。	喜多村 健
2	日本の保健と医療の動向①	保健医療に関わる我が国の現状を解析する。	喜多村 健
3	日本の保健と医療の動向②	国際比較による我が国の保健医療の特徴を学ぶ。	喜多村 健
4	保健医療と制度構築①	国・地方自治体の行政的課題と社会福祉制度構築について学ぶ。	扇谷 秀樹
5	介護保険制度の歴史と概要	我が国の介護保険制度と課題（地域包括ケアシステム等）について、福祉専門職の立場から多職種連携に寄せて学ぶ。	扇谷 秀樹
6	保健医療と制度構築②	行政的観点からの障害者と制度について学ぶ。	鶴見 隆彦
7	保健医療専門職としての課題	作業療法士の観点からの課題解析を行う。	鶴見 隆彦
8	保健医療専門職としての課題	医師の観点からの解析を教授する。	喜多村 健

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	地域高齢者の課題	地域高齢者の日常生活活動の課題について学ぶ。	小林 和彦
１０	保健医療専門職としての課題	理学療法士の観点からの課題解析を行う。	大森 圭貢
１１	保健医療専門職としての課題	看護師の観点からの課題解析を行う。	川本 利恵子
１２	保健医療専門職としての課題	助産師の観点からの課題解析を行う。	山崎 圭子
１３	保健医療専門職としての課題	地域・在宅の視点からの課題解析を行う。	小林 紀明
１４	保健・衛生行政の現状と課題	我が国の保健・衛生行政システムを学ぶ。	菅河 真紀子
１５	保険医療制度の歴史と概要	我が国の保険医療制度を学ぶ。	喜多村 健

評価	本授業科目で掲げた課題についての理解度・考察（40%）、授業でのプレゼンテーション（20%）、筆記試験、レポート（40%）で評価する。
教科書	なし、講師が作成した資料を配付して使用
参考図書 参考WEBページ	厚生労働統計協会：国民衛生の動向、保険と年金の動向、国民の福祉と介護の動向（各最新号）、厚生の指標、地域医療構想策定ガイドライン
事前・事後学習 留意事項	参考図書としてあげた資料を活用し、保健医療に主体的に関わる専門職の果たす役割を理解し、多職種連携の要として協働する必要性を習得して欲しい。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療倫理学特論	講義	必修	勝井 恵子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	勝井 恵子、江花 有亮、甲畑 宏子

授業概要

「倫理」とは、「倫」（人と人との間）の「理」（ことわり）を意味する言葉といわれます。医療職や医療分野の研究開発に従事する者には、一市民として有すべき倫理観・道徳観に加え、専門職（profession）としての高度な倫理観が求められます。本講義では、医療倫理に関する専門的知識を習得した上で、その知識を踏まえて、実際の臨床や研究現場における倫理的課題に対応するための思考力を身につけることを目指します。

到達目標

1）生命・医療倫理の歴史を踏まえた上で、医療倫理の四原則について説明することができる。
2）医療倫理を学ぶ意義について、現代社会と医療の関係も踏まえた上で把握し、説明することができる。
3）臨床における倫理の現状を知った上で当該領域に関連する倫理的課題を把握し、考えを深めることができる。
4）研究倫理や公衆衛生倫理の概要を学び、その重要性について考えを深めることができる。
5）提示された事例について、倫理の観点から自身の考えを持ち討論に参加することができる。また、医療倫理について継続的に考え、学んでいく重要性を理解し、多角的な視座からの意見をまとめ、倫理的妥当性のある見解を提示することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	医療倫理の基礎① 「医療倫理」とは何か、「医療倫理の4原則」	生命・医療倫理の歴史、医療倫理の四原則について説明する。	勝井 恵子
2	医療倫理の基礎② インフォームド・コンセントと意思決定支援	インフォームド・コンセントと意思決定支援について、それらの成立条件や課題等を説明する。	勝井 恵子
3	医療倫理の基礎③ エンハンスメントについて考える	医療分野におけるエンハンスメントについて、考え方や事例について説明する。	勝井 恵子
4	グループディスカッションⅠ	医療倫理の基礎①～③に関連するテーマについて、グループディスカッションを通じて議論する。グループで考えたことを踏まえ、それぞれ意見をまとめる。	勝井 恵子
5	臨床における倫理① 救急医療・生殖医療をめぐる課題	臨床における倫理として、特に救急医療や生殖医療の実際やそれらをめぐる倫理的課題について説明する。	江花 有亮
6	臨床における倫理② 慢性期・終末期の医療をめぐる課題	臨床における倫理として、特に慢性期・終末期のの実際やそれら医療をめぐる倫理的課題について説明する。	江花 有亮
7	臨床における倫理③ 移植医療をめぐる課題	臨床における倫理として、特に移植医療の実際やそれらをめぐる倫理的課題について説明する。	勝井 恵子
8	臨床における倫理④ 性別をめぐる課題	臨床における倫理として、特に医療や社会における「性別（生物学的性差、社会的・文化的性差）」の実際やそれらをめぐる倫理的課題について説明する。	勝井 恵子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	グループディスカッションⅡ	医療倫理の基礎①～④に関連するテーマについて、グループディスカッションを通じて議論する。グループで考えたことを踏まえ、それぞれ意見をまとめる。	勝井 恵子
１０	医療研究開発と倫理① 研究倫理・研究公正について	医療分野の研究開発に従事するにあたり求められる研究倫理や研究公正に関する知識について説明する。	勝井 恵子
１１	医療研究開発と倫理② 研究への患者・市民参画（PPI）について	医療分野の研究開発に従事するにあたり求められる研究への患者・市民参画（PPI）に関する知識について説明する。	勝井 恵子
１２	医療研究開発と倫理③ ゲノム医療をめぐる課題（1）	医療研究開発に関する倫理として、特にゲノム医療の実際について説明する。	甲畑 宏子
１３	医療研究開発と倫理④ ゲノム医療をめぐる課題（2）	医療研究開発に関する倫理として、特にゲノム医療の実際について議論する。	甲畑 宏子
１４	医療と社会 公衆衛生倫理について	医療分野の専門職として活躍するにあたり求められる公衆衛生倫理について説明する。	勝井 恵子
１５	グループディスカッションⅢ	これまでの講義を通じて、次世代の医療職や研究者に求められる倫理についてグループディスカッションを行う。グループで考えたことを踏まえ、それぞれ最終レポートを執筆する。	勝井 恵子

評価	・最終レポート（70%） ・グループディスカッションⅠ～Ⅲ（30%）への参加
教科書	指定なし（講師の作成資料を配布する）
参考図書 参考WEBページ	小泉博明 他（編）『テーマで読み解く生命倫理 』、教育出版、2016年（本体1,200円＋税） その他、講師の作成資料内に記載しておくようにします
事前・事後学習 留意事項	医療倫理の課題解決には、「対話」が重要であると言われます。グループディスカッションについては、講義中に示すグラウンドルールを守った上で、オンラインを通じて積極的に参加してください。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療社会学特論	講義	選択	景山 晶子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	景山 晶子

授業概要

医療の専門家の判断や行動は、医学的な正しさに基づいていますが、それらは、必ずしも、医療の受け手にとっては当然ではありません。医療社会学では、今まで当たり前と思っていた医療について、不自由さはないのか、その背景に何があるのかを見直すことを意識します。授業では、医療社会学で扱われている主な概念を簡単に解説した後、受講者の興味に合わせて近年の医療トピックスを取り上げ、批判的に検討・議論をして理解を深めます。

到達目標

医療に対し、医学的な正しさや既存の枠組みから距離を置き、見直し、捉えなおす思考ができるようになる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	イントロダクション	医療社会学の視点、批判的思考、歴史	景山 晶子
2	医療社会学における主な概念	医療化、スティグマ	景山 晶子
3	健康は誰のため？	医療者が考える健康と一般の人々が考える健康	景山 晶子
4	健康は誰のため？	国はなぜ国民の健康を求めるのか	景山 晶子
5	健康は誰のため？	コロナ禍での対応を考える	景山 晶子
6	子どもを産むということ	日本のお産の歴史、現代の妊娠・出産事情	景山 晶子
7	子どもを産むということ	先進医療との関わり	景山 晶子
8	子どもを産むということ	ジェンダー、家族の視点から	景山 晶子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	最期の時間	何が優先されるのか、何を優先したいのか	景山 晶子
１０	最期の時間	本人と家族の生活	景山 晶子
１１	最期の時間	ACPをめぐる議論	景山 晶子
１２	医療従事者の社会学	対人援助専門職	景山 晶子
１３	医療従事者の社会学	チーム医療、社会と集団	景山 晶子
１４	医療従事者の社会学	まちづくりへの挑戦	景山 晶子
１５	まとめ	ふりかえりと議論	景山 晶子

評価	授業における議論での発言（50%）、最終レポート（50%）
教科書	なし（講師が作成した資料を配布して使用）
参考図書 参考WEBページ	各授業内で紹介する。
事前・事後学習 留意事項	各授業のテーマに関連する記事・映画・ドキュメンタリーなど、様々なものに触れて自分なりの理解を深めてください。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
生涯教育特論	講義	選択	小山 紳一郎
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	小山 紳一郎

授業概要

現代社会に生きる市民は、生涯にわたり自らの学習活動をデザインするとともに、他者との学び合いを通して、地域コミュニティづくりに主体的に参画することが期待されている。また、国や自治体には、市民の生涯学習支援等を通して、「誰一人とり残さない」地域社会を形成することが求められている。
本特論では、生涯教育と関連行政（文化政策・福祉政策等）の基礎的理解の上で、第一に、人々の学習・文化活動を、医療・保健・福祉施策と関連づけながら、いかにして地域コミュニティの社会的包摂性を高めるか、第二に、生涯学習時代の専門職として、専門外の分野に視野を広げるキャリア形成のあり方について、実践例やディスカッション等をふまえて考えていく。

到達目標

1）生涯教育と関連行政（文化政策・福祉政策等）に関する基礎的事項を理解する。
2）地域の医療・福祉との連携を含む生涯学習支援の仕組みと課題を説明できる。
3）学び続ける専門職としてのキャリア形成の観点から、自らの課題を省察できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	生涯教育の基礎的理解（1）：生涯教育、生涯学習とは何か	教科書第1章を読む。生涯教育と生涯学習、生涯教育と社会教育の関係を理解する。	小山 紳一郎
2	生涯教育の基礎的理解（2）：生涯学習をめぐる国際的な動向	教科書第3章を読む。ユネスコの生涯教育施策、OECDのリカレント教育等の概念を理解する。	小山 紳一郎
3	生涯教育の基礎的理解（3）：学校教育と社会教育	教科書第4章、第12章を読む。学校教育と社会教育の役割、学校教育と社会教育の連携について考える。	小山 紳一郎
4	生涯学習の基礎的理解（4）生涯学習と社会教育関連施設	教科書第10章を読む。生涯学習を支援する社会教育施設の概要を理解する。	小山 紳一郎
5	生涯教育施策をめぐる現状と課題	第1−4回の内容をもとに、レポート作成・発表を行う。	小山 紳一郎
6	社会教育施設の職員と期待される役割	教科書第9章を読む。公民館、図書館、博物館の専門職の理解、及び専門職に求められる役割を考える。	小山 紳一郎
7	生涯学習政策の関連行政（1)福祉政策、市民活動支援政策	履修生によるプレゼンテーション、及び、講師作成資料による講義。福祉・市民活動支援政策の現状を学び、福祉・市民活動支援行政と生涯学習政策の関連性を考える。	小山 紳一郎
8	生涯学習政策の関連行政（2)文化政策、多文化共生政策	講師作成資料による講義。文化行政・多文化共生政策について学び、文化行政・多文化共生政策と生涯学習政策の関連性を考える。	小山 紳一郎

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	【学外授業】多文化共生政策の実際～外国人教育相談の現場から	神奈川県立地球市民かながわプラザ（横浜市）を訪れ、外国人教育相談事業の現状を知り、多文化共生政策の課題を学ぶ。	小山 紳一郎
１０	生涯学習政策と関連行政の連携	第5-9回の内容をもとに、レポート作成・発表を行う。	小山 紳一郎
１１	SDGsと生涯学習	履修生によるプレゼンテーション、及び、講師作成資料による講義。SDGs（持続可能な開発目標）の概要を学び、SDGsと生涯学習政策の関連性を考える。	小山 紳一郎
１２	社会教育施設の社会的包摂	講師作成資料による講義。社会教育施設の社会的包摂の取り組み事例を学び、社会教育行政における社会的包摂について考える。	小山 紳一郎
１３	生涯学習事業のプログラム立案（1）	講師作成資料による講義。生涯学習関連施設における事業プログラム立案の方法学ぶ。	小山 紳一郎
１４	生涯学習事業のプログラム立案（2）	演習。履修生が生涯学習関連施設における事業プログラムを作成・発表し、振り返りを行う。	小山 紳一郎
１５	生涯学習時代の専門職～専門職のあり方を再考する	第1-14回の内容と実践例をもとに、これからの専門職のキャリア形成についてレポートを作成し、発表を行う。	小山 紳一郎

評価	受講状況（小レポート、プレゼンテーション、ディスカッション） 40%、最終レポート（ 60%）
教科書	佐藤晴雄（2023）『生涯学習概論［第3次改訂版］』学陽書房
参考図書 参考WEBページ	「社会的処方－孤立という病を地域のつながりで治す方法」西智弘編著、学芸出版社。その他、授業内で適宜指示する。
事前・事後学習 留意事項	身近な地域の生涯教育に関する事業・施設を意識する。 講義形式であるが、文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート発表等を行う。 ※本授業は9回目に学外授業を実施する。（場所：神奈川県立地球市民かながわプラザ）
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
英語講読	講義	選択	小山田 幸永
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	小山田 幸永

授業概要

研究において、英文を早く正確に読み取る力は重要である。また、その英文に対して自らの意見をまとめて英語で述べる力も必要である。本講義では、医療に関するニュース記事や論文のアブストラクトなど短かい英文から読み始め、最終的には長い論文の読解力と同時に、英語による発信力も養うことを目的とする。

到達目標

1）英語論文を読むために必要な単語や文法などの知識を確認し、自らの英語基礎力を高める。
2）英文の内容を把握しつつ、早く正確に読むことができる。
3）自らの研究や関心の探求に必要な先行研究のアブストラクトに、スピーディーに目を通し選別できる。
4）医療関連のニュース記事を通して、世界の動向への関心を高める。
5）読んだ英文に対して、自分の考えや意見をまとめて英語で表現ができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	導入	短い英文記事を読んで内容を把握し、意見をまとめる。	小山田 幸永
2	医療英単語	専門的な医療英単語を、分野ごとに概観する。	小山田 幸永
3	アレルギー	皮膚疾患に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
4	精神科	ストレスに関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
5	生活習慣病	糖尿病に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
6	感染症	ウイルスに関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
7	呼吸器系	肺疾患に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
8	前半のまとめ	前半で扱ったトピックに関する英文を読んで内容を把握し、意見をまとめて発表する。	小山田 幸永

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	循環器系	心疾患に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
１０	消化器系	消化器疾患に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
１１	泌尿器系	腎機能に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
１２	脳神経系	アルツハイマー病に関する英文を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
１３	アブストラクト	論文のアブストラクトを読んで内容を把握する。	小山田 幸永
１４	論文	医療に関する論文全体を読んで内容を把握する。	小山田 幸永
１５	全体のまとめ	講義全体で扱ったトピックに関する任意の英文を読んで内容を把握し、意見をまとめて発表する。	小山田 幸永

評価	課題（50%））、講義への参加（30%）、最終発表（20%）
教科書	毎回資料を配布する。
参考図書 参考WEBページ	学生のためのカレントメディカルイングリッシュ 第4版／飯田恭子／医学書院／ISBN: 978-4260028653
事前・事後学習 留意事項	1）社会動向や履修生の関心に沿ったトピックスを取り上げるため、シラバスの内容は変更することがある。 2）毎回配布の資料は次回までに予習すること。終了資料は音読を励行すること。
オフィスアワー	授業の前後、及び案内するメールアドレスにて適宜受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
研究特論	講義	必修	窪田 和巳
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	窪田 和巳、内田 健太郎

授業概要

科学的思考、研究者としての態度、全般的な研究方法と潮流、クリティカルシンキング、研究の意義と独自性、研究デザインの歴史的考察、研究デザインの選択(情報活用の倫理面、図書検索等の情報活用も含む)、統計解析等について学修する。

到達目標

研究論文の技法、研究デザイン、研究計画書、資料検索、研究倫理、統計解析等について学修し、それらの技法・知識を用いて、研究論文・学術論文を読み・書くことができるようになる。また、統計解析の手法を理解して、科学的に研究論文・学術論文の成果を評価できるようになる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究と科学的思考および態度・研究倫理	研究の概念、研究過程、態度、研究倫理等について学ぶ。	内田 健太郎
2	研究デザイン	様々な研究デザインについて学ぶ。	内田 健太郎
3	研究計画書	研究計画書について概観し、作成方法を学ぶ。	内田 健太郎
4	文献・資料の蒐集と利用	文献・資料の蒐集・検索・利用方法を学ぶ。	内田 健太郎
5	研究論文の書式	研究論文の書式について学ぶ。	内田 健太郎
6	特許出願	特許出願に必要な知識について学ぶ	内田 健太郎
7	疫学基礎	疫学基礎について学ぶ。	窪田 和巳
8	生物統計学基礎	生物統計学基礎について学ぶ。	窪田 和巳

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	統計解析の手法：導入	統計解析についての各種手法を概観し、基本的な考え方や概念を学ぶ。	窪田 和巳
１０	統計解析の手法：検定と推定	統計解析の土台となる検定論、推定論について学ぶ。	窪田 和巳
１１	統計解析の手法：連続量の解析１	″連続的なアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 記述から単純な検定まで″	窪田 和巳
１２	統計解析の手法：連続量の解析２	″連続的なアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 分散分析から回帰モデルまで″	窪田 和巳
１３	統計解析の手法：カテゴリカルデータの解析１	″カテゴリカルなアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 記述から単純な検定まで″	窪田 和巳
１４	統計解析の手法：カテゴリカルデータの解析２	″カテゴリカルなアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 層別解析から回帰モデルまで″	窪田 和巳
１５	統計解析の手法：生存時間解析	″アウトカムが生存時間であるデータを解析する手法を学ぶ。 カプランマイヤー曲線からCOX回帰まで″	窪田 和巳

評価	レポートおよび授業中態度により総合的に評価する。
教科書	とくになし。講義資料を配布する。
参考図書 参考WEBページ	対馬栄輝『医療系研究論文の読み方・まとめ方』東京図書、2010年 五十嵐中, 佐條 麻里 『「医療統計」わかりません! !』東京図書、2010年
事前・事後学習 留意事項	基本的な統計解析の手法と解析データの評価を可能となるよう学ぶ。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療管理学特論	講義	選択	大道 久
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	大道 久

授業概要

医療現場において制度改革が進んでいる中で医療に従事するために必要な経営戦略・マーケティング、組織管理、リーダーシップ論、患者サービス、医療チームにおける協働、調整、医療職としての役割について学び、演習を通して医療マネジメントの技法を習得する。また、看護及びリハビリ管理の視点から考え、能動的に関与する力を養う。

到達目標

1）医療環境が急速に変化していることを説明し、医療管理学の意義や必要性について述べることができる。
2）病院組織の特質について説明し、その運営管理、経営分析、問題解決手法等の基本について述べることができる。
3）診療情報に基づいて医療の質・安全管理、及びその評価の方法について述べることができる。
4）多職種連携によるチーム医療の意義について説明し、業務の充実や分担の見直しの必要性について述べることができる。
5）地域包括ケアについて説明し、その中で病院が役割を明確にして連携して行く方法について述べることができる。
6）医療マーケティングにおける広告と情報提供について説明し、患者の権利と満足度向上について述べることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	医療管理学序論	医療の発展形態の推移と今後の展開、及び基本課題について認識する。	大道 久
2	医療提供体制の再編・整備	医療計画と、地域医療構想による医療施設体系の再編の方向について理解する。	大道 久
3	医療施設と医療従事者	医療法による医療施設の規定と、医療関係者の身分法について学ぶ。	大道 久
4	皆保険体制と社会保障	診療報酬制度と社会保障財政の現状と今後の方向について学ぶ。	大道 久
5	病院組織とその機能	病院組織の成り立ちとその特質を知り、その指揮・ガバナンスについて学ぶ。	大道 久
6	病院管理とその方法	リーダーシップのあり方、人事・労務管理　危機管理等について学ぶ。	大道 久
7	医療事業の経営管理	病院の収益・費用の構造、経営分析手法、資金調達等について学ぶ。	大道 久
8	経営管理の方法論	現状分析手法　PDCA、BSC等の方法による戦略立案について学ぶ。	大道 久

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	診療情報管理	診療情報の収集・分析と、医療管理への利活用の方法について学ぶ。	大道 久
１０	医療の質管理と評価	医療評価の方法を理解し、病院認定や臨床指標への適用について学ぶ。	大道 久
１１	医療安全管理	リスクマネジメントの方法を理解し、事故防止、BCP、感染管理等について学ぶ。	大道 久
１２	チーム医療と業務再編	多職種連携による業務の質向上、業務分担の見直しの必要性を理解する。	大道 久
１３	地域連携と入退院管理	地域包括ケアを理解し　病院が地域連携を図るための有効な方法を学ぶ。	大道 久
１４	医療広告と情報提供	医療広告を理解し、患者確保と医療マーケティングの方法について学ぶ。	大道 久
１５	患者サービスと顧客満足	患者中心の価値観を認識し、患者の権利、個人情報保護、苦情管理について理解する。	大道 久

評価	本授業科目で掲げた課題についての理解度・考察（40%）、授業でのプレゼンテーション（20%）、筆記試験、レポート（40%）で評価する。
教科書	なし
参考図書 参考WEBページ	必修科目「保健医療学特論」の参考図書；「国民衛生の動向」等は本科目でも十分参考になる。
事前・事後学習 留意事項	事前にWEB等で論点を把握し、講義中に質問・問題提起することについては支障がない。むしろ期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
形態機能・病態学特論	講義	選択	柴田 昌和
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	柴田 昌和、寺本 明、岩﨑 正之、川地 義雄、土井尻 達紀、平野 克治、土田将之

授業概要

看護領域やリハビリテーション領域の専門領域にとらわれず幅広い視点で、人体構造の基礎である解剖学や生理学を臨床症状に関連付けて形態機能を講義をする。さらに、CTやMRI画像を用いて頭頚部・胸部・腹部・骨盤部などの正常な局所構造と機能の理解を深める講義をする。基礎的な講義を踏まえて、各系統別疾患の病因、症状、診断、検査、治療、予防についての病態を理解し、臨床の場で迅速に活用できる講義を行う。

到達目標

1）骨・筋の形態機能について説明ができる。
2）神経系の形態機能について説明でき、頭頚部の局所構造を説明できる。
3）呼吸・循環器系の形態機能について説明でき、胸部の局所構造が説明できる。
4）消化器系の形態機能について説明でき、腹部の局所構造が説明できる。
5）泌尿・生殖器系の形態機能が説明でき、骨盤部の局所構造が説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	骨格系の形態機能	骨の機能と全身骨格の基本的な構造を解説する。特に、骨盤の形態機能について解説する。	柴田 昌和
2	筋系の形態機能	筋の収縮のメカニズムと全身の筋の特徴および解剖学的変異や形態形成を解説する。	柴田 昌和
3	神経系の形態機能	中枢神経、末梢神経の基本的な形態機能解説と解剖学的な変異や形態形成および局所構造について解説する。	柴田 昌和
4	呼吸器系の形態機能	呼吸器の基本的な形態機能の解説と解剖学的変異および肺の立体的な構造を解説する。	柴田 昌和
5	循環器系の形態機能	循環器の基本的な形態機能と解剖学的変異や機能異常および胸部の局所構造につて解説する。	柴田 昌和
6	消化器系の形態機能	消化器系の基本的な形態機能と解剖学的変異や機能異常および腹部の局所構造について解説する。	柴田 昌和
7	泌尿器・生殖器系の形態機能	泌尿器・生殖器系の基本的な形態機能と解剖学的変異や機能異常および骨盤部の局所構造につて解説する。	柴田 昌和
8	内分泌系の機能	内分泌系の基本的な機能解説をする。特に、下垂体、甲状腺、副腎などの器官の形態機能について解説する。	柴田 昌和

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	運動器の疾患	主な運動器疾患の病因、症状、診断、検査、治療、予防を学び、研究シーズのヒントを得る。	土田 将之
１０	循環器系の疾患	主な循環器系疾患の病因、症状、診断、検査、治療、予防を学び、研究シーズのヒントを得る。	土井尻 達紀
１１	消化器系の疾患	主な消化器系疾患の病因、症状、診断、検査、治療、予防を学び、研究シーズのヒントを得る。	平野 克治
１２	脳腫瘍	主な脳腫瘍の病因、症状、診断、検査、治療、予防を学び、研究シーズのヒントを得る。	寺本 明
１３	緩和医療	主な緩和医療を学び、研究シーズのヒントを得る。	平野 克治
１４	泌尿器・生殖器系の疾患	主な泌尿器・生殖器系の病因、症状、診断、検査、治療、予防を学び、研究シーズのヒントを得る。	川地 義雄
１５	呼吸器系の疾患	主な呼吸器系疾患の病因、症状、診断、検査、治療、予防を学び、研究シーズのヒントを得る。	岩﨑 正之

評価	本試験80%、レポート20%の総合評価
教科書	随時オリジナル資料を配布する。
参考図書 参考WEBページ	日本人体解剖学(上・下巻)/南山堂/改訂20版/ISBN 978-4-525-10100-8. 解剖学講義/南山堂/改訂3版/ISBN 978-4-525-10053-7.
事前・事後学習 留意事項	事前に講義のレジュメを配布するので予習をすること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
家族ケア特論	講義	選択	牛田 貴子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	牛田 貴子

授業概要

家族を対象としたケアの歴史的変遷、家族アセスメントとケアのための諸理論について学修し、家族介入の方法について理解を深める。また居宅、高齢者ケア施設、病院等で暮らす療養者の家族を対象とした研究動向を概観し、家族ケアの研究の特徴と課題について考察する。

到達目標

1）家族を対象としたケアの歴史的変遷、家族アセスメントとケアのための諸理論、家族介入の方法を理解する。
2）自らの実践事例を家族アセスメントとケアのための諸理論と照合して解釈や分析し、他者に説明できる。
3）在宅療養している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題を検討できる。
4）入院・入所している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題を検討できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	現代の家族の基礎的知識	家族の多様性と家族のライフサイクル	牛田 貴子
2	家族を理解する方法	家族の発達課題、ジェノグラムとエコマップ、円環的コミュニケーションの理解と活用	牛田 貴子
3	歴史的変遷と倫理的課題 (女性・子ども)	家族を対象としたケアの歴史的変遷(女性・子ども) 家族ケアにおける倫理的課題	牛田 貴子
4	歴史的変遷と倫理的課題 (障害・高齢者)	家族を対象としたケアの歴史的変遷(障害・高齢者) 家族ケアにおける倫理的課題	牛田 貴子
5	家族とは、家族の健康問題とは	家族の定義と機能の変遷、家族機能尺度	牛田 貴子
6	家族システム理論の概要	カルガリー家族アセスメントモデルの概要	牛田 貴子
7	家族システム理論による介入	カルガリー家族介入モデルの実際	牛田 貴子
8	家族ストレス対処理論の概要	家族適応の二重ABCXモデルの概要	牛田 貴子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	家族に変化をもたらすための介入	家族成員に対する援助、家族の関係性に働きかける援助、家族単位の社会性に働きかける援助	牛田 貴子
１０	家族ケア研究の動向と課題 (在宅療養)	在宅療養している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題	牛田 貴子
１１	家族ケア研究の動向と課題 (生活の場の移行期)	生活の場の移行に伴う家族を対象とした研究の動向と特徴および課題	牛田 貴子
１２	家族ケア研究の動向と課題 (入院・入所の女性・子ども)	入院・入所している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題(母性・小児)	牛田 貴子
１３	家族ケア研究の動向と課題 (入院・入所の中途障害)	入院・入所している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題(中途障害)	牛田 貴子
１４	家族ケア研究の動向と課題 (入院・入所の要介護高齢者)	入院・入所している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題(要介護高齢者)	牛田 貴子
１５	家族ケア研究の動向と課題 (入院・入所の終末期期)	入院・入所している人の家族を対象とした研究の動向と特徴および課題(終末期)	牛田 貴子

評価	レポート40%、プレゼンテーション60%
教科書	なし
参考図書 参考WEBページ	上別府圭子ほか:系統看護学講座　別巻　家族看護学第2版、医学書院、2024 黒田裕子ほか:よくわかる中範囲理論　第2版、GAKEEN、2015 牛田貴子:ケア場面で考える家族看護の展開、SMS、2009
事前・事後学習 留意事項	看護職だけでなく、さまざまな職種の受講生に対応する内容です。一部講義、一部プレゼンテーションとディスカッションで授業を展開します。プレゼンテーションの分担担当は、初回に提示します。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
多職種協働・地域連携特論	講義（一部演習）	必修	小林 紀明
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	小林 紀明、寺本 明、牛田 貴子、片山 典子、大森 圭貢、岡 多恵、浦 裕之、扇谷 秀樹

授業概要

1）保健医療政策として推進される地域包括ケアサービスの実践に必要な多職種連携・協働の概念やチームアプローチ等の関連概念について歴史的変遷や動向とともに理解する。
2）保健・医療・福祉・教育現場の問題解決方法を探究し、臨床実践者として多職種連携・協働能力を習得する。
3）保健・医療・福祉・教育領域における多職種連携上の問題点に対して、事例の展開から現場等で応用できる実践力を習得する。
4）健康増進・予防領域、心身機能回復領域及び助産学領域に関わる臨床実践者に必要なチームアプローチの考え方を学び、高度専門職業人が地域包括ケアに果たす役割を多職種連携の観点から理解する。
5）各専門領域の研究につながる応用・発展的な思考を習得する。

到達目標

1）地域で暮らす個人への看護に関する最新知識や研究の動向を探る。
2）地域で暮らす家族を対象とした看護に関する最新の研究の動向を探る。
3）地域で暮らす集団（産業・学校等）を対象とした看護に関する最新の研究の動向を探る。
4）環境のアセスメントと看護との関連について理解する。
5）課題や研究に取り組むために、基礎となる理論やモデルについて理解し、活用することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	多職種連携・協働の価値・倫理	IPW・IPEの概要と歴史、多職種連携・協働の価値・倫理について学ぶ。（講義・一部ディスカッション）	小林　紀明
2	多職種連携・協働の基本Ⅰ	多職種連携・協働の必要性、役割、機能について、医療の視点から高度専門職業人に期待されるチーム形成やマネジメント能力を理解する。（概説）	寺本 明
3	多職種連携・協働の基本Ⅱ	多職種連携・協働の必要性、役割、機能について、福祉の視点から「高齢者」「障害者」「貧困」「母子」「低所得者」など弱者と地域包括ケアを含めて学ぶ。（概説）	扇谷 秀樹
4	多職種連携・協働の専門性の役割と責任	多職種連携・協働における個々の役割と責任を明確にして対象の必要な情報共有・共通目標の設定方法を理解する。（講義・一部ディスカッション）	小林　紀明
5	多職種間コミュニケーション	自己の専門性（知識、意見、価値観、意思決定の方法など）の理解、他の専門職の専門性を理解、尊重したコミュニケーション方法を学ぶ。（講義・一部ディスカッション）	小林　紀明
6	多職種連携・協働実践におけるリーダーシップ	保健・医療・福祉・教育の各施設・機関において効果的な多職種連携・協働実践とリーダーシップを発揮するために、先行研究の事例を用いてディスカッションし、チームとチームワーク、リーダーシップを理解する。（ディスカッション）	小林　紀明
7	多職種連携・協働に関連した研究の動向Ⅰ	専門職間連携教育（IPE:Interprofessional Education）における先行研究を読み解き、今後の研究につなげるための方略について学ぶ。（講義・一部ディスカッション）	小林　紀明
8	多職種連携・協働に関連した研究の動向Ⅱ	専門職間連携協働(IPW: Interprofessional Work)における先行研究を読み解き、今後の研究につなげるための方略について学ぶ。（講義・一部ディスカッション）	小林　紀明

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	多職種協働実践へのチャレンジ	多職種協働の実践演習の目的、手順及びグループワークの方法をガイダンスをとおして理解する。（ディスカッション）	小林　紀明
１０	3領域の多職種協働の実践演習Ⅰ ～実践課題及び対策の提案～	高齢者の在宅療養においてリハビリを要する療養者の生活支援と、出産・育児を含めた母子への健康増進・予防・生活支援が融合された事例を提示し、多職種協働で当該課題を明確にして、その解決方法を展開し、具体的な提案を作成する。（グループワーク）	小林　紀明
１１	3領域の多職種協働の実践演習Ⅰ ～実践課題及び対策の提案～		小林　紀明
１２	3領域の多職種協働の実践演習Ⅱ ～実践課題及び対策の提案～	地域で生活する人々の健康増進・予防・心身機能回復に関わる課題として、「老老介護」や「認知症介護」に焦点を当てた事例を提示し、多職種協働で当該課題を明確にして、その解決方法を展開し、具体的な提案を作成する。（グループワーク）	牛田 貴子 浦 裕之 扇谷 秀樹 岡 多恵 大森 圭貢 片山 典子 小林 紀明
１３	3領域の多職種協働の実践演習Ⅱ ～実践課題及び対策の提案～		
１４	発表・まとめ ～評価とフィードバック～	12-13回の実践演習の課題の解決提案についてグループプレゼンテーションを行い、評価する。それをチームへフィードバックする。	牛田 貴子 浦 裕之 扇谷 秀樹 岡 多恵 大森 圭貢 片山 典子 小林 紀明
１５	発表・まとめ ～評価とフィードバック～		

評価	事例演習における「グループディスカッションおよびプレゼンテーション」「ルーブリック評価表」を用いた評価：40% 中間課題レポートの評価：20% 最終課題レポートの評価：40%
教科書	特になし
参考図書 参考WEBページ	田村由美（2018）、新しいチーム医療、看護の科学社 寺崎文生、赤澤千春　監修（2022）、実践　多職種連携教育、中外医学社 篠田道子（2015）、多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、医学書院
事前・事後学習 留意事項	多職種協働・地域連携、地域包括ケアシステム、チーム医療に関して、院生自身が文献等から情報を収集した上で講義やグループディスカッションに臨む。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
看護教育特論	講義	選択	川本 利恵子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	川本 利恵子、清水奈緒美、 山勢 善江、渡邉 眞理

授業概要

看護ケアの質を高めるために必要な看護職者への教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の継続教育に関する知識と技術を修得する。
現任教育の実践事例について多角的に分析し、現状と課題を明らかにする。高度な看護実践を可能にする教育方法を探究する。

到達目標

1）看護教育における継続教育に関する知識と技術について説明できる。
2）高度実践看護師として、看護職者に対して教育的機能を発揮していくために必要となる学習・教育に関する理論や方法、技術について説明できる。
3）現任教育の実践事例について多角的に分析し、現状と課題を明らかにするとともに、研修の計画・実施・評価の方法を学び、高度看護実践を可能にする現場の状況に応じた教育方法を提案することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	看護教育における基礎教育と継続教育の課題①	看護教育における基礎教育と現任教育に関連する制度や基準を理解する。 【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
2	看護教育における基礎教育と継続教育の課題②	看護教育における基礎教育と現任教育に関連する制度や基準の現状と課題について理解を深める。 【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
3	看護職者の学習形態の特徴と支援①	継続教育に必要な基礎的理論（成人学習理論、動機付け理論等）を修得し、自らの意思で学ぶこととその支援について理解を深める。 【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
4	看護職者の学習形態の特徴と支援②	継続教育の形態として、仕事を通じて学ぶこととその支援（OJT、シュミレーション教育、リフレクション等）について理解を深める。 【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
5	看護職者の学習形態の特徴と支援③	継続教育の形態として、研修を通して学ぶこととその支援（Off-JT 、シミュレーション等）について理解を深める。 【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
6	現任教育プログラムの展開	教育のプロセスと教育者の役割について理解を深める。	川本 利恵子
7	対象別の看護継続教育の現状と課題①	教育計画の立案・実施・評価方法について理解を深める。 認定看護師教育の実際 【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
8	対象別の看護継続教育の現状と課題②	新人看護職者の教育についての継続教育の内容と課題について理解を深める。 【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	対象別の看護継続教育の現状と課題③	中堅看護職者の継続教育の内容と課題について理解を深める。 看護師のラダー 【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１０	対象別の看護継続教育の現状と課題④	臨床で教育を担う人材の継続教育の内容と課題について理解を深める。 専門看護師教育の実際 【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１１	対象別の看護継続教育の現状と課題⑤	臨床でのスペシャリストの教育の内容と課題について理解を深める。 【講義】【ディスカッション】	山勢 善江
１２	現任教育の実践事例の検討①	授業設計について理解を深める。 【プレゼンテーション】	渡邉 眞理
１３	現任教育の実践事例の検討②	授業設計について理解を深める。 【ディスカッション】	渡邉 眞理
１４	現任教育計画の企画	現任教育計画を立案・実施・評価についてプレゼンテーションする。 模擬授業を体験する。 【プレゼンテーション】	渡邉 眞理
１５	まとめ	模擬授業の成果から教育機能について論議する。 【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	プレゼンテーション（50%）　レポート（50%）
教科書	適宜指示する。
参考図書 参考WEBページ	舟島なをみ,院内教育プログラムの立案・実施・評価（第2版）, 医学書院. 2015. Benner, P., et al, Educating Nurses, 2010, 早野ZITO真佐子訳：ベナー　ナースを育てる,医学書院,2015. 藤岡完之治, 看護教員のための授業設計ワークブック, 医学書院, 1994. 藤岡完治,安酸史子,学生と共に創る臨床実習指導ワークブック 第2版, 医学書院,2001.
事前・事後学習 留意事項	事前・事後学習については適宜指示する。 当科目の全ての授業において、内容に記載がない場合でも、院生の主体的な学習を推進する目的で、授業内容や進行に応じ、討議やプレゼンテーション、事例検討、文献講読を実施する場合があるので、その旨を了解した上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
看護理論	講義	選択	川本 利恵子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	川本 利恵子、山勢 善江、渡邉 眞理

授業概要

卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論や看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深める。また、既存の看護理論の概要ならびに卓越した看護の基盤となる、実践・教育・研究への看護理論の適用の実際について議論する。

到達目標

1）理論を理解するために必要な基本的知識を修得し、関心のある看護理論を説明することができる。
2）看護理論を看護実践へ適用することにより看護現象を看護学的に説明することができる。
3）卓越した看護実践・教育・研究の理論的基盤として、看護理論活用の意義と重要性を説明することができる。
4）様々な看護理論に興味を示し、実践・教育・研究の活用に向けディスカッションに参加し議論することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 授業の 目的や内容、スケジュールの確認 看護理論に関する学習背景	本授業は講義だけではなく、プレゼンテーション（看護理論を1つ選びプレゼンテーションを行う等）やディスカッションといったかたちで、学生が授業を構成する。看護理論の基盤となる看護学・看護科学の発展、看護理論とは、看護理論の歴史について理解する。【講義】	川本 利恵子
2	看護理論① 看護理論の定義、構成要素	看護理論の基本的な要素として、看護理論の定義、構成要素、意義について概観する。理論の分類（大理論・中範囲理論・小理論）と実践への活用について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
3	看護理論とは② 看護理論の歴史	看護理論の基本的な要素として、看護理論の歴史について理解を深める。【講義】	川本 利恵子
4	看護理論とは③ 看護におけるメタパラダイム	看護理論の基本的な要素として、看護におけるメタパラダイムについて理解を深める。【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
5	看護理論とは④ 看護理論の評価・分析	看護理論の基本的な要素として、看護におけるメタパラダイムに基づいた理論の評価・分析について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
6	看護理論とは⑤ セルフケア理論	セルフケア理論について概要を学び、実践、教育、研究への適応について検討する。【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
7	看護理論とは⑥ ベナー看護論	ベナー看護論について概要を学び、実践、教育、研究への適応について検討する。【講義】【ディスカッション】	川本 利恵子
8	中範囲理論の理解① ストレス・コーピング理論	中範囲理論の中からストレス・コーピング理論について概要を学び、実践、教育、研究への適応について検討する。【講義】【ディスカッション】	山勢 善江

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	中範囲理論の理解② 危機理論	中範囲理論の中から危機理論について概要を学び、実践、教育、研究への適応について検討する。【講義】【ディスカッション】	山勢 善江
１０	看護理論の実践、教育、研究への適用①各自が選択した看護理論の概要と実践への適応	学生各自が選択した看護理論（オレム、キング、レイニンガー、ロイベナー等の看護理論）の概要と実践への適応をテーマにプレゼンテーションを実施する。上記の過程を通じて、個々の看護理論と実践への適応について理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１１	看護理論の実践、教育、研究への適用② 各自が選択した看護理論の概要と実践への適応	同上。（2回目）	渡邉 眞理
１２	看護理論の実践、教育、研究への適用③ 各自が選択した看護理論の概要と実践への適応	同上。（3回目）	渡邉 眞理
１３	看護理論の実践、教育、研究への適用④ 各自が選択した看護理論の概要と実践への適応	同上。（4回目）	渡邉 眞理
１４	看護理論の実践、教育、研究への適用⑤ 各自が選択した看護理論の概要と実践への適応	同上。（5回目）	渡邉 眞理
１５	まとめ　看護理論を実践へ適用する意義	本授業のまとめを実施し、学びの統括と共有を試み、看護理論を実践へ適用する意義について理解する。【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	授業への参加度・プレゼンテーション（50%）レポート（50%）
教科書	筒井真優美 編集. 看護理論家の業績と理論評価,医学書院,2016.
参考図書 参考WEBページ	Jacqueline Fawcett,太田喜久子,筒井真優美 監訳. フォーセット 看護理論の分析と評価 新訂版. 医学書院. 2008. Dorothea E. Orem, 小野寺杜紀 訳.オレム看護論 第4版. 医学書院. 2005. Patricia Benner. 井部俊子　監訳. ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ. 医学書院. 2005. Donna C. Aguilera. Crisis Intervention theory and methodology(7th).St. Louis Mosby.1993,　小原源助他訳. 危機介入の理論と実際-医療・看護・福祉のためにー. 川島書店. 1997. 林峻一郎編訳. ラザルス講演　ストレスとコーピングーラザルス理論への招待. 星和書店,1990. 他　適時紹介する。
事前・事後学習 留意事項	教科書は事前に読んでおく。10回～14回で各自で理論を1つ選び、その概要と実践への適応についてプレゼンテーションができるよう文献検索と準備を行うこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
コンサルテーション論	講義・演習	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	岡 多恵、片山 典子、清水 奈緒美、野口京子、森川 真理、山勢 善江、渡邉 眞理

授業概要

看護職を含むケア提供者が抱える実践的な問題を解決するために必要なコンサルテーションの知識と技術を学修する。その上で、文献検討や事例検討を通じてコンサルテーションの過程と実際を学び、高度実践看護師として必要な能力を養う。

到達目標

1）コンサルテーションの定義と理論等の知識と技術について説明できる。
2）コンサルテーションを実践するために必要な能力について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	コンサルテーション概論①	コンサルテーションの概念と類似概念との比較からコンサルテーションの目的と役割について概観する。参加者でディスカッションを行い、理解を深め、実践方法について検討する。【講義・ディスカッション】	渡邉 眞理
2	コンサルテーション概論②	コンサルテーションの4つのモデルと2つのタイプについてについて概観し、事例を通して理解を深める。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
3	コンサルテーションのプロセスと技法	コンサルテーションのプロセスと技法について概観し、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
4	コンサルテーションの援助関係の特徴	コンサルテーション時の援助関係の特徴とコンサルタント、コンサルティに求められる態度について概観し、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
5	コンサルテーションの実際①	コンサルティ中心・クライエント中心のケースコンサルテーションの事例検討を通して、コンサルテーションの理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
6	コンサルテーションの実際②	コンサルテーションの演習を通じて、コンサルテーションの実際について模擬体験を通じてコンサルテーションの理解を深める。【ロールプレイ・ディスカッション】	渡邉 眞理
7	コンサルテーションの機能と役割（領域・対象別） 1)がん看護におけるコンサルテーション①	コンサルテーションの演習を通じて、コンサルテーションの実際について模擬体験を通じてコンサルテーションの理解を深める。【ロールプレイ・ディスカッション】	渡邉 眞理
8	コンサルテーションの機能と役割（領域・対象別） 1)がん看護におけるコンサルテーション②	がん医療の緩和ケアにおけるコンサルテーションの特徴を概観し、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。【講義】【ディスカッション】	岡 多恵

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	コンサルテーションの機能と役割（領域・対象別） 2）精神看護分野におけるコンサルテーション	精神看護分野におけるコンサルテーションの特徴と理論を概観し、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。【講義】【ディスカッション】	片山 典子
１０	コンサルテーションの実際①（演習）	感染看護分野におけるコンサルテーションの特徴と理論を概観し、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。【講義】【ディスカッション】	野口 京子
１１	コンサルテーションの実際②（演習）	プログラム中心・クライエント中心の管理コンサルテーションの事例検討を通してコンサルテーションの理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１２	コンサルテーションの機能と役割（領域・対象別） 3）クリティカルケア分野のコンサルテーション	クリティカルケア分野のコンサルテーション の特徴と実際について、理解を深め、コンサルテーションの理解を深める。【講義】【ディスカッション】	山勢 善江
１３	コンサルテーションの機能と役割（領域・対象別） 4）家族支援に関するコンサルテーション	患者の家族の看護に関するコンサルテーション の特徴と実際について理解を深め、コンサルテーションの理解を深める。【講義】【ディスカッション】	森川 真理
１４	まとめ①	学びの統合と共有を目標に、ディスカッションを中心に本授業の総括を実施する。 【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１５	まとめ②	学びの統合と共有を目標に、ディスカッションを中心に本授業の総括を実施する。 【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	プレゼンテーションおよび、討論等への参加状況(40%)、レポートの評価（60%）により評価する。
教科書	・Schein EH. Process Consultation Revisited: Building Helping Relationship. 稲葉元吉, 尾川丈一訳. プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと. 東京: 白桃書房; 1998. ・Lippitt G, Lippitt R. The consulting Process in Action. San Francisco: Pfeiffer; 1986. ・日本専門看護師協議会 監修.宇佐美しおり,野末聖香 編集.精神看護スペシャリストに必要な理論と技法.日本看護協会出版会. 2009. ・日本精神科看護技術協会監. コンサルテーション リーダーシップ. 精神看護出版.2007. ・Hamric,A.B. Advanced Practice Nursing An integrative approach 5th edtion.Saunders,2014. ・川野雅資. コンサルテーションを学ぶ. 東京: クオリティケア; 2013.
参考図書 参考WEBページ	「教科書」欄に準ずる。適時紹介する。
事前・事後学習 留意事項	積極的な参加を望む。検討したいコンサルテーション事例を準備しておく。 当科目の全ての授業において、内容に記載がない場合でも、生徒の主体的な学習を推進する目的で、授業内容や進行に応じ、討議やプレゼンテーション、事例検討を実施する場合があるので、その旨を了解した上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
フィジカルアセスメント	講義/演習	選択	山勢 善江
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	山勢 善江、片山 典子、櫻井 友子、 *岩澤 孝昌、*内田 一好、*窪田 忠夫、*三枝 邦康、*高田 順子、 *仲津留 恵日、*山田 哲也　（*：e-learning科目教員）

授業概要

複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を養うために必要な知識と技術について学修する。全身を診査でき包括的に臨床病態および健康問題を把握できる能力を養うことを目的とする（ e-learningを含む科目である）。

到達目標

1）フィジカルアセスメントの意義を述べることができる。
2）健康関連QOLをアセスメントができる。
3）Head to toe（頭からつま先まで）のフィジカルイグザミネーションを行うことができる。
4）呼吸器系、循環器系、消化器系、中枢神経系、腎・泌尿器系、内分泌代謝系、筋骨格系等の全身を診査できる。
5）精神系のアセスメントができる。
6）フィジカルアセスメントで得られた所見から病態を評価することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	看護師によるフィジカルアセスメント	授業ガイダンス、看護師によるフィジカルアセスメントの目的について【講義】【ディスカッション】	山勢 善江
2	看護師によるフィジカルアセスメントと形態機能・病態（Head to toeのフィジカルイグザミネーションの考え方）	高度実践看護者に必要なフィジカルアセスメントの目的・方法について　Head to toe（頭からつま先まで）のフィジカルイグザミネーション【講義】【ディスカッション】	山勢 善江
3	フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント 健康関連QOLのアセスメント	フィジカルアセスメントを内包するヘルスアセスメントの考え方について解説するとともに、医療や介護が直接介入してその介入効果を評価できる範囲のQOL（健康関連QOL）のアセスメントについて理解する。【講義】【ディスカッション】	山勢 善江
4	頭頚部のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	頭頚部のアセスメントについて、HEENT(head,ears,eyes,nose,throat）の基本構造と生理機能、正常と異常について学び、頭頚部のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを理解する。【e-learning】	＊山田 哲也
5	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	呼吸器系の基本構造と生理機能、正常と異常について学び、呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを理解する。【e-learning】	＊高田 順子
6	循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	循環器系の基本構造と生理機能、正常と異常について学び、循環器系のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを理解する。【e-learning】	＊岩澤 孝昌
7	消化器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	消化器系の基本構造と生理機能、正常と異常について学び、消化器系のフィジカルイグザミネーションを理解する。【e-learning】	＊窪田 忠夫
8	腎・泌尿器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	腎・泌尿器系の基本構造と生理機能、正常と異常について学び、腎・泌尿器系のフィジカルイグザミネーションを理解する。【e-learning】	＊内田 一好

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	神経系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	神経系の基本構造と正常と異常について学び、神経系のフィジカルイグザミネーションを理解する。【e-learning】	＊三枝 邦康
１０	筋骨格系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	筋骨格系の基本構造と生理機能、正常と異常について学び、運動系のフィジカルイグザミネーションとアセスメントについて理解する。【e-learning】	＊仲津留 恵日
１１	精神系のメンタルステータスイグザミネーションとアセスメント	精神系のアセスメントについて、精神機能の状態、精神疾患を推論する技術について理解する。【講義】【演習】【ディスカッション】	片山 典子
１２	フィジカルアセスメントの統合①	臨床推論の方法を理解する。	山勢 善江 櫻井 友子
１３	フィジカルアセスメントの統合②	これまでの授業の内容をもとに、紙上事例に対して臨床推論をもとにフィジカルアセスメントを行う。	山勢 善江 櫻井 友子
１４	フィジカルアセスメントの統合③	これまでの授業の内容をもとに、紙上事例に対して臨床推論をもとにフィジカルアセスメントを行う。	山勢 善江 櫻井 友子
１５	フィジカルアセスメントの統合④	これまでの授業の内容をもとに、紙上事例に対して臨床推論をもとにフィジカルアセスメントを行う。	山勢 善江 櫻井 友子

評価	e-learningは該当科目を全て受講する。演習・討論への参加状況(40%)、事前課題や事後レポート(60%)により評価する。
教科書	参考書の中から自分に適した書籍を1冊は持っておく。
参考図書 参考WEBページ	福井次矢, 井部俊子, 山内豊明 監修, ベイツ診察法 第2版(日本語版), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015. 藤崎郁,『フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版』, 学研メディカル秀潤社, 2017 小野田千枝子監修, 高橋照子, 芳賀佐和子他 編集, 実践　フィジカルアセスメント, 金原出版株式会社,2008. 古谷伸之 編集,診察と手技が見える〈1〉第2版,メディックメディア, 2007 花田妙子, 山内豊明, 中木高夫 監訳, ヘルス・フィジカルアセスメント,上下巻,日総研,1998. 増山純二、苑田裕樹, 急変時、何をみる？どう判断する？病棟ナースの臨床推論, 医学書院, 2023.
事前・事後学習 留意事項	主体的な参加を期待する。 e-learning教材を十分に活用する。テストは必ず実施する。 解剖生理などは事前学習すると共にフィジカルイグザミネーションの技術は参考図書を用いて予習しておく。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
臨床薬理学	講義	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	加藤 裕久、国分秀也、佐野 和美、渡邉 眞理、 *伊藤 慎介、*岩澤 孝昌、*岩波 慶一、*津久田 純平、*坪谷 綾子、 *中薗 健一、*濱田 優、*前田 幹広、*村石 真起夫、*吉田 捻 （*：e-learning科目教員）

授業概要

救急応急処置、症状調節、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術を学ぶ（e-learningを含む科目である）。

到達目標

1）臨床の場において、正しく医薬品を使用するために必要となる臨床薬理学の基礎知識を学び、対象患者の治療薬使用の判断の根拠、用い方を説明できる。
2）薬剤投与後の患者モニタリングの意義を説明できる。
3）患者の服薬管理能力が向上するような服薬に関する説明・観察・指導などが説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	臨床薬理学とは	臨床薬理学の概論について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	国分 秀也
2	医薬品の適正使用Ⅰ 個体差の要因	医薬品の適正使用について、主に患者ごとの個体差の要因について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	国分 秀也
3	医薬品の適正使用Ⅱ 血中薬物濃度の臨床的意義と役割	医薬品の適正使用について、血中薬物濃度と臨床所見との対比の観点からその意義と役割について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	佐野 和美
4	医薬品の適正使用Ⅲ PK/PDの応用：抗悪性腫瘍薬、など	医薬品の適正使用について、代表的な抗悪性腫瘍薬の作用機序および体内動態を例に、体内動態と効果・毒性との関係（PK／PD理論とその応用例）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	佐野 和美
5	医薬品の適正使用Ⅴ 特別な配慮を要する医薬品、相互作用、注射薬の配合変化、など	医薬品の適正使用について、臨床の場において特に特別な配慮を要する医薬品、相互作用、注射薬の配合変化について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加藤 裕久
6	臨床における適切な薬物使用の実際 循環器系作用薬 虚血性心疾患の治療薬	臨床における適切な薬物使用の実際について循環器系作用薬について理解を深める。【e-learning】	＊村石 真起夫
7	臨床における適切な薬物使用の実際 循環器系作用薬 高血圧の薬物治療	臨床における適切な薬物使用の実際について循環器系作用薬について理解を深める。【e-learning】	＊前田 幹広
8	臨床における適切な薬物使用の実際 循環器系作用薬 不整脈の薬物治療	臨床における適切な薬物使用の実際について循環器系作用薬について理解を深める。【e-learning】	＊吉田 捻 ＊岩澤 孝昌

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	臨床における適切な薬物使用の実際 呼吸器系作用薬 肺炎の薬物治療	臨床における適切な薬物使用の実際について、呼吸器系作用薬について理解を深める【e-learning】	＊濱田 優
１０	臨床における適切な薬物使用の実際 消化器系作用薬 便秘・下痢	臨床における適切な薬物使用の実際について、消化器系作用薬について理解を深める。【e-learning】	＊坪谷 綾子
１１	臨床における適切な薬物使用の実際 内分泌・代謝系作用薬糖尿病の薬物治療	臨床における適切な薬物使用の実際について、内分泌・代謝系作用薬について理解を深める。【e-learning】	＊伊藤 慎介
１２	臨床における適切な薬物使用の実際 抗リウマチ・アレルギー薬	臨床における適切な薬物使用の実際について、抗リウマチ・アレルギー薬について理解を深める。【e-learning】	＊岩波 慶一
１３	臨床における適切な薬物使用の実際 感染症	臨床における適切な薬物使用の実際について、抗菌薬治療の概要について理解を深める。【e-learning】	＊中薗 健一
１４	臨床における適切な薬物使用の実際 敗血症	臨床における適切な薬物使用の実際について、敗血症治療薬の概要について理解を深める。【e-learning】	＊津久田 純平
１５	生物薬剤の原理と使用の実際・薬物療法におけるチーム医療と看護師の役割 まとめと統合討議	これまでの授業の内容を踏まえて、生物薬剤（医薬品が生体に投与され、効果・副作用が発現するまで の過程、血中薬物濃度の動きを考える意義）の原理とその使用の実際について理解を深める。また投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術を深める。薬物療法におけるチーム医療と看護師の役割について討議を行う。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	e-learningは該当科目を全て受講する。その他は、プレゼンテーション及び討議への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。
教科書	適時提示する。
参考図書 参考WEBページ	適時提示する。
事前・事後学習 留意事項	主体的な参加を期待する。e-learningを十分に活用する。e-learningテストは必ず実施する。 事前に基本的事項として薬の代謝・排泄に関わる解剖生理は復習しておくこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

Ⅲ　専門科目（健康増進・予防領域）

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
在宅・公衆衛生学特論Ⅰ	講義	選択	石川 眞里子
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（30時間）	15回	1年前期	石川 眞里子、倉田 慶子

授業概要

低出生体重児の増加および出生後より障害を抱えて生活する子どもの割合の漸増により、医療的ケア児の在宅支援および教育の保障などが進められている。また、少子化対策の一環において子ども・家族への地域包括ケアが進められており、小児の在宅医療体制の整備に留まらない保健・福祉制度の整備は喫緊の課題となっている。本科目では、医療的ケア児の急性期から慢性期のケアや支援について医療的ケアから健康の維持・増進、疾病の悪化防止や合併症予防、セルフケアの確立の観点から課題を総合的に理解し、小児医療・保健に対応する小児看護のアドバンスな実践と政策提言について学修する。

到達目標

1）医療的ケア児の増加の背景とその支援について概要を述べることができる。
2）小児看護・小児保健に携わった経験から医療的ケア児の課題を明確にし、文献購読によりテーマに応じた討論ができる。
3）医療的ケア児等のセルフケア支援をするために、セルフケア理論の概要を理解し、支援の在り方を考察できる。
4）医療的ケア児の成長発達の評価と発達を促進できるようになるために、文献等で学修を深め考察できる。
5）医療的ケア児が地域で生活するために必要な支援について理解し、チーム医療における看護者としての役割について考察できる。
6）医療的ケア児の成人医療への移行(トランジション)について文献検討し、考察できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス 小児医療・保健における課題	自らの研究テーマと関連させて、小児医療・小児保健の領域における課題を明らかにする。【講義】【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
2	小児医療における課題①小児期特有の内科的疾患もつ子ども・家族への支援	小児医療の歴史的背景の中で小児内科的疾患の治療の変遷と子ども・家族支援の変遷を文献等から概観し討論する。【講義】【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
3	小児医療における課題②先天性外科の疾患もつ子ども・家族への支援	外科医療の歴史的背景の中で小児外科疾患の治療の変遷と子ども・家族支援の変遷を文献等から概観し、討論する。【講義】【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
4	小児医療における課題③小児慢性疾患の子どもと家族のへの在宅支援	医療的ケア児と家族に対する在宅支援とチーム医療を文献等から概観し討論する。【講義】【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
5	小児保健における課題①子育てと乳幼児期の健康問題	母子保健の歴史と子育て支援の変遷、乳児期の健康問題(発育不良、虐待等)について文献等から概観し討論する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
6	小児保健における課題②学童期の健康問題	小児保健の歴史と学童期の健康問題(不登校、自殺、体力低下等)について文献等から概観する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
7	小児保健における課題③思春期・青年期の健康問題	小児保健における思春期の健康問題(不登校、自殺)について文献等から概観する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
8	小児看護における発達の評価①	乳幼児期の発達の評価(遠城寺式乳幼児発達評価・デンバー発達評価)について学び、評価方法と支援について検討する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	小児看護における発達の評価②	学童期以降の発達評価と関わりの工夫、支援体制について文献等から概観する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
１０	セルフケア理論の概要①オレムのセルフケア理論	オレムのセルフケア理論について学習し概念を理解する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
１１	セルフケア理論の概要②小児のセルフケア理論	小児のセルフケア理論について、文献等から概観し、概念と課題を理解する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
１２	子どもの発達と家族支援①トランジションの課題	慢性疾患の子どもと家族が成人医療への移行(トランジション)をスムースに進める上での課題を明らかにする。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
１３	子どもの発達と家族支援②トランジションへの対応	慢性疾患の子どもと家族が成人医療への移行(トランジション)をスムースに進めるための要因を明らかにし、対応について検討する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
１４	子どもの発達と家族支援③トランジションへの実践のための方略	慢性疾患の子どもと家族が成人医療への移行(トランジション)をスムースに進める方略を検討する。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子
１５	まとめ　自身の研究テーマの中心概念の検討	本授業のまとめを実施し、学びの統括と共有を試み、自身の研究テーマの中心概念について理解を深める。【ディスカッション】	石川 眞里子 倉田 慶子

評価	授業への参加度・プレゼンテーション（50%）レポート（50%）
教科書	適宜、テーマに沿って文献検索を行う。
参考図書 参考WEBページ	必要に応じた図書を適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	事前に講義関連や自己の文献検索を行い、論文抄読して概要をまとめて講義に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
在宅・公衆衛生学特論Ⅱ	講義	選択	小林 紀明
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	小林 紀明、澤井 美奈子、東村 志保

授業概要

地域で暮らす個人・家族、集団への看護を考える基盤となる最新の知識及び研究の動向を理解する。また豊かな発想力を養い、在宅・公衆衛生分野における支援・協働対象となる人々の現状に対し、支援・協働の内容や方法を考察する。また健康と生活環境のアセスメント、実践やキャリアを可視化する諸理論・モデルを学ぶ。以上を通し、在宅・公衆衛生分野における管理や施策化を含む実践・研究及び教育能力を高める。

到達目標

1）地域で暮らす個人への看護に関する最新知識や研究の動向を探る。
2）地域で暮らす家族を対象とした看護に関する最新の研究の動向を探る。
3）地域で暮らす集団（産業・学校等）を対象とした看護に関する最新の研究の動向を探る。
4）環境のアセスメントと看護との関連について理解する。
5）課題や研究に取り組むために、基礎となる理論やモデルについて理解し、活用することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	科目の目的と進め方、自己紹介等	小林 紀明
2	在宅看護に関する研究の動向1	在宅看護に関連す最新の研究の動向について（論文クリティーク）	東村 志保
3	在宅看護に関する研究の動向2	在宅看護に関連す最新の研究の動向について（論文クリティーク）	東村 志保
4	地域で暮らす個人/家族をとらえる理論	ICFモデル　家族ケア理論	小林 紀明
5	ヒューマンサービス領域の研究1	M-GTA：プロセス的な現象をとらえるとは	小林 紀明
6	ヒューマンサービス領域の研究2	M-GTA：社会的相互作用と理論生成	小林 紀明
7	海外の動きと理論1	海外の在宅看護の動向と理論	小林 紀明
8	教育・人材育成に関する理論1	教育システム	小林 紀明

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	まとめ1	振り返りとまとめ、各自の今後の展望について（講義・ディスカッション）	小林 紀明
１０	公衆衛生看護の役割と課題	他分野における公衆衛生看護の役割と課題について （講義・ディスカッション）	澤井 美奈子
１１	公衆衛生看護に関する研究の動向1	公衆衛生看護に関連す最新の研究の動向について（論文クリティーク）	澤井 美奈子
１２	公衆衛生看護に関する動向と理論	国内外における公衆衛生看護・地域看護分野の各種理論	澤井 美奈子
１３	教育・人材育成に関する理論2	地域で活動する看護職のキャリアデザイン、キャリアラダー	澤井 美奈子
１４	公衆衛生看護に関する研究の動向2	公衆衛生看護に関連す最新の研究の動向について（論文クリティーク）	澤井 美奈子
１５	まとめ2	振り返りとまとめ、各自の今後の展望について（講義・ディスカッション）	澤井 美奈子

評価	発表(資料とプレゼンテーション)40%、レポート60%
教科書	特になし
参考図書 参考WEBページ	上田 敏（2005）. ICF(国際生活機能分類)の理解と活用　―人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか―. きょうされん 障害者福祉研究会（2002）. ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版. 中央法規出版 木下康仁（2021）. 定本M-GTA―実践の理論家をめざす質的研究方法論. 医学書院 唐田順子（2023）. 乳幼児虐待予防のための多機関連携のプロセス研究. 遠見書房 木下康仁（2017）. ライブ講義M-GTA　実践的質的研究法. 弘文堂 木下康仁（2009）. 質的研究と記述の厚み　M-GTA・事例・エスノグラフィー. 弘文堂 金川 克子（2007）. コミュニティアズパートナー―地域看護学の理論と実際. 医学書院 佐伯 和子（2018）. 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイドアセスメント 第2版. 医歯薬出版 福田 洋、江口 泰正（2016）. ヘルスリテラシー :健康教育の新しいキーワード. 大修館書店 田中 治彦ほか（2016）. SDGsと開発教育:持続可能な開発目標のための学び. 学文社 ローレンス・W. グリーン（2005）. 実践ヘルスプロモーション―PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価. 医学書院 金井 壽宏（2002）. 働くひとのためのキャリア・デザイン. PHP研究所 株式会社キャンサースキャン：諸外国における訪問看護制度についての調査研究事業報告書（平成25年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業）　他、必要時提示する。
事前・事後学習 留意事項	地域・在宅・公衆衛生看護に関連する理論やモデルについて事前学習して臨むこと。事後には、各回でモデルや理論を用いた論文購読や実践の分析を行い、学修を深める。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
在宅・公衆衛生学演習	演習	選択	石川 眞里子
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
4単位（60時間）	30回	1年後期	石川 眞里子、倉田 慶子、小林 紀明、澤井 美奈子

授業概要

在宅・公衆衛生看護学の各フィールドにおける実践、既存の研究やフィールドワークを踏まえ、自らの課題を明確化する。それに対する研究方法を検討しながら専門職としての探究能力を養う。また、他者とのコミュニケーションを通して自らの課題を深めると同時に、自分の意見を正確に他者に伝えたり表現したりする能力の向上を図る。

到達目標

1）既存の研究の検討やフィールドワークを通して、在宅・公衆衛生看護分野の課題を根拠と共に説明できる。
2）各専門活動領域における課題の解決、改善に向けた方策を検討することができる。
3）在宅・公衆衛生看護の課題や実践について、適切な方法で発表し、議論することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	演習のねらいと進め方	石川 眞里子 倉田 慶子 小林 紀明 澤井 美奈子
2	文献レビュー・フィールドワーク計画①	自己の研究課題を踏まえ、在宅・公衆衛生看護に関する文献学習を行い、フィールドワークの計画を立てる。	
3	文献レビュー・フィールドワーク計画①	自己の研究課題を踏まえ、在宅・公衆衛生看護に関する文献学習を行い、フィールドワークの計画を立てる。	
4	フィールドワーク計画の発表	フィールドワーク計画について発表・討議し、効果的な活動ができるよう修正する。	
5	フィールドワークの実際①-1	大学周辺地域・自身の住まいに近いフィールドおよび勤務場所等において、地域・在宅で生活する人々の暮らしと保健福祉医療システムの現状の情報収集を行う。	
6	フィールドワークの実際①-2	大学周辺地域・自身の住まいに近いフィールドおよび勤務場所等において、地域・在宅で生活する人々の暮らしと保健福祉医療システムの現状の情報収集を行う。	
7	フィールドワークの実際①-3	大学周辺地域・自身の住まいに近いフィールドおよび勤務場所等において、地域・在宅で生活する人々の暮らしと保健福祉医療システムの現状の情報収集を行う。	
8	フィールドワークの実際①-4	大学周辺地域・自身の住まいに近いフィールドおよび勤務場所等において、地域・在宅で生活する人々の暮らしと保健福祉医療システムの現状の情報収集を行う。	
9	フィールドワークの実際①-5	大学周辺地域・自身の住まいに近いフィールドおよび勤務場所等において、地域・在宅で生活する人々の暮らしと保健福祉医療システムの現状の情報収集を行う。	
10	フィールドワーク①のまとめ	フィールドワークで得られた情報のアセスメントから、地域における人々の生活と保健福祉医療システムの現状をまとめる。	
11	フィールドワーク①のまとめ	フィールドワークで得られた情報のアセスメントから、地域における人々の生活と保健福祉医療システムの現状をまとめる。	
12	フィールドワーク①の発表・討論	フィールドワークで得られた情報のアセスメントから、地域における人々の生活と保健福祉医療システムの現状をまとめる。発表と討議を通して研究課題との関連を明確にする。	
13	フィールドワーク①の発表と討論	フィールドワークで得られた情報のアセスメントから、地域における人々の生活と保健福祉医療システムの現状をまとめる。発表と討議を通して研究課題との関連を明確にする。	
14	文献レビュー・フィールドワーク計画②	フィールドワーク①の結果および自己の研究課題を踏まえて文献学習を追加し、フィールドワークの計画②を立てる。	
15	文献レビュー・フィールドワーク計画②	フィールドワーク①の結果および自己の研究課題を踏まえて文献学習を追加し、フィールドワークの計画②を立てる。	
16	フィールドワークの実際②-1	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	

17	フィールドワークの実際②-2	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	石川 眞里子 倉田 慶子 小林 紀明 澤井 美奈子
18	フィールドワークの実際②-3	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	
19	フィールドワークの実際②-4	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	
20	フィールドワークの実際②-5	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	
21	フィールドワークの実際②-6	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	
22	フィールドワークの実際②-7	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	
23	フィールドワークの実際②-8	自己の研究課題によりフォーカスし、大学周辺および活動領域に関連の深い地域や施設でのフィールドワークを行う。	
24	フィールドワーク②のまとめ	フィールドワークで得た情報やデータを自己の研究課題と関連させて整理し、発表資料を作成する。	
25	フィールドワーク②のまとめ	フィールドワークで得た情報やデータを自己の研究課題と関連させて整理し、発表資料を作成する。	
26	フィールドワーク②の発表と討議	これまでの成果を発表し討議を行う。	
27	フィールドワーク②の発表と討議	これまでの成果を発表し討議を行う。	
28	文献レビューとまとめ	研究課題を明確にした上で、プレゼンテーションに必要な文献を追加検討し発表資料を作成する。	
29	文献レビューとまとめ	研究課題を明確にした上で、プレゼンテーションに必要な文献を追加検討し発表資料を作成する。	
30	発表と討議	研究課題及び計画書(仮)の発表と討議	

評価	発表(資料とプレゼンテーション) 50%、フィールドワークと成果 50%
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	中村好一(2012). 基礎から学ぶ楽しい疫学. 医学書院 桜井 厚(2002). インタビューの社会学—ライフストーリーの聞き方. せりか書房 佐藤 郁哉(2002). フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる. 新曜社白水 智(2015). 古文書はいかに歴史を描くのか フィールドワークがつなぐ過去と未来 (NHKブックス). NHK出版 鵜飼 修、近江環人地域再生学座編 (2012). 地域診断法—鳥の目、虫の目、科学の目. 新評論 筧 裕介(2013). ソーシャルデザイン実践ガイド——地域の課題を解決する7つのステップ. 英治出版 箕浦康子編著(1999). フィールドワークの技法と実際 マイクロ・エスノグラフィー入門』. ミネルヴァ書房
事前・事後学習 留意事項	地域・在宅・公衆衛生看護に関連する幅広い情報について調べて臨むこと。事後には、各回での内容を整理し学修を深める。効果的な発表と議論ができるよう事前・事後学習を行うこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
女性保健学特論Ⅰ	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	山﨑 圭子

授業概要

女性およびその家族の健康支援にむけて、性と生殖に関する歴史を踏まえ、ウィメンズヘルスに関する理論や概念への理解を深め、女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）の健康問題と、それに影響を及ぼす社会の動向、女性の意識の変化、保健施策などを分析・検討する。

到達目標

1）リプロダクティブヘルス・ライツ、ウィメンズヘルスの歴史的背景について理解し、説明、記述できる。
2）ウィメンズヘルスに関する概念や理論について理解し、説明、記述できる。
3）理論や概念を活用して事例を考察し、女性の健康の保持増進をはかるためのケアについて考察できる。
4)女性の健康に影響をおよぼすライフサイクル各期の健康問題と影響要因、ケアについて説明、記述できる。
5）ライフサイクル各期の女性への健康支援について文献検討し、考察できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	科目ガイダンス，ウィメンズヘルスの変遷	山﨑 圭子
2	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション他	山﨑 圭子
3	ウィメンズヘルスに関連する理論	セルフケア理論、他	山﨑 圭子
4	ウィメンズヘルスに関連する概念	エンパワメント、危機・喪失に関する概念、意思決定モデル	山﨑 圭子
5	ライフサイクルと健康問題	ライフサイクル各期の健康問題の特徴	山﨑 圭子
6	思春期女性の健康問題①	思春期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（月経障害，PMSなど）	山﨑 圭子
7	思春期女性の健康問題②	思春期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（月経障害，PMSなど）	山﨑 圭子
8	思春期女性の健康問題③	思春期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（月経障害，PMSなど）	山﨑 圭子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	成熟期女性の健康問題①	成熟期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（子宮内膜症，子宮腺筋症，子宮筋腫など）	山﨑 圭子
１０	成熟期女性の健康問題②	成熟期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（子宮内膜症，子宮腺筋症，子宮筋腫など）	山﨑 圭子
１１	成熟期女性の健康問題③	成熟期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（子宮内膜症，子宮腺筋症，子宮筋腫など）	山﨑 圭子
１２	更年期女性・老年期女性の健康問題①	更年期女性・老年期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（更年期障害，子宮がんなど）	山﨑 圭子
１３	更年期女性・老年期女性の健康問題②	更年期女性・老年期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（更年期障害，子宮がんなど）	山﨑 圭子
１４	更年期女性・老年期女性の健康問題③	更年期女性・老年期女性に多く見られる健康問題の特徴，影響要因，看護とディスカッション（更年期障害，子宮がんなど）	山﨑 圭子
１５	まとめ	講義内容のまとめ	山﨑 圭子

評価	プレゼンテーション50%、レポート課題50%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考図書 参考WEBページ	1)助産師基礎教育テキスト 2024年版 第2巻ウィメンズヘルスケア/吉沢豊予子編/日本看護協会出版会/ISBN:978-4-818-02612-4 2)基礎助産学[2]母子の基礎科学第6版 /我部山キヨ子・武谷雄二・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04204-8 3)助産学講座　助産診断・技術学Ⅰ第6版/堀内成子・片岡弥惠子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04226-0 4)基礎助産学[4]母子の心理・社会学第6版/我部山キヨ子・菅原ますみ編/医学書院/ISBN:978-4-260-05003-6
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
女性保健学特論Ⅱ	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	山﨑 圭子 ・ 望月 千夏子 ・ 日下 桃子

授業概要

リプロダクテイブヘルスに関する健康問題、生命倫理や多様な性についてを文献検討を介して理解を深め、女性やパートナーなどの健康支援に向けた看護や支援のあり方について探究する。

到達目標

1）妊娠・出産の変遷を理解し、女性の人権と出産について説明できる。
2）リプロダクティブヘルスを取りまく生命倫理を理解し、倫理問題への対応方法を説明できる。
3）リプロダクティブヘルスに関する論文をクリティークし、説明、記述できる。
4）多様な性について理解を深め、支援について考察できる。
5）リプロダクティブヘルスに関する健康課題について説明、記述し、支援について考察できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	科目ガイダンス	山﨑 圭子
2	出産の変遷	文化と出産, 日本の出産の変遷, 女性の人権と出産	山﨑 圭子
3	生命倫理	生命倫理とは、倫理問題への対応方法	山﨑 圭子
4	倫理的問題への対応	倫理問題の事例検討	山﨑 圭子
5	多様な性	多様な性の理解と支援	山﨑 圭子
6	リプロダクティブヘルスに関する論文の抄読①	リプロダクティブヘルスに関する健康問題で関心のあるテーマを抽出し、文献のクリティーク、ディスカッションを行う。質的研究、量的研究各1編 （不妊症、不育症、出生前検査、がん生殖、状に対する暴力など）	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
7	リプロダクティブヘルスに関する論文の抄読②	リプロダクティブヘルスに関する健康問題で関心のあるテーマを抽出し、文献のクリティーク、ディスカッションを行う。質的研究、量的研究各2編 （不妊症、不育症、出生前検査、がん生殖、状に対する暴力など）	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
8	リプロダクティブヘルスに関する論文の抄読③	リプロダクティブヘルスに関する健康問題で関心のあるテーマを抽出し、文献のクリティーク、ディスカッションを行う。質的研究、量的研究各3編 （不妊症、不育症、出生前検査、がん生殖、状に対する暴力など）	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	リプロダクティブヘルスに関する論文の抄読④	リプロダクティブヘルスに関する健康問題で関心のあるテーマを抽出し、文献のクリティーク、ディスカッションを行う。質的研究、量的研究各4編 （不妊症、不育症、出生前検査、がん生殖、状に対する暴力など）	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
１０	リプロダクティブヘルスに関する論文の抄読⑤	リプロダクティブヘルスに関する健康問題で関心のあるテーマを抽出し、文献のクリティーク、ディスカッションを行う。質的研究、量的研究各5編 （不妊症、不育症、出生前検査、がん生殖、状に対する暴力など）	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
１１	リプロダクティブヘルスに関する論文の抄読⑥	リプロダクティブヘルスに関する健康問題で関心のあるテーマを抽出し、文献のクリティーク、ディスカッションを行う。質的研究、量的研究各6編 （不妊症、不育症、出生前検査、がん生殖、状に対する暴力など）	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
１２	研究課題に関する論文の抄読①	研究の関心テーマに関する文献検討　プレゼンテーションと討議	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
１３	研究課題に関する論文の抄読②	研究の関心テーマに関する文献検討　プレゼンテーションと討議	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
１４	研究課題に関する論文の抄読③	研究の関心テーマに関する文献検討　プレゼンテーションと討議	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子
１５	まとめ	講義内容のまとめ	山﨑 圭子

評価	プレゼンテーション40%、レポート課題60%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考図書 参考WEBページ	1)基礎助産学[1]　助産学概論　第6版/我部山キヨ子・安達久美子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04708-1 2)助産学講座　助産診断・技術学Ⅰ第6版/堀内成子・片岡弥惠子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04226-0 3)基礎助産学[4]母子の心理・社会学第6版/我部山キヨ子・菅原ますみ編/医学書院/ISBN:978-4-260-05003-6
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
女性保健学演習	演習	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	櫻井 好美、望月 千夏子、横山　顕子、山﨑 圭子

授業概要

ヘルスプロモーションの観点から、女性の生涯において必要な健康教育を学ぶ。思春期・成熟期・更年期にある女性に対して、ライフサイクル各期の特徴を踏まえた健康教育の指導案を立案し、実際に指導を行う。これらを通して、ヘルスプロモーションを促進させるための基本的な能力を養う。自らの研究課題についても明確化する。

到達目標

1）ヘルスプロモーションの基本的な考え方、及びウィメンズヘルスを考えるときに必要な理論について説明できる。
2）家族計画の目的や受胎調節方法を理解し、産後の家族計画指導を立案、実施・評価できる。
3）将来妊娠を希望する成熟期女性への健康教育の指導案を作成し、実施・評価できる。
4）女性の健康な体づくりの必要性を理解し、実施できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	コースガイダンス	山﨑 圭子
2	女性の健康と理論	ヘルスプロモーションとは	山﨑 圭子
3	女性の健康とヘルスプロモーション	プリシード・プロシードモデル　ヘルスビリーフモデル等の行動変容に関する理論等を調べ、プレゼンテーションを行う。	望月 千夏子
4	女性の健康とヘルスプロモーション	プリシード・プロシードモデル　ヘルスビリーフモデル等の行動変容に関する理論等を調べ、プレゼンテーションを行う。	望月 千夏子
5	家族関係や出産の変化	家族の概念、出産・育児に関する意識とその変化	山﨑 圭子
6	親になるプロセスの理解	妊娠期の適応理論や母親役割獲得に獲得する理論、母子の愛着理論等を調べ、プレゼンテーションを行う。親になることや子どもをもつ意味・価値についてディスカッションを行う。	山﨑 圭子 望月 千夏子
7	性の成熟と性行動	性意識と性行動の発達過程　健康教育の必要性と時期について検討	山﨑 圭子
8	健康教育の指導案作成	健康教育の目的、指導案作成のプロセス　具体的に指導目的，到達目標，対象，指導方法，指導上の留意点を検討	望月 千夏子
9	性教育	性教育の基本的概念，本邦の歴史，国際的動向	望月 千夏子
１０	家族計画	家族計画の基本的概念，家族計画の目的・時期・方法	望月 千夏子
１１	受胎調節法（バースコントロール）	避妊法の種類と方法，各避妊法の長所と短所	望月 千夏子
１２	家族計画指導案作成と実際	産後1か月健診に来た褥婦を対象にした、家族計画指導案及び指導媒体の作成を行い、実施・評価を行う。	望月 千夏子
１３	家族計画指導案作成と実際	産後1か月健診に来た褥婦を対象にした、家族計画指導案及び指導媒体の作成を行い、実施・評価を行う。	望月 千夏子
１４	家族計画指導案作成と実際	産後1か月健診に来た褥婦を対象にした、家族計画指導案及び指導媒体の作成を行い、実施・評価を行う。	望月 千夏子
１５	家族計画指導案作成と実際	産後1か月健診に来た褥婦を対象にした、家族計画指導案及び指導媒体の作成を行い、実施・評価を行う。	望月 千夏子
１６	思春期の対象への健康教育	プレコンセプションケアとして、思春期を対象にした性教育の内容を検討し、指導案と指導媒体を作成する。学生相互で実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１７	思春期の対象への健康教育	プレコンセプションケアとして、思春期を対象にした性教育の内容を検討し、指導案と指導媒体を作成する。学生相互で実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
１８	思春期の対象への健康教育	プレコンセプションケアとして、思春期を対象にした性教育の内容を検討し、指導案と指導媒体を作成する。学生相互で実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
１９	思春期の対象への健康教育の実際	思春期を対象に作成した健康教育の指導案を、ピアカウンセリング手法を用いて実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
２０	思春期の対象への健康教育の実際	思春期を対象に作成した健康教育の指導案を、ピアカウンセリング手法を用いて実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
２１	女性の健康とライフプラン	ライフプラン，キャリアプラン	山﨑 圭子
２２	妊娠前の成熟期女性への健康教育の指導案作成と実際	20代前半の助成を対象に、リプロダクティブヘルスに基づいた（子どもを希望するときにすみやかに妊娠できるための）健康教育の指導案を作成する。大学生に実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
２３	妊娠前の成熟期女性への健康教育の指導案作成と実際	20代前半の助成を対象に、リプロダクティブヘルスに基づいた（子どもを希望するときにすみやかに妊娠できるための）健康教育の指導案を作成する。大学生に実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
２４	妊娠前の成熟期女性への健康教育の指導案作成と実際	20代前半の助成を対象に、リプロダクティブヘルスに基づいた（子どもを希望するときにすみやかに妊娠できるための）健康教育の指導案を作成する。大学生に実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
２５	妊娠前の成熟期女性への健康教育の指導案作成と実際	20代前半の助成を対象に、リプロダクティブヘルスに基づいた（子どもを希望するときにすみやかに妊娠できるための）健康教育の指導案を作成する。大学生に実施し、評価する。	山﨑 圭子 望月 千夏子
２６	女性の健康な体づくり	クリニカルリーズニング，骨盤ケア，腰痛と運動療法，産後のコンディショニング	櫻井 好美
２７	女性の健康な体づくりの実際	クリニカルリーズニング，骨盤ケア，産後のコンディショニングの演習	櫻井 好美
２８	女性の健康な体づくりの演習	クリニカルリーズニング，骨盤ケア，産後のコンディショニングの演習	櫻井 好美
２９	女性の健康と東洋医学	東洋医学の基礎，鍼灸，漢方	横山 顕子
３０	まとめ	講義・演習内容のまとめ	山﨑 圭子

評価	プレゼンテーション40%、指導案作成と実施40%、レポート課題20%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考図書 参考WEBページ	1)助産学講座　助産診断・技術学Ⅰ第6版/堀内成子・片岡弥惠子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04226-0 2)基礎助産学[4]母子の心理・社会学第6版/我部山キヨ子・菅原ますみ編/医学書院/ISBN:978-4-260-05003-6
事前・事後学習 留意事項	健康教育の指導案の作成と実際では、関連部署等との調整、対象者の募集等も含めて実施する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
精神保健医療学特論Ⅰ	講義	選択	片山 典子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	片山 典子

授業概要

精神看護学の基盤となる理論や概念を理解した上で、地域で生活する対象特性に合わせた包括的な看護援助について教授する。また国内外の精神保健福祉活動の変遷と精神保健医療福祉制度の法制度を理解し、我が国の精神保健医療福祉活動の課題と今後の発展可能性について探究する。

到達目標

1）精神看護学の基盤となる理論を学び、対象を理解するために理論を活用することができる。
2）国内外の精神保健医療福祉の変遷を理解する。
3）国内外の精神保健医療福祉制度の歴史と法体制を理解する。
4）わが国の精神保健医療福祉活動の課題と今後の発展可能性を論じることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	精神看護の基盤となる諸理論①	ストレングスモデルの検討 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
2	精神看護の基盤となる諸理論②	リカバリーモデルの検討 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
3	精神看護の基盤となる諸理論③	エンパワメント・アプローチの検討 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
4	精神看護の基盤となる諸理論④	Bio-Psycho-Socialモデルの検討 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
5	精神看護の基盤となる諸理論⑤	セルフケアモデルの検討 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
6	日本の精神医療保健福祉の歴史的変遷	日本の精神医療保健福祉の歴史的変遷について参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
7	日本の精神医療保健福祉に関する法律・制度	日本の精神医療保健福祉に関する法律・制度の現状と課題について参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
8	海外の精神保健医療福祉制度①	海外の精神保健医療福祉制度の歴史と法律・制度とその背景 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	海外の精神保健医療福祉制度②	海外の精神保健医療福祉制度の歴史と法律・制度とその背景 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
１０	精神障害者の人権擁護	精神障害者における人権擁護と倫理的問題について吟味し、倫理的課題を検討する。	片山 典子
１１	精神医療保健福祉に関する法制度①	精神保健福祉法の変遷について自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
１２	精神医療保健福祉に関する法制度②	障害者総合支援法の変遷について自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	片山 典子
１３	地域で生活する精神障害を抱えた人への支援	地域で生活する精神障害を抱えた人への先駆的取り組みを行っている支援機関、サービスの実践例から、これからの看護のありようを検討する。	片山 典子
１４	精神障害の就労に関する法制度	精神障害者の就労に関する法制度を概観し、これからの就労支援のありようを検討する。	片山 典子
１５	日本の精神保健医療福祉における課題と方略	日本の精神保健医療福祉における現状の課題と取り組むべき方略について検討する。	片山 典子

評価	各自の課題についてのプレゼンテーション内容50%、レポート50%により評価する。
教科書	適宜、関連資料を配布する。
参考図書 参考WEBページ	ストレングスモデル　リカバリー志向の精神保健福祉サービス〔第3版〕 チャールズ・A・ラップ/リチャード・j・ゴスチャ著　田中英樹監訳　金剛出版 リカバリー――希望をもたらすエンパワーメントモデル　カタナ・ブラウン（編集），　パトリシア・ディーガン（その他），　メアリー・エレン・コープランド（その他），　坂本 明子（翻訳）金剛出版 リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術　萱間真美著　医学書院 萱間真美・野田文隆編，精神看護学　こころ・からだ・かかわりのプラクティス　改訂第2版　１　精神保健・多職種のつかがり，南江堂 萱間真美・野田文隆編，精神看護学　こころ・からだ・かかわりのプラクティス　改訂第2版　２　臨床で活かすケア，南江堂
事前・事後学習 留意事項	分担課題とプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを行い、展開する。 プレゼンテーションの担当部分は、初回に提示する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
精神保健医療学特論Ⅱ	講義	選択	片山 典子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	片山 典子、小野寺悠斗、渡部 李菜

授業概要

地域で生活する精神看護の対象理解にあたり、精神の健康と関わる諸理論、精神的健康生活状態の評価について概観し、地域移行支援や地域定着支援について、事例をもとにその対象特性に合わせた包括的な看護援助について学修する。さらに、家族支援に関する基礎理論や触法精神障害者等の法制度を踏まえ、患者を支援する医療・看護における連携協働の方略について探究する。

到達目標

1）健康生活評価ならびに援助に必要な理論を理解する。
2）精神状態のアセスメントならびにカウンセリング技法について学び、実践への活用方法について考察することができる。
3）地域移行支援や地域定着支援について、その対象特性に合わせた包括的な看護援助について考察することができる。
4）家族支援に関する基礎理論を踏まえ、家族支援の援助方法について考察することができる。
5）地域で生活する精神看護の対象者を支援する多職種における連携協働の方略について考察することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	精神的健康生活および精神状態に関する理論と技法①	精神的健康生活および精神状態に関する理論と技法 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。	片山 典子
2	精神的健康生活および精神状態に関する理論と技法②	精神的健康生活および精神状態に関する理論と技法 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。	片山 典子
3	ストレス対処モデル・リラクゼーション①	ストレス対処モデル・リラクゼーション 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。	片山 典子
4	ストレス対処モデル・リラクゼーション②	ストレス対処モデル・リラクゼーション 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。	片山 典子
5	カウンセリング技法①	カウンセリング技法を概観し、実践方法について検討する。	片山 典子
6	カウンセリング技法②	カウンセリング技法を概観し、実践方法について検討する。	片山 典子
7	地域における精神障害者とその家族が抱える問題とニーズ	地域における精神障害者とその家族が抱える問題とニーズ 分担課題の自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、理解を深め実践方法について検討する。	片山 典子
8	家族機能に関する諸理論モデルと看護実践への適応	家族機能に関する諸理論・モデルを概観し、実践方法について検討する。	片山 典子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	アディクション問題と地域支援①	アディクション問題における精神保健福祉制度と課題、アディクション問題を抱える人々への地域支援について検討する。	片山 典子 小野寺 悠斗 渡部 李菜
１０	アディクション問題と地域支援②	アディクション問題における精神保健福祉制度と課題、アディクション問題を抱える人々への地域支援について検討する。	片山 典子 小野寺 悠斗 渡部 李菜
１１	多職種連携に関する理論と方法論①	多職種連携に関する理論と方法論 地域移行支援や地域定着支援の現状とニーズについて文献検索し、実践方法について検討する。	片山 典子
１２	多職種連携に関する理論と方法論②	多職種連携に関する理論と方法論 地域移行支援や地域定着支援の現状とニーズについて文献検索し、実践方法について検討する。	片山 典子
１３	地域で生活する精神障害を抱えた人への支援に関する文献検討と討議①	地域で生活する精神障害を抱えた人への支援 各自文献クリティークを行いプレゼンテーション内容を参加者で討議する。	片山 典子
１４	地域で生活する精神障害を抱えた人への支援に関する文献検討と討議②	地域で生活する精神障害を抱えた人への支援 各自文献クリティークを行いプレゼンテーション内容を参加者で討議する。	片山 典子
１５	地域で生活する精神障害を抱えた人への支援に関する文献検討と討議③	現状と今後の課題、方略について検討する。	片山 典子

評価	各自の課題についてのプレゼンテーション内容50%、レポート50%により評価する。
教科書	適宜、関連資料を配布する。
参考図書 参考WEBページ	1）精神看護スペシャリストに必要な理論と技法/日本専門看護師協議会監修,宇佐美しおり・野末聖香/日本看護協会出版会/初版/ISBN978-4-8180-1405-3 2）看護研究 原理と方法/D.F.ポーリット& C.T.ベック(著), 近道潤子(監訳)/医学書院/第2版/ISBN978-4-260-00526-5 3）人はなぜ依存症になるのか―自己治療としてのアディクション―/エドワード・J・カンツィアン, マーク・J・アルバニーズ/星和書店/初版/ISBN978-4-7911-0843-5 4)トラウマとアディクションからの回復 ベストな自分を見つけるための方法/リサ・M・ナジャヴィッツ/金剛出版/初版/ISBN978-4-7724-1741-9 その他適宜、紹介する。
事前・事後学習 留意事項	分担課題とプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを行い、展開する。 プレゼンテーションの担当部分は、初回に提示する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
精神保健医療学演習	演習	選択	片山 典子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	片山 典子、陶山 克洋、小野寺悠斗、渡部 李菜

授業概要

精神看護学の視点から介入技法や看護実践のあり方を先行研究やフィールドワークを踏まえ検討し、自らの研究課題の明確化をはかる。また精神看護学特論Ⅰ・Ⅱを基盤に精神医療保健福祉に関する現状と課題を踏まえ、研究課題の解決に向けて研究方法を探求する。

到達目標

1）精神看護学の視点から文献検討、フィールドワークを踏まえ、自らの研究課題を明確にすることができる。
2）自らの研究課題に沿って、これまでの研究動向、現状と課題、関連する概念や理論を整理することができる。
3）自らの研究課題に沿った研究方法を検討し、研究計画を検討できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	精神看護学における文献クリティーク①	精神看護学における文献クリティークの進め方について概説する。	片山 典子
2	精神看護学における文献クリティーク②	精神に関する健康問題とその関連要因に関する文献検討 各自の関心のあるテーマの文献クリティークに関するプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜
3	精神看護学における文献クリティーク③	精神に関する健康問題とその関連要因に関する文献検討 各自の関心のあるテーマの文献クリティークに関するプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜
4	精神看護学における文献クリティーク④	精神に関する健康問題とその関連要因に関する文献検討 各自の関心のあるテーマの文献クリティークに関するプレゼンテーションに基づき、参加者でディスカッションを行い、検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜
5	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク①（フィールドワークの企画）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度実践看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
6	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク①（フィールドワークの企画）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度実践看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
7	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク①（フィールドワークの企画）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度実践看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
8	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク①（フィールドワークの企画）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度実践看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
9	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１０	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１１	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１２	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１３	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１４	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１５	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク②（フィールドワークの実際）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１６	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク③（フィールドワーク分析）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１７	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク③（フィールドワーク分析）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１８	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク③（フィールドワーク分析）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
１９	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク③（フィールドワーク分析）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
２０	精神保健医療福祉等の施設におけるフィールドワーク③（フィールドワーク分析）	精神保健医療福祉等の施設における精神看護実践から高度専門看護職に求められる課題・援助方法を検討する。	片山 典子
２１	精神看護学における研究方法①	精神看護学における質的研究方法に関する検討 精神の健康問題とその関連要因に関する研究テーマをもとに質的研究方法、分析方法を検討する。	片山 典子
２２	精神看護学における研究方法①	精神看護学における質的研究方法に関する検討 精神の健康問題とその関連要因に関する研究テーマをもとに質的研究方法、分析方法を検討する。	片山 典子
２３	精神看護学における研究方法②	精神看護学における量的研究方法に関する検討 精神の健康問題とその関連要因に関する研究テーマをもとに量的研究方法、分析方法を検討する。	片山 典子 陶山 克洋
２４	精神看護学における研究方法②	精神看護学における量的研究方法に関する検討 精神の健康問題とその関連要因に関する研究テーマをもとに量的研究方法、分析方法を検討する。	片山 典子 陶山 克洋
２５	精神看護学における研究方法③	精神看護学における実験研究に関する検討 精神の健康問題とその関連要因に関する研究テーマをもとに実験研究方法、分析方法を検討する。	片山 典子 陶山 克洋
２６	精神看護学における研究方法③	精神看護学における実験研究に関する検討 精神の健康問題とその関連要因に関する研究テーマをもとに実験研究方法、分析方法を検討する。	片山 典子 陶山 克洋
２７	研究課題および研究方法の検討	自らの研究課題および研究方法に関するプレゼンテーションを行い、参加者でディスカッションをとおして研究計画を検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜
２８	研究課題および研究方法の検討	自らの研究課題および研究方法に関するプレゼンテーションを行い、参加者でディスカッションをとおして研究計画を検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜
２９	研究課題および研究方法の検討	自らの研究課題および研究方法に関するプレゼンテーションを行い、参加者でディスカッションをとおして研究計画を検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜
３０	研究課題および研究方法の検討	自らの研究課題および研究方法に関するプレゼンテーションを行い、参加者でディスカッションをとおして研究計画を検討する。	片山 典子 陶山 克洋 小野寺 悠斗 渡部 李菜

評価	各自の課題についてのプレゼンテーション内容50%、レポート50%により評価する。
教科書	適宜、関連資料を配布する。
参考図書 参考WEBページ	看護研究　原理と方法「第2版」 D.F.ポーリット& C.T.ベック著　近道潤子監訳 その他適宜、紹介する。
事前・事後学習 留意事項	個人課題とプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを行い、展開する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
生活支援医療学特論Ⅰ	講義	選択	山勢 善江
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	山勢 善江

授業概要

急性期看護領域で、ストレスフルな体験をする患者および家族の危機状況をアセスメントし、看護介入するための理論やモデルを理解する。

到達目標

1）理論に基づき急性期看護の対象となる患者や家族の心理社会的特徴を理解する。
2）理論に基づいたアセスメントを基に、急性期看護領域における患者や家族へのケアを考究できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	急性期患者および家族の身体・心理・社会的特徴①	急激な発症・突発的な事故・過大侵襲手術を受ける患者の身体・心理・社会的特徴を学修する。	山勢 善江
2	急性期患者および家族の身体・心理・社会的特徴②	急激な発症・突発的な事故・過大侵襲手術を受ける患者の家族の心理・社会的特徴を学修する。	山勢 善江
3	急性期にある患者・家族を理解するための理論やモデル①	ハンス・セリエのストレス理論について理解し、急性期患者および家族の看護への適用について考察する。	山勢 善江
4	急性期にある患者・家族を理解するための理論やモデル②	ラザルスのストレス・コーピング理論について理解し、急性期患者および家族の看護への適用について考察する。	山勢 善江
5	急性期にある患者・家族を理解するための理論やモデル③	危機に関する概念と危機理論の成り立ち、危機介入の目的と方法について考察する。	山勢 善江
6	急性期にある患者・家族を理解するための理論やモデル④	さまざまな危機モデルを理解し、急性期患者および家族の看護への適用について考察する。	山勢 善江
7	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討①	初療事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
8	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討①	初療事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討②	集中治療事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
１０	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討②	集中治療事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
１１	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討③	救急・集中ケアにおける終末期ケア事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
１２	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討③	救急・集中ケアにおける終末期ケア事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
１３	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討④	救急・集中ケアにおける終末期ケア事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
１４	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討④	予定手術事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江
１５	理論やモデルを用いた急性期看護事例検討④	予定手術事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する。	山勢 善江

評価	出席状況，授業態度などを総合し，到達目標の達成度を評価する。成績評価に占める割合は、出席率と授業態度（ディスカッション）が40%、発表内容が60%とする。
教科書	適宜紹介する。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので、必ず目を通し、質問事項を準備して授業に臨んでください。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
生活支援医療学特論Ⅱ	講義	選択	内藤 亜由美
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	内藤 亜由美、ラウ 優紀子、佐々木 千佳

授業概要

看護援助に関する最新の知見や動向に関する知識を深め、看護の対象の特性や看護場面の現象をアセスメント、看護介入できるための理論やモデルを理解する。

到達目標

1）理論に基づき、慢性期・老年期看護の対象となる患者及び家族の身体・心理・社会的特徴を理解する。
2）理論に基づいたアセスメントを基に慢性期・老年期看護領域の患者や家族へのケアを考究できる。
3）慢性期・老年期看護の分析から自分自身の課題を提示する

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーションと慢性期・老年期の対象の特徴と看護の理解①	1. 科目の進め方のオリエンテーション 2. 慢性期の疾患や老年期の身体的心理的変化の特徴を学修する①	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
2	慢性期・老年期の対象の特徴と看護の理解②	慢性期の疾患や老年期の身体的心理的変化の特徴を学修する②	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
3	慢性期・老年期の対象の特徴と看護の理解③	慢性期の疾患や老年期の身体的心理的変化の特徴を学修する③	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
4	慢性期の患者・家族を理解するための理論やモデル①	ラザルスのストレス・コーピング理論を理解し、慢性期の看護への適用について考察する①	内藤 亜由美
4	慢性期の患者・家族を理解するための理論やモデル②	ラザルスのストレス・コーピング理論を理解し、慢性期の看護への適用について考察する②	内藤 亜由美
6	慢性期の患者・家族を理解するための理論やモデル③	オレムのセルフケア理論を理解し、慢性期の看護への適用について考察する③	内藤 亜由美
7	老年期の患者・家族を理解するための理論やモデル①	エリクソン、ペック、ハビガースト、ニューマンなどの理論を理解し、老年期の看護への適用について考察する①	ラウ 優紀子
8	老年期の患者・家族を理解するための理論やモデル②	離脱理論、活動理論、継続理論などを理解し、老年期の看護への適用について考察する②	ラウ 優紀子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	老年期の患者・家族を理解するための理論やモデル③	幸福論について理解し、老年期の看護への適用について考察する③	佐々木 千佳
１０	理論やモデルを用いた慢性期・老年期看護の事例検討①	慢性期の疾患を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する①	内藤 亜由美
１１	理論やモデルを用いた慢性期・老年期看護の事例検討②	慢性期の疾患を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する②	内藤 亜由美
１２	理論やモデルを用いた慢性期・老年期看護の事例検討①	老年期の疾患や治療を受ける人の事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する①	ラウ 優紀子
１３	理論やモデルを用いた慢性期・老年期看護の事例検討②	老年期の疾患や治療を受ける人の事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する②	ラウ 優紀子
１４	理論やモデルを用いた慢性期・老年期看護の事例検討③	老年期に健康で豊かな生活を送る人の事例を提示し、諸理論やモデルを用いて分析する③	佐々木 千佳
１５	慢性期・老年期看護の理解と課題提示（まとめ）	理論やモデルを活用した看護の分析を行った内容を振り返り、今後に向けて自身の課題を提示する	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳

評価	出席状況、授業態度を統合し、到達目標の達成度を評価する。成績評価の占める割合は授業態度（ディスカッション）40%、レポート・発表60%
教科書	適宜紹介する
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する
事前・事後学習 留意事項	各自、提示物は事前（予定の前の週）に提出して、当日のディスカッションができる体制にしてのぞむこと
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
生活支援医療学特論Ⅲ	講義	選択	山勢 善江
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	山勢 善江

授業概要

急性期看護領域における、倫理的課題について検討する。

到達目標

1）倫理的課題に対する感受性を高めることができる。
2）倫理的課題を解決するための判断力、具体的介入について理解する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション、倫理的課題に対する看護師の役割	急性期看護領域における倫理的諸問題の現状と看護師の役割	山勢 善江
2	自己決定権①	尊厳死、リビングウィル、延命治療の諸相と倫理的問題	山勢 善江
3	自己決定権②	院生によるプレゼンテーション準備	山勢 善江
4	自己決定権①	院生によるプレゼンテーション準備	山勢 善江
5	自己決定権②	院生によるプレゼンテーションとディスカッション	山勢 善江
6	脳死下臓器移植①	脳死下臓器移植で生じる倫理的問題	山勢 善江
7	脳死下臓器移植②	院生によるプレゼンテーション準備	山勢 善江
8	脳死下臓器移植③	院生によるプレゼンテーション準備	山勢 善江

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	脳死下臓器移植④	院生によるプレゼンテーションとディスカッション	山勢 善江
１０	脳死下臓器移植⑤	院生によるプレゼンテーションとディスカッション	山勢 善江
１１	エンド・オブ・ライフケア①	救急・集中ケア領域におけるエンド・オブ・ライフケア	山勢 善江
１２	エンド・オブ・ライフケア②	院生によるプレゼンテーション準備	山勢 善江
１３	エンド・オブ・ライフケア③	院生によるプレゼンテーション準備	山勢 善江
１４	エンド・オブ・ライフケア④	院生によるプレゼンテーションとディスカッション	山勢 善江
１５	エンド・オブ・ライフケア⑤	院生によるプレゼンテーションとディスカッション	山勢 善江

評価	成績評価に占める割合は、出席率と授業態度（ディスカッション）が40%、発表内容が60%とする。
教科書	適宜紹介する。
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	急性期看護領域での倫理的感受性を高めておく。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
生活支援医療学演習Ⅰ	演習	選択	山勢 善江
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	山勢 善江

授業概要

国内外の文献を講読してクリティークを行う。また、文献レビューやフィールド活動を通して、各自の研究課題の明確化と研究方法の選択、さらに実施可能な研究計画書作成を行う。

到達目標

1）文献検索の方法および文献の種類について理解できる。
2）文献レビュー、論文クリティークを通して、研究の方向性を定めることができる。
3）研究計画書の構成および作成方法が理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	コースガイダンス、文献検索①	本科目のオリエンテーション、 関心があるテーマに関する文献を探索的に検索する。	山勢 善江
2	文献検索②	関心があるテーマに関する文献を探索的に検索する。	山勢 善江
3	文献検索③	関心があるテーマに関する文献を探索的に検索する。	山勢 善江
4	文献クリティーク①	さまざまな研究デザインの文献をクリティークする。 自己の関心テーマの先行研究論文をクリティークする。 自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	山勢 善江
5	文献クリティーク②	さまざまな研究デザインの文献をクリティークする。 自己の関心テーマの先行研究論文をクリティークする。 自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	山勢 善江
6	文献クリティーク③	さまざまな研究デザインの文献をクリティークする。 自己の関心テーマの先行研究論文をクリティークする。 自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	山勢 善江
7	文献クリティーク④	さまざまな研究デザインの文献をクリティークする。 自己の関心テーマの先行研究論文をクリティークする。 自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	山勢 善江
8	文献クリティーク⑤	さまざまな研究デザインの文献をクリティークする。 自己の関心テーマの先行研究論文をクリティークする。 自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	山勢 善江
9	急性期看護領域における課題の探索①	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江
１０	急性期看護領域における課題の探索②	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江
１１	急性期看護領域における課題の探索③	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江
１２	急性期看護領域における課題の探索④	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江
１３	急性期看護領域における課題の探索⑤	研究上の課題について中間報告する。	山勢 善江
１４	急性期看護領域における課題の探索⑥	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江
１５	急性期看護領域における課題の探索⑦	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江
１６	急性期看護領域における課題の探索⑧	関心あるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	山勢 善江

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１７	急性期看護領域における課題の考究⑨	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	山勢 善江
１８	急性期看護領域における課題の考究⑩	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	山勢 善江
１９	急性期看護領域における課題の考究⑪	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	山勢 善江
２０	急性期看護領域における課題の考究⑫	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	山勢 善江
２１	研究対象と方法の検討①	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	山勢 善江
２２	研究対象と方法の検討②	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	山勢 善江
２３	研究対象と方法の検討③	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	山勢 善江
２４	研究対象と方法の検討④	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	山勢 善江
２５	研究における倫理的配慮①	研究倫理ガイドラインや倫理綱領をもとに、自らの研究の倫理的配慮について検討する。	山勢 善江
２６	研究における倫理的配慮②	研究倫理ガイドラインや倫理綱領をもとに、自らの研究の倫理的配慮について検討する。	山勢 善江
２７	研究計画書案の作成と検討①	これまでの学修をもとに、看護研究計画書案を作成し検討する。	山勢 善江
２８	研究計画書案の作成と検討②	これまでの学修をもとに、看護研究計画書案を作成し検討する。	山勢 善江
２９	研究計画書案の作成と検討③	これまでの学修をもとに、看護研究計画書案を作成し検討する。	山勢 善江
３０	研究計画書案の作成と検討④	これまでの学修をもとに、看護研究計画書案を作成し検討する。	山勢 善江

評価	授業への参加度・プレゼンテーション（50%）、研究計画書（50%）
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	興味あるテーマや研究テーマに関連した論文は積極的に読み進めておく。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
生活支援医療学演習Ⅱ	演習	選択	内藤 亜由美
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
4単位（60時間）	30回	1年後期	内藤 亜由美、ラウ 優紀子、佐々木 千佳

授業概要

成人から老年にかけての対象者の看護の理解を深めるために、国内外の文献を講読して、クリティークを行う。また文献レビューやフィールド活動を通じて、各自の研究課題を明確にし、課題が達成できる研究方法を選択する。さらには実施可能な研究計画書の作成を行う。

到達目標

看護援助に関する最新の知見や動向に関する知識を深め、看護の対象の特性や看護場面の現象を科学的に探求する。そのために国内外の文献を講読してクリティークを行い、文献レビューやフィールドワークを通じて、各自の研究課題の明確化と研究方法の選択、そして達成可能な研究計画書を作成する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス、関心のある研究テーマの検討	科目のオリエンテーション。これまでの経験を通じて各自が関心のあるテーマに関するグループディスカッションを行う。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
2	文献検索①	各自が関心のあるテーマに関する文献を検索し、グループディスカッションを行う。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
3	文献検索②	各自が関心のあるテーマに関する文献を検索し、グループディスカッションを行う。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
4	文献クリテーク①	様々な研究デザインの文献をクリテークする。自己の関心やテーマの先行研究論文をクリティークする。自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
5	文献クリテーク②	様々な研究デザインの文献をクリテークする。自己の関心やテーマの先行研究論文をクリティークする。自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
6	文献クリテーク③	様々な研究デザインの文献をクリテークする。自己の関心やテーマの先行研究論文をクリティークする。自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
7	文献クリテーク④	様々な研究デザインの文献をクリテークする。自己の関心やテーマの先行研究論文をクリティークする。自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
8	文献クリテーク⑤	様々な研究デザインの文献をクリテークする。自己の関心やテーマの先行研究論文をクリティークする。自己の関心テーマの研究の動向や課題について探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
9	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索①	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１０	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索②	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１１	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索③	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１２	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索④	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１３	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑤	研究上の課題について中間報告する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１４	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑥	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１５	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑦	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１６	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑧	関心のあるフィールドにおいて、研究上の課題を探索する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１７	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑨	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１８	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑩	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
１９	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑪	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２０	慢性期・老年期看護の領域における課題の探索⑫	探索した課題について先行研究を用いて整理し、リサーチクエスチョンを明確化する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２１	研究対象と方法の検討①	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２２	研究対象と方法の検討②	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２３	研究対象と方法の検討③	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２４	研究対象と方法の検討④	リサーチクエスチョンに対する研究対象と研究方法について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２５	研究における倫理的配慮①	研究倫理ガイドラインや倫理綱領を基に、自らの研究の倫理的配慮について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２６	研究における倫理的配慮②	研究倫理ガイドラインや倫理綱領を基に、自らの研究の倫理的配慮について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２７	研究計画書の作成と検討①	看護研究計画書案を作成し検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２８	研究計画書の作成と検討②	研究倫理ガイドラインや倫理綱領を基に、自らの研究の倫理的配慮について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
２９	研究計画書の作成と検討③	研究倫理ガイドラインや倫理綱領を基に、自らの研究の倫理的配慮について検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳
３０	研究計画書の作成と検討④	看護研究計画書案を作成し検討する。	内藤 亜由美 ラウ 優紀子 佐々木 千佳

評価	授業への参加度・プレゼンテーション（50%）、研究計画書（50%）
教科書	適宜指示する
参考図書 参考WEBページ	適時必要な図書や文献を提示する
事前・事後学習 留意事項	興味や関心のある研究テーマに関連した論文は積極的に読む
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学特論Ⅰ	講義	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	岡 多恵、清水 奈緒美、渡邉 眞理

授業概要

がん患者および家族に必要な看護を実践するために、がん看護の基盤となる諸概念や理論、関連する研究結果について理解し、活用できる。

到達目標

1）がん患者・家族の理解と援助の基盤となる諸概念や理論について説明できる。
2）がん医療、がん看護の歴史的変遷について理解し、がん看護実践に活用することができる。
3）各講義でがん看護に関する研究論文をクリティークでき、実践に活用することができる。
4）がん政策について説明できる。
5）がん看護における高度実践看護師の役割・機能を具体的に説明することができる。
6）がん看護場面での倫理的諸問題について理解を深め倫理調整に必要な知識について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション がん看護に関連する概念、看護モデルの必要性と活用	オリエンテーション がん看護に関連する概念、看護モデルの必要性と活用について。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
2	がん医療の歴史と政策、がん看護の歴史的変遷、高度実践看護師に求められる能力	がん医療の歴史と政策、がん看護の歴史的変遷、高度実践看護実践看護師に求められる能力について概観する。【講義】	渡邉 眞理
3	がん看護に関する理論の活用 ストレスコーピング理論の理解と事例への適用①	がん看護に関する理論の活用について、ストレスコーピング理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
4	がん看護に関する理論の活用 ストレスコーピング理論の理解と事例への適用②	がん看護に関する理論の活用について、ストレスコーピング理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
5	がん看護に関する理論の活用 危機理論の理解と事例への適応①	がん看護に関する理論の活用について、危機理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
6	がん看護に関する理論の活用 危機理論の理解と事例への適応②	がん看護に関する理論の活用について、危機理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
7	がん看護に関する理論の活用 喪失・悲嘆に関する理論の理解と活用	がん看護に関する理論の活用について、喪失・悲嘆に関する理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	清水 奈緒美

授業回数	テーマ	内容	担当教員
8	がん看護に関する理論の活用 セルフケア理論の活用	がん看護に関する理論の活用について、セルフケア理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
9	がん看護に関する理論の活用 エンパワメントの活用	がん看護に関する理論の活用について、エンパワメントの概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１０	がん看護に関する理論の活用 自己効力理論の活用	がん看護に関する理論の活用について、自己効力理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１１	がん看護に関する理論の活用 全体性のパラダイムに基づく理論の活用	がん看護に関する理論の活用について、全体性のパラダイムに基づく理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	岡 多恵
１２	がん看護に関する理論の活用 家族支援に関する理論の活用	がん看護に関する理論の活用について、家族支援に関する理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１３	がん看護に関する理論の活用 がん患者・家族の精神的支援に関する理論の活用	がん患者および家族の精神的看護に関する理論の概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１４	がん看護に関連する倫理的諸問題と解決法の理解①	がん看護に関連する倫理的諸問題と倫理的知識の活用と倫理的意思決定ツールの活用法等の解決法について概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１５	がん看護に関連する倫理的諸問題と解決法の理解②	がん看護に関連する倫理的諸問題と倫理的知識の活用と倫理的意思決定ツールの活用法等の解決法について概要と事例への適用についてプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションを通して理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを評価する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	・Mary Fran Tracy,Eileen T.O'Grady著,中村美鈴,江川幸二監訳, 高度実践看護総合的アプローチ　第2版　6th EDITION, へるす出版, 2020. ・筒井真由美 編集, 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院, 2016. ・松木光子 編集,看護倫理学 看護実践における倫理的基盤, NOUVELL HIROKAWA, 2010.
事前・事後学習 留意事項	積極的に授業に臨むこと。授業後は配布資料、教科書等で復習を行い、疑問点を解決すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学特論Ⅱ	講義	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	石橋 芳雄、大川 伸一、櫻井 嘉彦、寺本 明、中山 祐次郎、成松 宏人、平野 克治、茂垣 雅俊、横瀬 智之、吉見 明香、渡邉 眞理

授業概要

がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般を学び、がん看護に関連した専門的な知識を深め、エビデンスに基づく的確な臨床判断ができる能力を理解し、活用できる。

到達目標

1）がんの発生、浸潤、転移の特徴と予防について説明できる。
2）がんの疫学、がん検診について説明できる。
3）がんゲノム医療について説明できる。
4）がんの病理（がんの形態・分類）について説明できる。
5）がんの診断方法について説明できる。
6）遺伝性腫瘍について説明できる。
7）病態生理に基づいた代表的ながん治療方法について説明できる。
8）治療に伴う有害事象について理解し、必要な看護について説明できる。
9）病態生理に基づいたがん患者の栄養管理について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	発がんの機序、浸潤、転移の特徴、がんと免疫	発がんの機序、浸潤、転移の特徴、がんと免疫、がんの診断、検査、治療、及び予防、がんゲノム医療について理解を深める。【講義】	渡邉 眞理 寺本 明
2	がんゲノム医療と今後の展望	発がんの機序、浸潤、転移の特徴、がんと免疫、がんの診断、検査、治療、及び予防、がんゲノム医療について理解を深める。【講義】	渡邉 眞理 寺本 明
3	がんの疫学的特性　がん検診のエビデンス、がんの統計データの読み方	がんの疫学的特性　がん検診のエビデンスについて理解を深め、がんの予防及び早期発見のための教育・啓発および相談活動に生かすことができる。【講義】	成松 宏人
4	遺伝性腫瘍	遺伝性腫瘍について理解を深める。【講義】	成松 宏人
5	がんの病理診断の基礎	がんの病理診断の基礎について理解を深める。【講義】	横瀬智之
6	最新のがんの治療①　胃がん	胃がんの診断と治療について理解を深める。【講義】	櫻井 嘉彦
7	最新のがん治療②　大腸がん	大腸がんの診断と治療について理解を深める。【講義】	中山 祐次郎

授業回数	テーマ	内容	担当教員
8	最新のがん治療③　肺がん	肺がんの診断と治療について理解を深める。【講義】	（未定）
9	最新のがん治療④　乳がん	乳がんの診断と治療について理解を深める。【講義】	茂垣 雅俊
１０	難治性がんの治療：肝臓・胆のう・すい臓がん①	肝臓がん、膵臓がん、担当がんの特徴と治療について理解を深める。【講義】	大川 伸一
１１	難治性がんの治療：肝臓・胆のう・すい臓がん②	肝臓がん、膵臓がん、担当がんの特徴と治療について理解を深める。【講義】	大川 伸一
１２	がんと感染症	治療中の易感染状態にあるがん患者の感染症と免疫に関する理解を深める。	石橋 芳雄
１３	サイコオンコロジー	サイコオンコロジーについて理解を深める。【講義】	吉見 明香
１４	緩和ケア	診断された時からの緩和医療について理解を深める。【講義】	渡邉 眞理 平野 克治
１５	まとめ	臨床腫瘍学の専門的知識に関してがん看護への適用について理解を深める。医療・看護職者に対して、がん看護に対する教育・相談活動に学修内容をいかす。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	当科目の全ての授業において、内容に記載がない場合でも、生徒の主体的な学習を推進する目的で、授業内容や進行に応じ、討議やプレゼンテーション、事例検討を実施する場合があるので、その旨を了解した上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学特論Ⅲ	講義	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	石川 眞里子、内藤 亜由美、岡 多恵、清水 奈緒美、シュワルツ 史子、藤間 勝子、中村 千里、渡邉 眞理

授業概要

がん看護の対象となる患者および家族について、がんサバイバーシップの概念に基づき理解する。また、がん患者のライフサイクルに応じた複雑な健康問題に対して包括的な支援が提供できるよう看護援助の方法について理解する。がん看護専門看護師として必要な、組織変革者としての役割について説明できる。

到達目標

1）がんサバイバーシップの概念、各時期に必要な看護について説明できる。
2）がんの集学的治療とチーム医療について説明できる。
3）がん治療（手術療法、がん薬物療法、放射線療法）と治療に伴う看護について説明できる。
4）がんサバイバーの支援に必要な意思決定支援について説明できる。
5）がんサバイバーの支援に必要なサポートグループとセルフヘルプ・グループの活動について習得し、支援方法の実際を説明できる。
6）がんサバイバーのアピアランスケアについて説明できる。
7）がん看護専門看護師に必要な組織変革者の役割について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション　がんサバイバーシップの概念 がんサバイバーシップの各時期に必要な看護支援	オリエンテーションを実施する。 がんサバイバーシップの概念、がんサバイバーシップの各時期に必要な看護支援について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
2	がんの集学的治療とチーム医療	がんの集学的治療とチーム医療（がんリハビリチーム・緩和ケアチーム）におけるがん看護専門看護師の役割について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	岡 多恵
3	がん治療に伴う看護 最新の手術療法と治療に伴う看護 術後合併症予防と創傷管理①	がん治療に伴う看護（最新の手術療法と治療に伴う看護）、創傷治癒過程について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	内藤 亜由美
4	がん治療に伴う看護 最新の手術療法と治療に伴う看護 術後合併症予防と創傷管理②	がん治療に伴う看護（最新の手術療法と治療に伴う看護）、創傷治癒過程について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	内藤 亜由美
5	がん治療に伴う看護 最新のがん薬物療法と治療に伴う看護 がん薬物療法の有害事象の予防と対処法①	がん治療に伴う看護（最新のがん薬物療法と治療に伴う看護　がん薬物療法の有害事象の予防と対処法）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	中村 千里
6	がん治療に伴う看護 最新のがん薬物療法と治療に伴う看護 がん薬物療法の有害事象の予防と対処法②	がん治療に伴う看護（最新のがん薬物療法と治療に伴う看護　がん薬物療法の有害事象の予防と対処法）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	中村 千里
7	がん治療に伴う看護 最新の放射線療法と治療に伴う看護 放射線療法の有害事象の予防と対処法①	がん治療に伴う看護（最新の放射線療法と治療に伴う看護、放射線療法の有害事象の予防と対処法）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	シュワルツ 史子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
8	がん治療に伴う看護 最新の放射線療法と治療に伴う看護 放射線療法の有害事象の予防と対処法②	がん治療に伴う看護（最新の放射線療法と治療に伴う看護、放射線療法の有害事象の予防と対処法）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	シュワルツ 史子
9	造血幹細胞移植を受ける患者の看護	造血幹細胞移植を受ける患者の看護について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１０	がんサバイバーの支援 治療の選択と療養の場の意思決定支援	がんサバイバーの支援（治療の選択と療養の場の意思決定支援）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１１	がんサバイバーの支援 小児・AYA世代の看護	がんサバイバーの支援（小児・AYA世代の看護）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	石川 眞里子
１２	がんサバイバーの支援 高齢がん患者の看護	がんサバイバーの支援（高齢がん患者の看護）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１３	がんサバイバーの支援 アピアランスケア①	アピアランスケアの実際について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	藤間 勝子
１４	がんサバイバーの支援 アピアランスケア②	アピアランスケアの実際について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	藤間 勝子
１５	がん看護専門看護師の役割 組織変革者の役割、専門看護師に必要な看護管理の知識 全体のまとめ	がん看護専門看護師の役割（組織変革者の役割、専門看護師に必要な看護管理の知識）について理解を深める。 本授業の総括を行う。【講義】【ディスカッション】【総括】	渡邉 眞理 清水 奈緒美

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な取り組みを期待する。 当科目の全ての授業において、内容に記載がない場合でも、生徒の主体的な学習を推進する目的で、授業内容や進行に応じ、討議やプレゼンテーション、事例検討を実施する場合があるので、その旨を了解した上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学特論Ⅳ	講義	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	岡 多恵、加賀谷 肇、清水 奈緒美、三堀いずみ、渡邉 眞理

授業概要

がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいたキュアとケアを統合した看護を実践できる。薬物療法だけでなく理学療法的介入、心理的な支援など包括的な介入について、リソースを活用して展開する方法を学び、高度実践看護を提供する能力や、病院や地域での緩和ケアチームの中のがん看護専門看護師の役割、End of Life Care、家族のグリーフワークについて説明することができる。

到達目標

1）緩和ケアの概念について説明できる。
2）全人的苦痛のアセスメントについて説明できる。
3）がんに伴う発生頻度の高い症状のマネジメント（がん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、抑うつ、せん妄）について説明でき具体的な看護が説明できる。
4）がんの診断期から治療期、人生の最終段階において必要な緩和ケアについて説明できる。
5）がん患者に特有な精神症状や必要なケアについて説明できる。
6）社会的苦痛の緩和について説明できる。
7）家族のグリーフケアについて説明できる。
8）緩和ケア、地域緩和ケアについて理解し、看護師の役割が説明できる。
9）緩和ケアのチーム医療におけるがん看護専門看護師の役割について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	緩和ケア概論	緩和ケアに必要な基礎的な知識（WHO方式がん疼痛治療法等）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加賀谷 肇
2	緩和ケア薬理学①	非オピオイド鎮痛薬の特徴について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加賀谷 肇
3	緩和ケア薬理学②	各オピオイド鎮痛薬の特徴（作用機序、使用法）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加賀谷 肇
4	緩和ケア薬理学③	各オピオイド鎮痛薬の副作用について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加賀谷 肇
5	高齢がん患者の緩和ケア	高齢がん患者の緩和ケアの特徴について理解を深める。【講義】（ディスカッション）	加賀谷 肇
6	全人的苦痛の包括的アセスメントと介入	全人的苦痛のアセスメントと全人的苦痛緩和について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
7	診断期の苦痛緩和 告知後のケア、意思決定支援	診断期の苦痛緩和　告知後のケア、意思決定支援について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	岡 多恵

授業回数	テーマ	内容	担当教員
8	症状マネジメント ①がん性疼痛	症状マネジメント（①がん性疼痛）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	三堀 いずみ
9	症状マネジメント ②呼吸困難感　③倦怠感	症状マネジメント（②呼吸困難感、③倦怠感）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	三堀 いずみ
１０	症状マネジメント ④腹部膨満感　⑤便秘	症状マネジメント（④腹部膨満感、⑤便秘）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	三堀 いずみ
１１	がんリハビリチーム医療	がん治療や終末期におけるがんリハビリテーションにおけるチーム医療を学ぶ。	岡 多恵
１２	精神的支援	がんに伴う精神的苦痛及び精神症状（抑うつ・せん妄）とその対処法について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	岡 多恵
１３	社会的苦痛の看護 就労支援 経済的問題	社会的苦痛の看護　就労支援　経済的問題について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１４	End of Life Care、家族のグリーフケア、地域への広がり	End of Life Care、家族のグリーフケアについて理解を深め、さらに在宅緩和ケアの現状と今後の展望について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	清水 奈緒美
１５	様々な病期に求められる緩和ケアのチーム医療と、がん看護専門看護師に求められる役割	様々な病期に求められる緩和ケアのチーム医療と、がん看護専門看護師に求められる役割について事例検討を行い、本授業の総括を実施する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な取り組みを期待する。 当科目の全ての授業において、内容に記載がない場合でも、生徒の主体的な学習を推進する目的で、授業内容や進行に応じ、討議やプレゼンテーション、事例検討を実施する場合があるので、その旨を了解した上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学特論Ⅴ	講義	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	小沢 香、加賀谷 肇、加藤 裕久、佐野 和美、中山 祐次郎、中村 千里、渡邉 眞理

授業概要

がん薬物療法の実際と有害事象の予防・早期発見・早期対処を行い、治療の継続および療養生活の質の維持と向上のために、必要な看護について理解できる。
がん看護専門看護師に必要な患者および家族のセルフケア能力向上のための方略について説明することができる。

到達目標

1）代表的ながんのガイドラインに沿ったがん薬物療法の理解と有害事象について概観し、有害事象の予防、早期発見、早期対処ができる。
2）がん薬物療法を受ける患者および家族の治療中、後の生活の変化について予測し、必要な看護が判断できる。
3）がん薬物療法を受ける患者および家族のセルフケア支援について指導できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	がん薬物療法 殺細胞抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬①	がん薬物療法（臨床薬理、殺細胞抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイントの特徴について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	佐野 和美
2	がん薬物療法 殺細胞抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬②	がん薬物療法（臨床薬理、殺細胞抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイントの特徴について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	佐野 和美
3	がん薬物療法の有害事象	がん薬物療法の有害事象評価基準について理解を深め、セルフケア支援に活用できる。【講義】【ディスカッション】	加藤 裕久
4	外来化学療法を受ける患者の看護 がん薬物療法の有害事象 Oncology emergencyの看護 過敏反応、インフュージョンリアクション等	外来化学療法を受ける患者の看護（がん薬物療法の有害事象、Oncology emergencyの看護、過敏反応、インフュージョンリアクション等）について理解を深める。【講義】【プレゼンテーション】【ディスカッション】	中村 千里
5	がん薬物療法の安全管理 血管外漏出、ポート管理、曝露対策	がん薬物療法の安全管理（血管外漏出、ポート管理、曝露対策等）について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	中村 千里
6	消化器がん（大腸がん）の薬物療法ガイドラインの理解	消化器がん（大腸がん）の薬物療法ガイドラインの理解と最新の薬物療法について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	渡邉 眞理 中山 祐次郎
7	消化器がんの薬物療法の有害事象のマネジメント・療養過程の看護	消化器がんの薬物療法からレジメンを1つ選択し、セルフケア支援を含めた療養過程の看護についてプレゼンテーション・討議をし、理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	小沢 香

授業回数	テーマ	内容	担当教員
8	乳がんの薬物療法ガイドラインの理解	乳がんの薬物療法ガイドラインの理解と最新の薬物療法について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加藤 裕久
9	乳がんの薬物療法と有害事象のマネジメント・療養過程の看護	乳がんの薬物療法と有害事象のマネジメント・セルフケア支援を含めた療養過程の看護についてプレゼンテーション・討議をし、理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	小沢 香
１０	肺がんの薬物療法ガイドラインの理解	肺がんの薬物療法ガイドラインの理解と最新の薬物療法について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	佐野 和美
１１	肺がんの薬物療法と有害事象のマネジメント・療養過程の看護	肺がんの薬物療法と有害事象のマネジメント・セルフケア支援を含めた療養過程の看護についてプレゼンテーション・討議をし、理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	小沢 香
１２	高齢がん患者の薬物療法	高齢がん患者のがん薬物療法の特徴について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加藤 裕久
１３	薬物療法を受ける高齢がん患者の療養過程の看護	薬物療法を受ける高齢がん患者の特徴を理解し、有害事象のマネジメントとセルフケア支援を含めた療養過程（社会資源の活用含む）の看護について理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１４	がん薬物療法を受ける患者の栄養管理	がん薬物療法を受ける患者の栄養管理について理解を深め、がん患者の栄養サポートチームにおける看護職の役割について理解を深める。【講義】【ディスカッション】	加賀谷 肇
１５	がん薬物療法におけるチーム医療と組織横断的に携わるがん看護専門看護師に必要な能力	がん薬物療法におけるチーム医療と組織横断的に携わるがん看護専門看護師に必要な能力について、本授業の全体のディスカッションと総括を行う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な取り組みを期待する。 当科目の全ての授業において、内容に記載がない場合でも、生徒の主体的な学習を推進する目的で、授業内容や進行に応じ、討議やプレゼンテーション、事例検討を実施する場合があるので、その旨を了解した上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学演習Ⅰ	演習	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（60時間）	30回	1年前期	岡 多恵、清水 奈緒美、三堀いずみ、渡邉 眞理

授業概要

緩和ケアの場面で患者および家族が直面する苦痛や問題状況について臨床判断に基づいた適切な緩和ケアを提供するための高度な看護実践について説明できる。

到達目標

1）緩和ケアが必要な患者・家族および医療者が直面する問題状況について適切なアセスメントとその対処法について説明できる。
2）発生頻度の高い症状のマネジメント（がん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等）について説明できる。
3）全人的苦痛を体験しているがん患者および家族を対象としたがん相談支援技術について説明できる。
4）緩和ケアのチーム医療でのがん看護専門看護師としての役割について説明できる。
5）緩和ケアに関する全人的苦痛の緩和について説明できる。
6）緩和ケアの場面で患者および家族、医療者が遭遇する倫理的課題を検討し、倫理調整について説明できる。
7）がん患者・家族に必要な意思決定支援に必要な知識・技術について説明できる。
8）緩和ケアの場（病院、緩和ケア病棟、在宅療養）について広く捉え、がん患者および家族のQOLの向上のために必要な調整能力について説明できる。
9）緩和ケアに関する文献を検索、講読、クリティークし、看護実践に活用することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 緩和ケアを必要とする患者および家族の包括的アセスメントと看護介入の実際①	オリエンテーションの実施。 緩和ケアを必要とする患者および家族の事例をプレゼンテーションし、包括的アセスメントの実際、適切な介入方法について検討する。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
2	緩和ケアを必要とする患者および家族の包括的アセスメントと看護介入の実際②	緩和ケアを必要とする患者および家族の事例をプレゼンテーションし、包括的アセスメントの実際、適切な介入方法について検討する。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
3	緩和ケアを必要とする患者および家族の包括的アセスメントと看護介入の実際③	緩和ケアを必要とする患者および家族の事例をプレゼンテーションし、包括的アセスメントの実際、適切な介入方法について検討する。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
4	症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の症状マネジメント①	がん看護学特論Ⅳで学んだ症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の中から関心のある症状マネジメントについて1つ選択し、エビデンスを明確にし、臨床判断過程と必要な看護について事例を用いてプレゼンテーションとディスカッションをする。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践、調整、教育について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 三堀 いずみ 清水 奈緒美
5	症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の症状マネジメント②	がん看護学特論Ⅳで学んだ症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の中から関心のある症状マネジメントについて2つ選択し、エビデンスを明確にし、臨床判断過程と必要な看護について事例を用いてプレゼンテーションとディスカッションをする。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践、調整、教育について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 三堀 いずみ 清水 奈緒美
6	症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の症状マネジメント③	がん看護学特論Ⅳで学んだ症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の中から関心のある症状マネジメントについて3つ選択し、エビデンスを明確にし、臨床判断過程と必要な看護について事例を用いてプレゼンテーションとディスカッションをする。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践、調整、教育について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 三堀 いずみ 清水 奈緒美
7	症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の症状マネジメント④	がん看護学特論Ⅳで学んだ症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の中から関心のある症状マネジメントについて4つ選択し、エビデンスを明確にし、臨床判断過程と必要な看護について事例を用いてプレゼンテーションとディスカッションをする。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践、調整、教育について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 三堀 いずみ 清水 奈緒美

授業回数	テーマ	内容	担当教員
8	症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の症状マネジメント⑤	がん看護学特論Ⅳで学んだ症状マネジメントに関してがん性疼痛、呼吸困難感、倦怠感、腹部膨満感、便秘、下痢、抑うつ、せん妄等の中から関心のある症状マネジメントについて1つ選択し、エビデンスを明確にし、臨床判断過程と必要な看護について事例を用いてプレゼンテーションとディスカッションをする。 がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（実践、調整、教育について）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 三堀 いずみ 清水 奈緒美
9	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についての相談支援技術①	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についてコミュニケーションスキルNURSEを用いて、がん相談支援技術を身につける。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１０	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についての相談支援技術②	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についてコミュニケーションスキルNURSEを用いて、がん相談支援技術を身につける。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１１	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についての相談支援技術③	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についてコミュニケーションスキルNURSEを用いて、がん相談支援技術を身につける。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１２	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についての相談支援技術④	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についてコミュニケーションスキルNURSEを用いて、がん相談支援技術を身につける。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１３	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についての相談支援技術⑤	全人的苦痛を有するがん患者および家族の情報ニーズ、告知後のケア、心理的支援、家族支援についてコミュニケーションスキルNURSEを用いて、がん相談支援技術を身につける。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１４	がん患者の意思決定支援と療養の場の調整技術①	がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（相談技術について）。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１５	がん患者の意思決定支援と療養の場の調整技術②	がん看護専門看護師からスーパーバイズを受ける（相談技術について）。【ロールプレイ】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１６	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題についてと看護専門看護師の役割としての「倫理調整力」①	がん患者の医療連携の特徴を理解し、具体的な事例を通して、療養の場の意思決定支援と医療連携調整について理解を深める（相談技術・調整技術）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
１７	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題についてと看護専門看護師の役割としての「倫理調整力」②	がん患者の医療連携の特徴を理解し、具体的な事例を通して、療養の場の意思決定支援と医療連携調整について理解を深める（相談技術・調整技術）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
１８	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題についてと看護専門看護師の役割としての「倫理調整力」③	がん患者の医療連携の特徴を理解し、具体的な事例を通して、療養の場の意思決定支援と医療連携調整について理解を深める（相談技術・調整技術）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
１９	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題についてと看護専門看護師の役割としての「倫理調整力」④	がん患者の医療連携の特徴を理解し、具体的な事例を通して、療養の場の意思決定支援と医療連携調整について理解を深める（相談技術・調整技術）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２０	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題についてと看護専門看護師の役割としての「倫理調整力」⑤	がん患者の医療連携の特徴を理解し、具体的な事例を通して、療養の場の意思決定支援と医療連携調整について理解を深める（相談技術・調整技術）。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２１	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題①	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵

授業回数	テーマ	内容	担当教員
２２	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題②	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２３	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題③	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２４	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題④	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２５	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑤	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２６	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑥	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２７	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑦	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２８	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑧	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
２９	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑨	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
３０	緩和ケアに関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑩	緩和ケアにおけるがん緩和ケアの場面で患者、家族および医療者が直面する倫理的問題について検討し、看護専門看護師の役割としての倫理調整力を養う。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な取り組みを期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学演習Ⅱ	演習	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（60時間）	30回	1年前期	熱方 智和子、岡 多恵、清水 奈緒美、渡邉 眞理

授業概要

がん薬物療法を受ける患者および家族の療養生活の質を維持、向上するための高度な看護実践を学修する。セルフケア能力向上のための方略について説明できる。

到達目標

1）がん薬物療法を受ける患者・家族および医療者が直面する問題状況について適切なアセスメントとその対処法について説明できる。
2）がん薬物療法の安全管理について説明できる。
3）がん薬物療法の発生頻度の高い有害事象について説明でき、予防、早期発見、早期対処のための方策がとれる。
4）がん薬物療法中の患者のセルフケア能力向上のためのエビデンスに基づいた患者教育ができる。
5）がん薬物療法におけるチーム医療でのがん看護専門看護師に必要な役割が説明できる。
6）がん薬物療法に関する文献を検索、講読、クリティークし、がん看護実践の場に活用することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション がん薬物療法に関する医療安全について①	科目のオリエンテーション　自施設等のフィールドワークを通じて現場で活用しているがん薬物療法に関する医療安全マニュアルを1つ選択し、内容の要約についてプレゼンテーション、ディスカッションをする。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
2	がん薬物療法に関する医療安全について②	自施設等のフィールドワークを通じて現場で活用しているがん薬物療法に関する医療安全マニュアルを1つ選択し、内容の要約についてプレゼンテーション、ディスカッションをする。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
3	がん薬物療法に関する医療安全について③	自施設等のフィールドワークを通じて現場で活用しているがん薬物療法に関する医療安全マニュアルを1つ選択し、内容の要約についてプレゼンテーション、ディスカッションをする。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
4	がん薬物療法に関する医療安全について④	がん薬物療法に関する医療安全について、がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・調整についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	熱方 智和子
5	がん薬物療法に関する医療安全について⑤	がん薬物療法に関する医療安全について、がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・調整についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	熱方 智和子
6	がん薬物療法の有害事象の予防、早期発見、早期対処についてのアセスメントの実際、適切な介入方法について①	がん薬物療法の中から殺細胞性抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の中から治療薬を1つ選択し、有害事象の予防、早期発見、早期対処について事例を用いて、有害事象のアセスメントの実際、チーム医療で取り組む適切な介入方法について検討する。がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・相談・調整・教育についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
7	がん薬物療法の有害事象の予防、早期発見、早期対処についてのアセスメントの実際、適切な介入方法について②	がん薬物療法の中から殺細胞性抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の中から治療薬を2つ選択し、有害事象の予防、早期発見、早期対処について事例を用いて、有害事象のアセスメントの実際、チーム医療で取り組む適切な介入方法について検討する。がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・相談・調整・教育についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵

授業回数	テーマ	内容	担当教員
８	がん薬物療法の有害事象の予防、早期発見、早期対処についてのアセスメントの実際、適切な介入方法について③	がん薬物療法の中から殺細胞性抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の中から治療薬を3つ選択し、有害事象の予防、早期発見、早期対処について事例を用いて、有害事象のアセスメントの実際、チーム医療で取り組む適切な介入方法について検討する。がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・相談・調整・教育についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
９	がん薬物療法の有害事象の予防、早期発見、早期対処についてのアセスメントの実際、適切な介入方法について④	がん薬物療法の中から殺細胞性抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の中から治療薬を4つ選択し、有害事象の予防、早期発見、早期対処について事例を用いて、有害事象のアセスメントの実際、チーム医療で取り組む適切な介入方法について検討する。がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・相談・調整・教育についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
１０	がん薬物療法の有害事象の予防、早期発見、早期対処についてのアセスメントの実際、適切な介入方法について⑤	がん薬物療法の中から殺細胞性抗悪性腫瘍薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の中から治療薬を5つ選択し、有害事象の予防、早期発見、早期対処について事例を用いて、有害事象のアセスメントの実際、チーム医療で取り組む適切な介入方法について検討する。がん看護専門看護師からスーパーバイズを受け、実践・相談・調整・教育についての理解を深める。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵
１１	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育について①	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育内容について看護師を対象とした教育場面を設定し、模擬授業を実施し、セルフケア支援能力を高める。ディスカッションを通じて、患者教育の技術と専門看護師に必要な教育の能力を説明できる。【模擬授業】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１２	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育について②	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育内容について看護師を対象とした教育場面を設定し、模擬授業を実施し、セルフケア支援能力を高める。ディスカッションを通じて、患者教育の技術と専門看護師に必要な教育の能力を説明できる。【模擬授業】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１３	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育について③	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育内容について看護師を対象とした教育場面を設定し、模擬授業を実施し、セルフケア支援能力を高める。ディスカッションを通じて、患者教育の技術と専門看護師に必要な教育の能力を説明できる。【模擬授業】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１４	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育について④	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育内容について看護師を対象とした教育場面を設定し、模擬授業を実施し、セルフケア支援能力を高める。ディスカッションを通じて、患者教育の技術と専門看護師に必要な教育の能力を説明できる。【模擬授業】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１５	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育について⑤	がん薬物療法の有害事象予防と早期対処のための患者教育内容について看護師を対象とした教育場面を設定し、模擬授業を実施し、セルフケア支援能力を高める。ディスカッションを通じて、患者教育の技術と専門看護師に必要な教育の能力を説明できる。【模擬授業】【ディスカッション】	渡邉 眞理 清水 奈緒美
１６	薬物療法を受ける高齢がん患者の特徴①	がん看護学特論Ｖの学習内容を踏まえて、薬物療法を受ける高齢がん患者の事例を通して、必要な看護について文献検索し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して必要な能力を修得する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１７	薬物療法を受ける高齢がん患者の特徴②	がん看護学特論Ｖの学習内容を踏まえて、薬物療法を受ける高齢がん患者の事例を通して、必要な看護について文献検索し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して必要な能力を修得する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１８	薬物療法を受ける高齢がん患者の特徴③	がん看護学特論Ｖの学習内容を踏まえて、薬物療法を受ける高齢がん患者の事例を通して、必要な看護について文献検索し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して必要な能力を修得する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
１９	薬物療法を受ける高齢がん患者の特徴④	がん看護学特論Ｖの学習内容を踏まえて、薬物療法を受ける高齢がん患者の事例を通して、必要な看護について文献検索し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して必要な能力を修得する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
２０	薬物療法を受ける高齢がん患者の特徴⑤	がん看護学特論Ｖの学習内容を踏まえて、薬物療法を受ける高齢がん患者の事例を通して、必要な看護について文献検索し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して必要な能力を修得する。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理
２１	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク臨床での活用の課題①	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美

授業回数	テーマ	内容	担当教員
２２	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題②	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
２３	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題③	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
２４	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題④	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
２５	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑤	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
２６	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑥	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
２７	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑦	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
２８	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑧	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美
３０	がん薬物療法に関する文献検索とクリティーク 臨床での活用の課題⑩	がん薬物療法に関する文献検索とクリティークとそれを基にした、臨床での活用の課題について検討し、がん看護実践の場に活用できる。【プレゼンテーション】【ディスカッション】	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美

評価	1）プレゼンテーション及び討論への参加状況(40%)、レポート(60%)により評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な取り組みを期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学実習Ⅰ	実習	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	実習日数	配当年次	科目担当教員
2単位（90時間）	12日	1年後期	岡 多恵、清水 奈緒美、シュワルツ 史子、三堀 いずみ、渡邉 眞理

授業概要

がん看護についての先駆的な看護実践の体験を通して、がん看護専門看護師の役割と機能（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）について学び、実施につなげることができる。

到達目標

1）がん看護専門看護師の活動の参加観察を通して、援助対象および実践の場の特徴を理解し、がん看護専門看護師としての役割と機能を実践できる。
2）がん看護専門看護師に必要な知識・技術・態度について、参加観察を通して深め、実践できる。
3）実習施設で患者を担当し、患者理解と適切な看護ケアについてスーパービジョンを受けながら、より高度な看護実践を実践できる。
4）がん看護専門看護師の役割を担う上での自己の関心事や今後の課題を明らかにし、述べることができる。

日数	テーマ	内容	担当教員
1 （8時間/日）	ガイダンス	実習の目的、到達目標、実習内容の理解や提出物についての理解	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ
2～9 （8時間/日）	臨地実習	1）実習施設の看護管理者より、実習施設の概要・がん看護専門看護師への役割期待と支援体制などについてオリエンテーションを受ける。 2）がん看護専門看護師の活動に可能な限り同行しながら、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究の専門看護師としての役割と機能について、参加観察を通して学習する。 3）毎日実習終了後にがん看護専門看護師とともにカンファレンスを行い、参加観察を通して実際に経験した専門看護師の役割と機能、必要な知識、技術、態度について学生が把握したことを発表し、不足している内容や学生が把握できていない専門看護師の意図等についてフィードバックを行うことで検討し、内容を深める。 4）実習施設でがん看護専門看護師が担当している患者を担当し、がん看護専門看護師のスーパービジョンを受け、学習した知識を活用しながら患者理解、患者への直接ケア、ケアの評価を行い、看護および医療チームで共有することで、専門看護師の高度な看護実践の役割と機能について理解を深める。なお、その際に、教員からもスーパービジョンを受ける。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 シュワルツ 史子 三堀 いずみ
10 （8時間/日）	実習総括・リフレクションと討議	実習Ⅰを通して得たがん看護専門看護師の役割と機能（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）と自己の課題について、実習指導者・教員・学生の参加のもと発表、討論し自己の課題を明確にする。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 シュワルツ 史子 三堀 いずみ
11・12 （5時間/日）	実習場面の振り返りと意味付け	実習Ⅰで出会った事例について、がん看護専門看護師の役割と機能（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）を分析的に振り返る。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ

評価	1）実習目標に即した実践状況、レポート、実習記録、面接などを総合的に評価する。 2）出席を原則とする。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	実習に向けては、各自の実習目標等を立案しその到達に向けて実習内容に取り組む。主体的な取り組みを期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学実習Ⅱ	実習	選択	渡邉 眞理
単位数（時間数）	実習日数	配当年次	科目担当教員
4単位（180時間）	20日	2年前期	岡 多恵、佐藤 裕子、清水 奈緒美、三堀いずみ、渡邉 眞理

授業概要

複雑で解決困難な状況にあるがん患者および家族に対して、対象を全人的に捉え、その解決に向けてがん看護専門看護師として必要な実践、相談、調整、倫理調整、教育について実践できる。

到達目標

1）がん治療を受ける患者の病態や包括的アセスメントを行い、キュアとケアの側面より看護上の問題を特定し、看護方針を設定できる。
2）高度ながん治療を必要とする患者および家族に対し、早期解決に向けた治療処置への支援と療養生活の質の維持、向上を目指した看護計画の立案、高度な看護実践、評価、計画修正ができる。
3）がん医療の臨床場面において遭遇する倫理的課題とその解決にむけた実践ができる。
4）がん患者、家族および看護チームに対して必要な課題解決に向けた教育活動ができる。
5）がん看護専門看護師の役割について自己の課題を明らかにし、述べることができる。

日数	テーマ	内容	担当教員
1 （8時間/日）	ガイダンス	実習の目的、到達目標、実習内容の理解や提出物についての理解	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ
2～19 （8時間/日）	臨地実習	がん治療を専門的に行っている実習施設における看護実践、相談、調整、倫理調整、教育活動に関する実習 1）実習施設の看護管理者より、実習施設の概要・がん看護専門看護師への役割期待と支援体制などについてオリエンテーションを受ける。 2）がん治療を専門的に行っている実習施設で患者2名を受け持ち、学習した知識を活用しながら患者理解・患者への直接ケア・ケアの評価を行い、看護および医療チームで共有する。なお、その際に、教員およびがん看護専門看護師などからスーパービジョンを受ける。 3）看護チームメンバーからコンサルテーションを受ける場面を積極的に持ち、問題の明確化を行い、看護ケアについてコンサルティにフィードバックをし、その後の反応や経過を観察し、コンサルテーション過程を評価する。 4）患者および家族の療養生活の質の維持、向上ができるように患者および家族、医療者に生じた倫理的問題の調整、本人および家族への教育・相談活動・他職種間の調整を行う。 5）実習中は可能な限り看護師の実践モデルとしての教育的役割を果たすと共に、実習施設における教育プログラムに積極的に参加しながらがん看護専門看護師としての教育活動に在り方について考察する。 6）外来化学療法室で通院治療する患者および家族に必要な看護について実際に体験し、がん看護専門看護師の役割について考察を深める。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵 佐藤 裕子 三堀 いずみ
20 （8時間/日）	実習総括・リフレクションと討議	実習Ⅱを通して得た治療に伴う臨床判断および、がん看護専門看護師の役割と機能（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）と自己の課題について、実習指導者・教員・学生の参加のもと発表、討論し自己の課題を明確にする。看護チーム、受け持ち患者のケア提供にあたって連携している多職種、指導者、教員とのディスカッションを通して、実践した看護を評価し、がん看護専門看護師としての看護実践能力を向上させる。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 佐藤 裕子 三堀 いずみ
21・22 （8時間/日）	実習の振り返り①	実習Ⅱで担当した事例に関する臨床判断について実践と理論を結びつけて検討する。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 佐藤 裕子 三堀 いずみ
23 （4時間/日）	実習の振り返り②	実習Ⅱで担当した事例を検討した結果をまとめ、がん看護専門看護師の役割と機能（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）について検討する。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ

評価	1）実習目標に即した実践状況、レポート、実習記録、面接などを総合的に評価する。 2）出席を原則とする。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	実習に向けては、各自の実習目標等を立案しその到達に向けて実習内容に取り組む。主体的な取り組みを期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
がん看護学実習Ⅲ	実習	選択	渡邉 眞理
単位数(時間数)	実習日数	配当年次	科目担当教員
4単位(180時間)	20日	2年前期	太田 周平、岡 多恵、佐藤 裕子、清水 奈緒美、三堀いずみ、渡邉 眞理

授業概要

がん患者および家族の療養生活の質の維持・向上を目指した看護実践を提供するために、医師の診断過程を学び、高度な臨床判断能力と卓越したがん看護実践能力を養う。また、長期的療養支援の観点から地域医療連携におけるがん専門看護師の役割と資源の活用、多職種連携ができる。

到達目標

1)医師の指導のもと、受け持ち患者の有害事象の予防や症状緩和に関する病態把握、診断、処方、効果判定を実施する能力について説明できる。
2) 1)に基づいてがん患者の状態を包括的にアセスメントし、問題解決に向けたがん看護実践ができる。
3)がん患者および家族の生活の質の維持・向上を目指した多職種連携とがん看護専門看護師の役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)について考察を深め、実践できる。
4)がん患者および家族に必要な療養の場の地域医療連携に必要ながん看護専門看護師の役割を実践できる。
5)がん看護専門看護師の役割について自己の課題を明らかにし、述べることができる。

日数	テーマ	内容	担当教員
1 (8時間/日)	ガイダンス	実習の目的、到達目標、実習内容の理解や提出物についての理解	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ
2～19 (8時間/日)	臨地実習	1)実習施設の看護管理者より、実習施設の概要・がん看護専門看護師への役割期待と支援体制などについてオリエンテーションを受ける。 2)実習施設で患者を担当し、学習した知識を活用しながら患者理解・患者への直接ケア・ケアの評価を行い、看護および医療チームで共有する。なお、その際に教員およびがん看護専門看護師などからスーパーバイズを受ける。 3)実習前半は、医師およびがん看護専門看護師に同行しながら、治療に伴う臨床診断について指導を受ける。 4)実習後半は、がん患者の療養の場の変更に必要な地域医療連携の場でのがん看護専門看護師の役割について、実際の場面を見学し、がん看護専門看護師から適宜スーパーバイズを受けることで考察を深める。 5)毎日実習終了後にがん看護専門看護師とともにカンファレンスを行い、専門看護師の役割と機能、必要な知識・技術・態度について検討し、内容を深める。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 太田 周平 佐藤 裕子 三堀 いずみ
20 (8時間/日)	実習総括・リフレクションと討議	実習Ⅲを通して得た治療に伴う臨床判断および、がん看護専門看護師の役割と機能(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)と自己の課題について、実習指導者・教員・学生の参加のもと発表、討論し自己の課題を明確にする。今後の活動に向けての展望や課題について共有する。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 佐藤 裕子 三堀 いずみ
21・22 (8時間/日)	実習の振り返り①	実習Ⅲで担当した事例に関する臨床判断について実践と理論を結びつけて検討する。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ
23 (4時間/日)	実習の振り返り②	実習Ⅲで担当した事例を検討した結果をまとめ、がん看護専門看護師の役割と機能(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)について検討する。	渡邉 眞理 岡 多恵 清水 奈緒美 三堀 いずみ

評価	1）実習目標に即した実践状況、レポート、実習記録、面接などを総合的に評価する。 2）出席を原則とする。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	実習に向けては、各自の実習目標等を立案しその到達に向けて実習内容に取り組む。主体的な取り組みを期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学特論Ⅰ	講義	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	渡部 節子、島田 勝、石橋 芳雄、木村 総一郎、市川 智恵、野口 京子

授業概要

本講義では、感染防止や感染症の治療の基礎となる病原性微生物や感染防御機構としての免疫について探求する。

到達目標

1）感染防止や感染症の治療の基礎となる病原性微生物を理解する。
2）感染防御機構としての免疫について理解する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方に関するオリエンテーション	渡部 節子
2	病原性微生物（概論）	微生物学概論 微生物の基礎（微生物の形態と機能など）、環境中の微生物の特徴など	石橋 芳雄
3	病原性微生物（ウイルス①）	ウイルスの基礎、形態・機能・特徴、主な感染症など	木村 聡一郎
4	病原性微生物（ウイルス②）	ウイルスによる主な感染症など	木村 聡一郎
5	病原性微生物（細菌①）	細菌の基礎、形態・機能・特徴、主な感染症など	島田 勝
6	病原性微生物（細菌②）	細菌による主な感染症など	島田 勝
7	病原性微生物（多剤耐性菌①）	多剤耐性菌の歴史、基礎、形態・機能・特徴など	木村 聡一郎
8	多剤耐性菌（多剤耐性菌②）	多剤耐性菌による主な感染症など	木村 聡一郎

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	病原性微生物（真菌・原虫①）	真菌・原虫の基礎、形態・機能・特徴など	市川 智恵
１０	病原性微生物（真菌・原虫②）	真菌・原虫による主な感染症など	市川 智恵
１１	生体防御・免疫	生体防御機能の基礎、免疫、機序など	石橋 芳雄
１２	ワクチン①	ワクチンの歴史、ワクチンの作用機序や効果	石橋 芳雄
１３	ワクチン②	日本における主なワクチンの種類や接種状況、問題点など	石橋 芳雄
１４	ワクチン③	医療従事者へのワクチン接種の意義、取り組みの実際	野口 京子
１５	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1）レポート(50%)、プレゼンテーション及び討論への参加状況(50%)を統合的に評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨むこと。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学特論Ⅱ	講義	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	渡部 節子、木村 博和、青盛 真紀、碓井 瑠衣、野口 京子

授業概要

感染看護活動には、地域における感染防止対策を理解する必要がある。本講義では、感染症および関連法規の変遷を学び、国内外の医療制度および感染防止対策について学ぶことで、現状の対策への知見を深める。さらに、地域で行われている保健・行政の活動、高齢者施設や訪問看護における感染防止対策について知見を深める。

到達目標

1）感染症および関連法規を含む感染防止対策の変遷を理解できる。
2）国内外の医療制度および感染防止対策について理解できる。
3）地域の感染症発症要因および流行、感染防止対策について理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方に関するオリエンテーション	渡部 節子
2	感染症の歴史①	世界における感染症の歴史	渡部 節子
3	感染症の歴史②	日本における感染症の歴史	渡部 節子
4	市中感染症の現状と関連法規	市中感染症の現状、関連法規を含む地域における感染防止対策	野口 京子
5	医療制度	国内外の医療制度（診療報酬、感染対策加算など）	野口 京子
6	アウトブレイク時および感染症法に基づく感染症発生時の保健所の活動	アウトブレイク時、および、感染症法に基づく全数把握対象疾患発生時の保健所の役割、活動内容など	木村 博和
7	パンデミック時の保健所の活動	COVID-19などパンデミック発生時の保健所の役割、活動内容など	木村 博和
8	地域の感染症発症要因および流行①	地域で起こる感染症の発症要因	野口 京子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	地域の感染症発症要因および流行②	地域で起こる感染症の流行と感染対策	野口 京子
１０	地域の医療関連施設における感染防止対策①	高齢者施設で行われている感染防止対策	野口 京子
１１	地域の医療関連施設における感染防止対策②	訪問看護で行われている感染防止対策	野口 京子
１２	災害時の感染防止対策	災害時に必要な感染防止対策、感染予防法	青盛 真紀
１３	国際看護と感染看護①	国外で感染対策を中心に活躍する看護師の活動	碓井 瑠衣
１４	国際看護と感染看護②	西アフリカにおけるマラリア対策の実際	碓井 瑠衣
１５	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1）レポート(50%)、プレゼンテーション及び討論への参加状況(50%) を統合的に評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨む。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学特論Ⅲ	講義・一部演習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	渡邉 真理、渡部 節子、野口 京子

授業概要

本講義では、病院で行われている医療関連感染防止に関する組織的取り組みと看護活動を探求する。さらに、洗浄・消毒・滅菌の原理及び管理方法を学び、臨床の無菌法の応用について探求する。

到達目標

1）病院で行われている医療関連感染防止に関する組織的取り組みとその実際を理解できる。
2）医療従事者の健康管理について理解できる。
3）洗浄・消毒・滅菌の原理および管理方法に基づき、臨床現場への応用について理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方に関するオリエンテーション	渡部 節子
2	看護管理学、行動科学	感染管理者の立場における組織的活動の実際 必要な概念や理論、実践	渡邉 眞理
3	病院の感染症発症要因および流行①	病院で起こる感染症の発症要因及び流行と感染対策 CRBSI、CAUTI	渡部 節子
4	病院の感染症発症要因および流行②	病院で起こる感染症の発症要因及び流行と感染対策 VAP、SSI	渡部 節子
5	感染防止活動の取り組み①	感染予防対策及び国内外でのガイドラインの変遷と現状	野口 京子
6	感染防止活動の取り組み②	標準予防策（手洗い、手指消毒、個人防護具の着脱方法など）と実施状況について	野口 京子
7	感染防止活動の取り組み③	感染経路別予防策と実施状況について	野口 京子
8	医療従事者の健康管理	針刺し事故防止と対応策、健康診断、ワクチン・予防接種など院内で行われている対策の実際	渡部 節子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	ファシリティマネジメント①	感染性廃棄物の処理、リネンなど	野口 京子
１０	ファシリティマネジメント②	・清掃（高頻度接触面に対する消毒など）、 ・空調管理（アスペルギルスによる呼吸器感染症予防のための感染防止策） ・水の管理（レジオネラ属菌に対する感染防止策）	野口 京子
１１	医療関連感染予防のための滅菌・消毒・洗浄①	器具・機材に関する滅菌・消毒・洗浄、滅菌保障のための管理、清掃など E.H.Spaulding分類の定義	野口 京子
１２	医療関連感染予防のための滅菌・消毒・洗浄②	洗浄・消毒(非耐熱性時の消毒：高水準・中水準・低水準消毒など)・滅菌（オートクレーブ、EOGなど）	野口 京子
１３	臨床現場における応用無菌法①【臨地演習】	医療現場における応用無菌法の実際（中央材料部、手術室）	野口 京子
１４	臨床現場における応用無菌法②【臨地演習】	医療現場における応用無菌法の実際（各病棟）	野口 京子
１５	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1）レポート(50%)、プレゼンテーション及び討論への参加状況(50%) を統合的に評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	2020年版 消毒と滅菌のガイドライン　大久保徳他　へるす出版　第4版 ISBN 978-4-89269-995-5 医療施設における消毒と滅菌のためのCDCガイドライン　満田年宏　ヴァンメディカル　ISBN-13: 978-4860920821 血管内留置カテーテル関連感染予防のためのCDCガイドライン2011 満田年宏 ヴァンメディカル　ISBN-13: 978-4860920999 カテーテル関連尿路感染予防のためのCDCガイドライン2009　満田年宏 ヴァンメディカル ISBN-13: 978-4860920920 医療現場における手指衛生のためのCDCガイドライン　大久保憲他 メディカ出版 ISBN-13: 978-4840406970 医療現場における隔離予防策のためのCDCガイドライン－感染性微生物の伝播予防のために－．改訂2版　矢野邦夫 メディカ出版 ISBN-13: 978-4840424578
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨む。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学特論Ⅳ	講義	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	渡部　節子、木村 総一郎、国分 秀也、定本 清美、平野 克治

授業概要

本講義では、発生頻度の高い感染症の診断・治療についての理解を深めて高度な看護判断・実践できる能力を養う。さらに、治療に必要な薬剤の選択と耐性菌の対策について探求する。

到達目標

1）感染症に関する微生物検査、感染防御因子・感染状態に関する臨床所見、全身状態などによる感染症の診断について理解できる。
2）感染症に対する薬物療法、処置など治療について理解できる。
3）感染症に必要な薬物の選択、耐性菌対策について理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方に関するオリエンテーション	渡部 節子
2	概論①	感染症診断過程として、感染を起こしている臓器の検討・決定（病歴、フィジカルアセスメント、検査など）	平野 克治
3	概論②	原因微生物の検討、診断、治療、処置など	平野 克治
4	臨床検査	感染症における微生物検査、検体採取と保管など	木村 聡一郎
5	臨床薬理学①	抗微生物薬の薬力学および薬物動態	国分 秀也
6	臨床薬理学②	抗微生物薬の分類と特徴、薬剤選択、耐性菌対策など	国分 秀也
7	呼吸器感染症	肺炎・結核の診断、検査、治療など	定本 清美
8	菌血症・敗血症	菌血症や敗血症の診断、検査、治療など	平野 克治

授業回数	テーマ	内容	担当教員
9	化学療法・放射線療法	化学療法・放射線療法に伴う易感染状態への対策、起こりやすい感染症の診断、検査、治療など	平野 克治
10	造血幹細胞移植	移植治療に伴う易感染状態への対策、起こりやすい感染症の診断、検査、治療など	平野 克治
11	デバイス関連感染症	BSI、UTI、VAPの予防と診断、検査、治療など	平野 克治
12	小児感染症	小児で起こりやすい感染症の予防、診断、検査、治療など	平野 克治
13	高齢者の感染症	高齢者に起こりやすい感染症である誤嚥性肺炎の診断、検査、治療など	平野 克治
14	輸入感染症	第1種及び第2種感染症受け入れ機関の役割	渡部 節子
15	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1）レポート(50%)、プレゼンテーション及び討論への参加状況(50%) を統合的に評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨むこと。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学特論Ⅴ	講義	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年後期	渡部 節子、内藤　亜由美、渡邉 眞理、伊藤 ふみ子、野口 京子、青盛 真紀

授業概要

本講義では、小児から高齢者まで幅広い年齢層の特徴を踏まえた感染症患者に対する看護方法について探求する。さらに易感染患者の特徴およびその看護について探求する。

到達目標

1）小児から高齢者まで各期の特徴を踏まえた感染症およびその看護方法について理解できる。
2）易感染患者の看護について理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方に関するオリエンテーション	渡部 節子
2	感染看護の成り立ちと歴史	感染看護の歴史	渡部 節子
3	感染対策及び感染症罹患に伴って起こる社会問題	感染と差別、偏見、倫理的問題	渡部 節子
4	母子と感染看護	周産期の特徴、母子感染の看護の実際（母性・小児）	渡部 節子
5	成人と感染看護①	成人期の特徴、起こりやすい感染症と感染対策（性感染感染症など）	野口 京子
6	成人と感染看護②	成人における感染症の事例	野口 京子
7	高齢者と感染看護①	高齢者の特徴、起こりやすい感染症と感染対策（誤嚥性肺炎、肺炎など）	野口 京子
8	高齢者と感染看護②	高齢者における感染症の事例	野口 京子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
9	易感染患者の看護① 易感染とは	易感染の定義、易感染の要因と看護方法	野口 京子
10	易感染患者の看護② 褥瘡	褥瘡管理とWOCとの連携	内藤 亜由美
11	易感染患者の看護③ 褥瘡	褥瘡による創部感染症への看護とWOCとの連携	内藤 亜由美
12	易感染患者の看護④ がん患者	がん化学療法・放射線療法を受けている患者の感染対策	渡邉 眞理
13	易感染患者の看護⑤ 糖尿病	糖尿病患者の看護	伊藤 ふみ子
14	易感染患者の看護⑥ 無菌室	無菌室における看護	青盛 真紀
15	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1）レポート(50%)、プレゼンテーション及び討論への参加状況(50%) を統合的に評価する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨む。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学演習Ⅰ	講義・演習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（60時間）	30回	1年後期	渡部 節子、清水 博之、青盛 真紀、大釜 恵、野口 京子

授業概要

ICT・ASTラウンドを通して部署の課題を明確化し、介入を試みることで感染症看護専門看護師としての役割を理解する。さらに、事例を通して高度な看護実践を学び、感染症看護専門看護師の役割を探求する。

到達目標

1）感染看護に必要な概念・理論を理解する。
2）ICT・ASTラウンドなど、臨床で行われている活動に参加することで感染症看護専門看護師としての役割を理解する。
3）事例を通して、高度な感染症看護専門看護師の役割について理解する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方についてオリエンテーションを行う。	渡部 節子
2	支援に必要な概念・理論①	教育理論（アンドラゴジー・ペタゴジー・ジェロゴジー）	渡部 節子
3	支援に必要な概念・理論②	ヘルスプロモーション	渡部 節子
4	支援に必要な概念・理論③	危機理論、障害受容、価値変換理論	渡部 節子
5	支援に必要な概念・理論④	心の中の隠されたブラインドスポット	渡部 節子
6	支援に必要な概念・理論⑤	セルフケア理論、セルフエフィカシー	野口 京子
7	支援に必要な概念・理論⑥	トランスセオレティカルモデルの行動変容ステージなど	野口 京子
8	院内感染防止の組織と活動①	感染防止組織（院内感染委員会、ICT、AST、感染対策推進部会、リンクナース会など）の役割、活動内容（ICT/AST、マニュアル作成など）	清水 博之
9	院内感染防止の組織と活動②	組織におけるCNSの役割	清水 博之
10	ICTラウンド①【臨地演習】	ICTラウンド　事前オリエンテーション（学内）	野口 京子
11	ICTラウンド②【臨地演習】	ICTラウンドに参加（課題の抽出）	大釜 恵 野口 京子
12	ICTラウンド③【臨地演習】	ICTラウンドに参加（課題の検討）	大釜 恵 野口 京子
13	ICTラウンド④【臨地演習】	ICTラウンドに参加（課題の検討）	大釜 恵 野口 京子
14	ICTラウンド⑤【臨地演習】	ICTラウンドに参加（介入）	大釜 恵 野口 京子
15	ICTラウンド⑥【臨地演習】	ICTラウンドに参加（介入）	大釜 恵 野口 京子
16	ICTラウンド⑦【臨地演習】	ICTラウンドに参加（効果判定）	大釜 恵 野口 京子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
17	ICTラウンド⑧【臨地演習】	ICTラウンド　まとめ（学内）	野口 京子
18	教育①	医療従事者・関連職種（委託業者など）への「教育」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
19	教育②	患者・家族への「教育」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
20	実践①	母性・小児のいずれかを対象とした感染症または易感染患者の「実践」事例検討	青盛 真紀 渡部 節子 野口 京子
21	実践②	成人を対象とした感染症または易感染患者の「実践」事例検討	青盛 真紀 渡部 節子 野口 京子
22	実践③	老年を対象とした感染症患者または易感染患者の「実践」事例検討	青盛 真紀 渡部 節子 野口 京子
23	コンサルテーション①	母性・小児のいずれかを対象とした感染症患者または易感染患者の「コンサルテーション」事例検討	青盛 真紀 渡部 節子 野口 京子
24	コンサルテーション②	成人・老年のいずれかを対象とした感染症患者の「コンサルテーション」事例検討	青盛 真紀 渡部 節子 野口 京子
25	調整①	母性・小児のいずれかを対象とした感染症患者または易感染患者の「調整」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
26	調整②	成人・老人のいずれかを対象とした感染症患者または易感染患者の「調整」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
27	倫理①	母性・小児のいずれかを対象とした感染症患者または易感染患者の「倫理」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
28	倫理②	成人を対象とした感染症患者または易感染患者の「倫理」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
29	倫理③	老年を対象とした感染症患者または易感染患者の「倫理」事例検討	大釜 恵 渡部 節子 野口 京子
30	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1）課題レポート(40%)、プレゼンテーション及びディスカッションへの参加状況(60%)を統合的に評価する。 2）プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	感染管理・感染症看護テキスト　大曲貫夫他　照林社　ISBN 9784796523509
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨むこと。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学演習Ⅱ	演習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（60時間）	30回	1年後期	渡部 節子、大重 賢治、藤田 烈、大釜 恵、石橋 芳雄、木村 総一郎、市川 智恵、小田中 啓太、野口 京子

授業概要

消毒や滅菌、無菌法に関する基礎知識を教授すると共に、実験的手法を用いて手洗いや手指消毒、無菌法の臨床における応用について探求する。さらに、疫学調査法や統計学をもとに病院感染に対するサーベイランスの方法について演習し、それらの結果に基づいた感染症看護専門看護師の活動について探求する。

到達目標

1）消毒・滅菌・応用無菌法について実験的手法を用いて理解する。
2）手洗い、手指消毒の効果について実験的手法を用いて理解する。
3）疫学調査法・統計学及び感染症サーベイランスについて演習し、感染症看護専門看護師の活動について理解する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本講義概要とその特徴、講義の進め方に関するオリエンテーション	渡部 節子
2	微生物検査の基礎①【実験】	感染検体採取と取り扱いについて 微生物の分離・培養・保存	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
3	微生物検査の基礎②【実験】	感染検体採取と取り扱いについて 微生物の分離・培養・保存	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
4	微生物検査の基礎③【実験】	感染検体採取と取り扱いについて 微生物の同定法・グラム染色	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
5	微生物検査の基礎④【実験】	感染検体採取と取り扱いについて 微生物の同定法・グラム染色	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
6	手指衛生の効果①【実験】	手指衛生（手洗い）の効果についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
7	手指衛生の効果②【実験】	手指衛生（手洗い）の効果についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
8	手指衛生の効果③【実験】	手指衛生（手指消毒）の効果についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
9	手指衛生の効果④【実験】	手指衛生（手指消毒）の効果についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
10	環境中の病原性微生物の特徴①【実験】	環境中の病原性微生物についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
11	環境中の病原性微生物の特徴②【実験】	環境中の病原性微生物についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
12	環境中の病原性微生物の特徴③【実験】	環境中の病原性微生物についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太
13	環境中の病原性微生物の特徴④【実験】	環境中の病原性微生物についての実験的検証	市川 智恵 石橋 芳雄 木村 聡一郎 小田中 啓太

授業回数	テーマ	内容	担当教員
14	実験的検証結果のまとめ①	実験的検証結果について、臨床への還元、感染症看護への貢献について考察	野口 京子
15	実験的検証結果のまとめ②	実験的検証結果について、臨床への還元、感染症看護への貢献について考察	野口 京子
16	疫学調査法・統計学①【学内演習】	疫学研究の基礎知識、オッズ比・リスク比など記述疫学、解析・分析疫学として統計学の基礎	大重 賢治
17	疫学調査法・統計学②【学内演習】	単変量解析、多変量解析	大重 賢治
18	アドバンス統計学①【学内演習】	SPSSを用いた応用統計学(ダミーデータによる分析)	大重 賢治
19	アドバンス統計学②【学内演習】	SPSSを用いた応用統計学(ダミーデータによる分析)	大重 賢治
20	アドバンス統計学③【学内演習】	SPSSを用いた応用統計学(ダミーデータによる分析)	大重 賢治
21	アドバンス統計学④【学内演習】	SPSSを用いた応用統計学(ダミーデータによる分析)	大重 賢治
22	サーベイランス①【学内演習】	感染管理活動としてのサーベイランスについて 臨床での活用など	藤田 列
23	サーベイランス②【学内演習】	医療関連感染サーベイランスの基礎 サーベイランス概説、率算出、統計解析、 ベンチマークとの比較など	藤田 列
24	サーベイランス③【学内演習】	CLABSI、CAUTIのうち、いずれか模擬サーベイランスを実施	藤田 列
25	サーベイランス④【学内演習】	VAP、SSIのうち、いずれか模擬サーベイランスを実施	藤田 列
26	サーベイランス⑤【学内演習】	上記24-25で実施した内容をまとめ、結果のフィードバック演習	藤田 列
27	サーベイランス⑥【学内演習】	上記24-25で実施した内容をまとめ、結果のフィードバック演習	藤田 列
28	クラスター、アウトブレイク時の院内における対応①	クラスター、アウトブレイク発生時の病院内で行われる感染管理活動、感染症看護専門看護師の役割など	大釜 恵
29	クラスター、アウトブレイク時の院内における対応②	クラスター・アウトブレイク発生時の事例検討	大釜 恵
30	まとめ	教員、他学生とディスカッションを通したまとめ	渡部 節子

評価	1)レポート(20%)、実験やデータ処理などの実施状況(80%)を統合的に評価する。 2)レポートについては、課題に即した論証性・内容性(文献や具体例などの活用)・表現性などを重視する。 3)プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力を重視する。
教科書	感染対策のためのサーベイランス　まるごとサポートブック　改訂版　藤田烈　メディカ出版 ISBN-13: 978-4840481694 SPSSで学ぶ医療系データ解析　第2版　対馬栄輝　　ISBN-13: 978-4489022586
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	受講に際しては、基礎看護学教育や卒業後教育での既習内容を復習すると共に臨床における実践で培った知識・経験をまとめて講義に臨むこと。また、講義においては主体的な参加を期待する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学実習Ⅰ	実習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	実習日数	配当年次	科目担当教員
3単位（135時間）	3週間（16日）	1年後期	大釜 恵、野口 京子、渡部 節子

授業概要

第二種感染症受け入れ施設に勤務する感染症看護CNS(以下、CNS)の感染看護活動や感染管理の実際に参加し、CNSに求められる教育・実践・相談・調整・倫理に関する高度な看護実践能力を習得するとともに、第二種感染症関連の看護について学ぶ。

到達目標

1）CNSの役割・機能について理解する。
・病院の理念に基づいた感染防止対策について理解する。
・病院の感染管理システムについて理解する。
・CNSによる活動に参加し、実践・教育・相談・調整・倫理などのCNSの役割・機能を理解し、一部実施する。
2）第二種感染症受け入れ機関における感染看護について理解する。

日数	テーマ	内容	担当教員
1日目	学内における実習オリエンテーション 実習準備	横須賀市立市民病院において実習を行うためのオリエンテーションを学内で実施する。また、実習を行うにあたっての事前準備を行う。	野口 京子 渡部 節子
2日目	臨地にて実習オリエンテーション	横須賀市立市民病院において実習を行う。実習施設は横須賀市・三浦市の二次医療圏での第二種感染症指定医療機関、災害拠点病院、地域医療支援病院であり、さらに感染症及び感染看護としての先駆的な看護実践を行っている。実習施設の感染看護管理者(CNS)より、実習施設の概要やCNSへの役割期待と支援体制などについてオリエンテーションを受ける。	大釜 恵 野口 京子 渡部 節子
3日 ～ 最終日 前々日	臨地実習	1）CMSの活動に可能な限り同行しながら、CNSとしての実践・教育・相談・調整・研究・倫理の役割と機能について、参加観察をすることを通して学習する。 2）第二種感染症関連の看護について学習する。 3）ICTやASTに参加し、CNSの役割を学習する。 4）毎日実習終了後にCNSと共にカンファレンスを行い、CNSの役割と機能、必要な知識・技術・態度について検討し、内容を深める。 5）2週目に中間カンファレンスを実施する。	
最終日 前日	臨地にて最終カンファレンス	3週目最終日の前日に臨床実習指導者を交えての終了カンファレンスを実施する。	
最終日	学内における実習総括	CNSの活動および感染管理について学んだ内容を発表し、今後の活動に向けての展望や課題について共有する。	渡部 節子 野口 京子

評価	1）実習目標に即した実践状況、レポート、実習記録、面接、出席状況などを統合的に評価する。 　実践状況は、看護実践能力を重視する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）実習記録では、課題・問題への着目と維持性、自己の意見・疑問などの記載、評価内容を重視する。 4）面接では、疑問・課題などに向けたアイディア、相談・連携能力などを重視する。 5）出席を原則とする。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	実習に際しては共通科目及び感染看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習Ⅰ～Ⅱでの既習内容を復習するとともに、実践で培った知識・経験を統合して臨むこと。また、実習施設の理念・看護部の理念等を遵守し、対象への倫理的配慮、医療チームとの連携に配慮し、主体的な実習を行う。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学実習Ⅱ	実習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	**実習日数**	**配当年次**	**科目担当教員**
4単位（180時間）	4週間（22日）	2年前期	辻田 佳小里、野口 京子、渡部 節子

授業概要

感染症看護CNS（以下、CNS）が勤務する大学病院において易感染患者及び感染症患者を対象に看護実践を通して、CNSに求められる実践・教育・相談・調整・倫理に関する高度な看護実践能力を取得する。

到達目標

1）実習施設で患者を受け持ち、患者理解と適切な看護ケアについて、CNS・病棟の指導者、教員の指導を受けながらその内容を深め、CNSとしてより高度な専門的知識・技術を習得する。
　・易感染患者を全人的に捉え、さらに患者及び家族のニーズを明確にしながら看護実践を行い、易感染者に対する看護を習得する。
　・感染症に罹患している患者を全人的に捉え、さらに患者及び家族のニーズを明確にしながら看護ケアを行い、感染症患者の看護を習得する。
2）病院の理念に基づいた感染管理対策や感染管理システム、感染看護について理解する。
3）実習を通して、CNSとして活動するための組織における体制つくりやサポートシステムについて検討し、今後の活動に向けての課題を明らかにする。

日数	テーマ	内容	担当教員
1日目	学内における実習オリエンテーション 実習準備	横須賀市民「病院において実習を行うためのオリエンテーションを学内で実施する。また、実習を行うにあたっての事前準備を行う。	野口 京子 渡部 節子
2日目	臨地にて実習オリエンテーション	第1種感染症受け入れ機関である横浜市立大学市民総合医療センターにおいて4週間にわたり、実習を行うにあたってのオリエンテーションを実施する。実習施設における概要（感染管理対策や感染管理システムを含む）について説明を受ける。	辻田 佳小里 野口 京子 渡部 節子
3日目 ～ 最終日 前々日	臨地実習	1）実習1～4週間は、一般もしくは感染症病棟等において患者を受け持ち、教員及び実習指導者である大釜CNSの指導を受けながら学習した知識を活用し、患者理解・患者への直接ケア・ケアの評価を行う。カンファレンスなどを通して、看護及び医療チームで共有する。 2）患者選定・看護実践活動にあたっては、病棟管理者および指導者と相談しながら積極的にその役割を担うとともに、教員および指導者などから指導を受け、その内容を吟味しながら行う。 3）実習中は可能な限り看護師への実践モデルとしての教育的役割を果たすとともに、実習施設における教育プログラムに積極的に参加しながらCNSとしての教育活動の在り方について考察する。 4）実習場所でのカンファレンス及び学内でのカンファレンスを定期的に行い、看護チーム・CNS・他の学生・教員とのディスカッションを通して、実践した看護を評価し、CNSとして看護実践能力を向上させる。 5）1週目の後半か2週目前半に1人目の患者の中間カンファレンス、2週目後半に終了カンファレンスを実施する。また、3週目の後半か4週目前半に2人目の患者の中間カンファレンスを実施する。	
最終日 前日	臨地にて最終カンファレンス	4週目後半に実習指導者を交えて終了カンファレンスを実施する。	
最終日	学内にて実習総括	CNSの活動および感染管理について学んだ内容を発表し、今後の活動に向けての展望や課題について共有する。	渡部 節子 野口 京子

評価	1）実習目標に即した実践状況、レポート、実習記録、面接、出席状況などを統合的に評価する。 　実践状況は、看護実践能力を重視する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）実習記録では、課題・問題への着目と維持性、自己の意見・疑問などの記載、評価内容を重視する。 4）面接では、疑問・課題などに向けたアイディア、相談・連携能力などを重視する。 5）出席を原則とする。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	実習に際しては共通科目及び感染看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習Ⅰ～Ⅱ、実習Ⅰでの既習内容を復習するとともに、実践で培った知識・経験を統合して臨むこと。また、実習施設の理念・看護部の理念等を遵守し、対象への倫理的配慮、医療チームとの連携に配慮し、主体的な実習を行う。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
感染看護学実習Ⅲ	実習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	**実習日数**	**配当年次**	**科目担当教員**
3単位（135時間）	3週間（16日）	2年前期	渡部 節子、野口 京子、平野 克治

授業概要

感染症医のもとで感染症の診断・治療プロセスを学び、感染症看護CNS(以下CNS)としての高度な看護実践に必要な能力を習得する。

到達目標

1）罹患率が高い感染症の診断過程及び治療について理解する。
　・診断に必要な病歴聴取、フィジカルアセスメント、検査及び解釈について理解する。
　・治療方法として処置や抗菌薬の検討と効果の判定について理解する。
2）専門家の指導のもとに典型的な感染症事例について上記1）の一連のプロセスもしくはその一部について実施する。
3）上記1）及び2）を通して、事例をまとめることができる。

日数	テーマ	内容	担当教員
1日目	学内にて実習オリエンテーション	湘南東部総合病院において3週間にわたり、実習を行うための実習オリエンテーションを実施する。	野口 京子 渡部 節子
2日目	臨地にてオリエンテーション	湘南東部総合病院において3週間にわたり、実習を行うための実習場におけるオリエンテーションを行う。実習施設における概要（感染管理対策や感染管理システムを含む）について説明を受ける。	平野 克治 野口 京子 渡部 節子
3日目 ～ 最終日 前々日	臨地実習	1）実習は【救急センター長である平野医師】につき、感染症の診断過程および治療法について見学する。 2）抗菌薬の使用や耐性菌対策は医師より説明を受ける。 3）典型的な感染症事例について、医師の指導を受けながら一連のプロセスもしくはその一部を実施した場合はカンファレンスを行い、実施内容を深める。 4）見学および実施した事例をまとめる。 5）医師や看護師、臨床検査技師、臨床心理士、薬剤師、ケースワーカーなどの多職種連携などは積極的に参加し、多職種連携を学ぶ。 6）学内カンファレンスは1回/週程度で原則的に行い、教員並びに他学生とのディスカッションを通して、実践した看護を評価し、CNSとしての看護実践能力の向上に努める。	
最終日 前日	臨地にて最終カンファレンス	実習指導者を交えて最終カンファレンスを実施する。	
最終日	実習総括	見学・実践した診断～治療のプロセスや実践を通して学んだCNSの活動について学んだ内容を発表し、今後の活動に向けての展望や課題について共有する。	渡部 節子 野口 京子

評価	1）実習目標に即した実践状況、レポート、実習記録、面接、出席状況などを統合的に評価する。 　実践状況は、看護実践能力を重視する。 2）レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 3）実習記録では、課題・問題への着目と維持性、自己の意見・疑問などの記載、評価内容を重視する。 4）面接では、疑問・課題などに向けたアイディア、相談・連携能力などを重視する。 5）出席を原則とする。
教科書	適宜提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜提示する。
事前・事後学習 留意事項	実習に際しては共通科目及び感染看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習Ⅰ～Ⅱ、実習Ⅰ・Ⅱでの既習内容を復習するとともに、実践で培った知識・経験を統合して臨むこと。また、実習施設の理念・看護部の理念等を遵守し、対象への倫理的配慮、医療チームとの連携に配慮し、主体的な実習を行う。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

Ⅳ　専門科目（心身機能回復領域）

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
運動・動作制御学特論	講義	選択	柴田 昌和
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	柴田 昌和、櫻井 好美、土田 将之

授業概要

運動器障害の病態と発生メカニズムの解明や、各種の日常生活動作の分析を多角的に行う上で基礎となる運動制御機構とその解析方法について、解剖学、運動学、運動力学的観点から講義を行う。具体的には、基本的な筋・骨格の構造と神経系の解析、筋・神経の障害発生についての考察、各種基本動作の運動学特徴と運動力学的要求、三次元動作解析装置を用いた運動力学的評価の実践方法、身体運動の力学的な解釈の方法について論じる。

到達目標

1）骨格系の基本構造と機能について説明できる。
2）筋系の基本構造と機能について説明できる。
3）神経系の基本構造と機能について説明できる。
4）基本動作の力学的要求と筋の作用について説明できる。
5）三次元動作解析装置の基本原理と得られるデータの特性について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	骨格系の正常構造と機能	骨格系の基本構造と機能について解説する。	柴田 昌和
2	骨格系の障害	骨格で構成される関節の正常構造および変異について解説する。	柴田 昌和
3	筋系の正常構造と機能	筋系の組織学的な基本構造と機能について解説する。	柴田 昌和
4	筋のメカニズムと障害	筋系の肉眼的な基本構造と機能について解説する。	柴田 昌和
5	中枢神経系の正常構造と機能	中枢神経系の発生と基本構造について解説する。	柴田 昌和
6	末梢神経系の正常構造と機能	末梢神経系の基本構造と機能について解説する。	柴田 昌和
7	中枢神経と末梢神経系の障害	中枢神経と末梢神経系の走行異常と障害について解説する。	柴田 昌和
8	神経筋接合部の正常構造と機能	神経筋接合部の解剖学的・生理学的特徴と機能について解説する。	土田 将之

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	基本動作の加速度変化	加速度計の原理と基本動作の計測方法について解説する。	土田 将之
１０	関節構造とバイオメカニクスの原理	骨・軟骨・腱・靭帯および関節のバイオメカニクスについて解説する	櫻井 好美
１１	基本動作の力学的要求1	身体運動の力学的な解釈について解説する。	櫻井 好美
１２	基本動作の力学的要求2	基本動作と病態力学について解説する。	櫻井 好美
１３	動作解析の基礎	各種計測機器の特性と限界について解説する。	櫻井 好美
１４	三次元動作解析の実践方法	三次元動作解析装置を用いた運動力学的評価の実践方法について解説する。	櫻井 好美
１５	三次元動作解析におけるデータの取り扱い	運動力学的評価におけるデータの解釈について解説する。	櫻井 好美

評価	期末試験80%、レポート20%で総合評価
教科書	随時資料を配布
参考図書 参考WEBページ	柴田：Anatomy and Human Movement: Structure and function. Elsevier Health Sciences; /7th Revised版 / ISBN：978-0750609708. エッセンシャル・キネシオロジ―第3版/南江堂/ISBN：978-4-524-22653-5 櫻井：オーチスのキネシオロジー原著第2版　ラウンドフラット（2012）/ISBN:978-4904613、その他講義中に紹介する。
事前・事後学習 留意事項	配布資料を予習し、学習後は復習すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
運動・動作制御学演習	演習	選択	柴田 昌和
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	柴田 昌和、櫻井 好美、土田 将之

授業概要

運動・動作制御学特論で修得した理論を軸として、基本的な筋・骨格の構造と神経系の解析、筋・神経の障害発生に関して、具体的症例を取り上げ、実践的な考察を深める。また、基本動作の運動学特徴と運動力学的要求、三次元動作解析装置を用いた具体的な測定の実践、それらの解釈を具体的演習を通じて探求していく。

到達目標

1）骨格系の解剖学的変異と形態形成について説明できる。
2）筋系の解剖学的変異と形態形成について説明できる。
3）神経系の解剖学的変異と形態形成について説明できる。
4）三次元動作解析装置を用いた計測を行うことができる。
5）データから予測される結果と考察について発表を行う。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	骨格系の正常構造と解剖学的変異	基本的な骨格系の正常構造と変異や形態形成について解説する。	柴田 昌和
2	骨格系の正常構造と病理学的変異	基本的な骨格系の正常構造と変異や形態形成について解説する。	柴田 昌和
3	骨格系の解剖学的変異と形態形成	骨格系に関する論文報告例より解剖学的変異と形態形成について解説する。	柴田 昌和
4	骨格系の解剖学的変異と形態形成 （骨変形）	骨格系に関する論文報告例より解剖学的変異と形態形成について解説する。	柴田 昌和
5	筋系の正常構造と解剖学的変異	基本的な筋系の正常構造と変異について解説する。	柴田 昌和
6	筋系の正常構造と解剖学的変異と形態異常	基本的な筋系の正常構造と変異や形態異常について解説する。	柴田 昌和
7	筋系の解剖学的変異と形態形成 （先天性）	筋系に関する論文報告例より先天的な解剖学的変異と形態形成について解説する。	柴田 昌和
8	筋系の解剖学的変異と形態形成 （後天性）	筋系に関する論文報告例より後天的な解剖学的変異と形態形成について解説する。	柴田 昌和
9	中枢神経系の組織構造と変異	中枢神経系の組織的的な正常構造と変異・障害について解説する。	柴田 昌和
１０	末梢神経系の組織的正常構造と変異	中枢神経系の組織的的な正常構造と変異・障害について解説する。	柴田 昌和
１１	運動器の構造と解剖学的変異と形態形成の文献レビュー(文献検索とキーワード)	論文報告にある運動障害に関する文献検索と記ワードについて解説する。	柴田 昌和
１２	運動器の構造と解剖学的変異と形態形成の文献レビュー（抄録分析）	論文報告によるレビューのデータから障害の状態や治療効果について実践的な考察ができるように解説する。	柴田 昌和
１３	運動器の構造と解剖学的変異と形態形成の文献レビュー（文献の考察）	論文報告によるレビューのデータから障害の状態や治療効果について実践的な考察ができるように解説する。	柴田 昌和
１４	運動器の構造と解剖学的変異と形態形成の文献レビュー（データ整理）	各自に文献より得たデータを示し、予測されるデータについて発表を行う。	柴田 昌和

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１５	神経筋接合部への介入演習（神経筋電気刺激療法）	神経筋接合部の機能向上を目的とした介入方法の演習を行う。	土田 将之
１６	神経筋接合部への介入演習（機能的電気刺激療法）	神経筋接合部の機能向上を目的とした介入方法の演習を行う。	土田 将之
１７	加速度計を用いた動作計測演習（立ち上がり動作）	加速度計を用いた立ち上がり動作計測の基本的な処理とデータの解釈について演習を行う。	土田 将之
１８	加速度計を用いた動作計測演習（歩行動作）	加速度計を用いた歩行動作計測の基本的な処理とデータの解釈について演習を行う。	土田 将之
１９	三次元動作計測演習 （計測環境の設定と手順）	三次元動作計測の一連の流れと基本的な操作について演習を行う。	櫻井 好美
２０	三次元動作計測演習 （計測演習）	三次元動作計測の一連の流れと基本的な操作について演習を行う。	櫻井 好美
２１	床反力データの解析（データ解釈）	床反力データの解釈について解説する。	櫻井 好美
２２	慣性データの解析（データ抽出）	加速度・角速度計測、関節角度の算出を行う。	櫻井 好美
２３	慣性データの解析（データ解釈）	加速度・角速度・角加速度の解釈について解説する。	櫻井 好美
２４	関節モーメントの解析	床反力データ、慣性データから関節モーメントを算出する。	櫻井 好美
２５	関節モーメントと各種データとの関係性	関節モーメントと各種データとの関係性について解説する。	櫻井 好美
２６	三次元動作計測に関する文献レビュー （文献検索）	三次元動作解析の臨床応用について文献レビューを行う。	櫻井 好美
２７	三次元動作計測に関する文献レビュー （手法と結果の分析）	三次元動作解析の臨床応用について文献レビューを行う。	櫻井 好美
２８	三次元動作計測に関する文献レビュー （考察の分析）	三次元動作解析の臨床応用について文献レビューを行う。	櫻井 好美
２９	三次元動作計測に関する文献レビュー （データ整理）	三次元動作解析の臨床応用についての文献レビュー結果をもとに、計測したデータの考察を発表する。	櫻井 好美
３０	三次元動作計測に関する文献レビュー （総合考察）	三次元動作解析の臨床応用についての文献レビュー結果をもとに、計測したデータの考察を発表する。	櫻井 好美

評価	筆記試験50%、研究報告50%で総合評価する。
教科書	随時論文等の資料を配布
参考図書 参考WEBページ	柴田：Anatomy and Human Movement: Structure and function. Elsevier Health Sciences; /7th Revised版 / ISBN：978-0750609708. エッセンシャル・キネシオロジ―第3版/南江堂/ISBN：978-4-524-22653-5 櫻井：オーチスのキネシオロジー原著第2版　ラウンドフラット（2012）/ISBN:978-4904613、その他講義中に紹介する。
事前・事後学習 留意事項	配布資料を予習し、学習後は復習すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
呼吸循環機能学特論	講義	選択	森尾 裕志
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	森尾 裕志、定本 清美、浦 裕之、中村 壽志、横山 仁志

授業概要

呼吸と循環の機能は、循環器疾患患者や呼吸器疾患患者のみならず、神経筋疾患患者や高齢者などでも低下が生じ、これら機能の低下が活動や社会参加の制限をもたらす原因となることがある。本特論では、身体の機能と構造、身体能力、活動と社会参加に関する最近の学説とエビデンスを整理・統合する。また、呼吸循環機能低下者に対する介入の原則と理論の再検を行う。これらを踏まえ、呼吸循環機能の低下した者の活動回復と社会参加の機会向上に対する包括的支援の体系化を考え論じる。

到達目標

1）呼吸器疾患患者と循環器疾患患者の疫学と支援の目標を具体的に述べることができる。
2）上記患者に生じる身体機能、構造、能力、活動と社会参加の変化を具体的に述べることができる。
3）上記患者に対する支援課題を説明し、その解決策を述べることができる。
4）上記患者に対する体系化した支援を、理論と実践の両面から述べることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	循環器疾患患者に生じる身体の機能と構造の変化	循環器疾患患者の身体機能と身体構造の変化について教授する。	森尾　裕志
2	循環器疾患患者に生じる能力低下，活動と社会参加の制限	循環器疾患患者に生じる能力低下、活動と社会参加の制限について教授する。	森尾　裕志
3	循環器疾患に生じる身体機能と構造の変化への支援	循環器疾患患者の身体機能と構造の変化に対する支援の方法と根拠について教授する。	森尾　裕志
4	循環器疾患に生じる能力低下，活動と社会参加制限への支援	循環器疾患患者の能力低下、活動と社会参加の制限に対する支援の方法と根拠について教授する。	森尾　裕志
5	呼吸器疾患および循環器疾患患者に対する支援の必要性	呼吸器疾患および循環器疾患患者の疫学を踏まえ、支援の必要性を考える。	定本　清美 浦　裕之
6	呼吸器疾患患者に生じる身体の機能と構造の変化	呼吸器疾患患者の身体の機能と構造の変化を考える。	定本　清美 浦　裕之
7	循環器疾患に対する支援課題	循環器疾患患者への支援課題を再検証する。	森尾　裕志
8	循環器疾患患者に対する支援課題の解決	循環器疾患患者への支援課題解決に対する具体的な方法を教授する。	森尾　裕志

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	循環器疾患患者に対する支援の体系化	循環器疾患患者に対する包括的支援の体系化の必要性について教授する。	森尾　裕志
１０	呼吸循環器疾患を併存する糖尿病患者のセルフケアを支援するための課題	マルチモビディの介入における課題について教授する。	中村　壽志
１１	呼吸循環器疾患を併存する糖尿病患者のセルフケアを支援するための体系化	マルティモビディの介入における体系化の必要性について教授する。	中村　壽志
１２	呼吸器疾患患者に生じる能力低下，活動と社会参加の制限への支援	呼吸器疾患患者の能力低下、活動と社会参加の制限に対する支援の方法と根拠を再検証する。	横山　仁志
１３	呼吸器疾患患者に対する支援課題	呼吸器疾患患者への支援課題を再検証する。	横山　仁志
１４	呼吸器疾患患者に対する支援課題の解決	呼吸器疾患患者への支援課題の解決を、理論的に考える。	横山　仁志
１５	呼吸器疾患患者に対する支援の体系化	呼吸器疾患患者に対する包括的支援の体系化を考える。	横山　仁志

評価	レポート 100%として評価する。
教科書	なし（随時論文等の資料を配布する）
参考図書 参考WEBページ	内部障害理学療法学テキスト/山﨑裕司・川俣幹雄・丸岡弘（編集）/南江堂/改訂第4版/ISBN:978-4-524-23117-1. 疾患別リハビリテーションリスク管理マニュアル/聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部（編集）/ヒューマン・プレス/ISBN 978-4-908933-11-0
事前・事後学習 留意事項	講義中、毎回発言を求める。必ず事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
呼吸循環機能学演習	講義	選択	森尾 裕志
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	森尾 裕志、定本 清美、浦 裕之、中村 壽志、山田 拓実、横山 仁志

授業概要

呼吸循環機能学特論で修得した理論を軸として、呼吸循環機能低下者に対する介入の具体例を検証し、実践的な考察を深め、問題点の具体化と改善方法の探求を展開する。また、身体の機能と構造、身体能力、活動と社会参加に関する最近の学説を具体例を通じて検証していく。

到達目標

1）呼吸器疾患患者と循環器疾患患者に対する支援を立案・実施できる。
2）呼吸器疾患患者と循環器疾患患者に対する支援を再検し、再立案できる。
3）呼吸器疾患患者と循環器疾患患者に対する支援効果を論理的に説明できる。
4）呼吸器疾患患者と循環器疾患患者に対する支援の限界に対する代替手段を提示できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	循環器疾患患者を対象とした調査研究	循環器疾患患者を対象とした調査研究のレビューを演習する。	森尾　裕志
2	循環器疾患患者を対象とした調査研究例の妥当性検証	循環器疾患患者を対象とした調査研究例の妥当性検証について演習する。	森尾　裕志
3	循環器疾患患者を対象とした介入研究	心肺運動負荷試験を実施し、循環器疾患患者に対する支援プログラムの立案を演習する。	森尾　裕志
4	循環器疾患患者を対象とした介入研究例の妥当性検証	心肺運動負荷試験出られたデータの解釈について演習する。	森尾　裕志
5	事例検討の必要性	呼吸器疾患および循環器疾患患者に関する事例検討の必要性を演習形式で考える。	定本　清美 浦　裕之
6	呼吸器疾患および循環器疾患患者の事例検討	呼吸器疾患および循環器疾患患者に関する事例検討を演習形式で行う。	定本　清美 浦　裕之
7	呼吸器疾患および循環器疾患患者を対象とした調査研究の方法	呼吸器疾患患者を対象とした調査研究のレビューを演習する。	定本　清美 浦　裕之
8	呼吸器疾患患者に生じる身体の機能と構造の変化の調査研究例	呼吸器疾患患者に生じる身体の機能と構造の変化の調査研究のレビューを演習する。	定本　清美 浦　裕之
9	循環器疾患患者に対する支援の実施	模擬循環器疾患患者に対して支援を演習する。	森尾　裕志
１０	循環器疾患患者に対する支援の研究例の妥当性検証	循環器疾患患者に対する支援の研究例の妥当性検証について演習する。	森尾　裕志
１１	循環器疾患患者に対する支援の再検と支援プログラムの再立案	循環器疾患患者に対する支援プログラムから得られた変化の論理的な解釈を演習する。	森尾　裕志
１２	循環器疾患患者に対する支援の再検と支援プログラム研究	循環器疾患患者に対する支援プログラム研究をレビューし、妥当性について検証する。	森尾　裕志
１３	循環器疾患患者に対する支援の体系化	循環器疾患患者に対する支援に用いる事のできる代替手段について演習する。	森尾　裕志
１４	循環器疾患患者に対する支援の体系化の妥当性検証	循環器疾患患者に対する支援の体系化の妥当性検証について演習する。	森尾　裕志

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１５	呼吸循環器疾患を併存する糖尿病患者の事例検討	マルチモビディとしての糖尿病のセルフケア支援に関する事例検討を演習形式で行う。	中村　壽志
１６	呼吸循環器疾患を併存する糖尿病患者を対象とした調査研究の方法	マルチモビディとしての糖尿病のセルフケア支援に関する調査研究のレビューを演習する。	中村　壽志
１７	呼吸循環器疾患を併存する糖尿病患者の身体機能と構造変化の調査事例	マルチモビディにおける糖尿病患者の身体機能と構造変化について、調査研究のレビューを演習する。	中村　壽志
１８	呼吸循環器疾患を併存する糖尿病患者を対象とした研究例の妥当性検証	マルチモビディにおける糖尿病のセルフケア支援について、調査研究例の妥当性検証を演習する。	中村　壽志
１９	呼吸器疾患および循環器疾患患者を対象とした調査研究例	呼吸器疾患および循環器疾患患者を対象とした調査研究例の検証について演習する。	山田　拓実
２０	循環器疾患患者に対する支援プログラムの立案	循環器疾患患者に対する支援プログラムから得られた変化の論理的な解釈を演習する。	山田　拓実
２１	循環器疾患患者に対する支援プログラム研究の妥当性検証	循環器疾患患者に対する支援プログラム研究例の妥当性検証について演習する。	山田　拓実
２２	呼吸循環器疾患を対象とした介入研究例の妥当性検証	呼吸循環器疾患患者を対象とした介入研究例の妥当性検証について演習する。	山田　拓実
２３	呼吸循環器疾患を対象とした介入研究例の提示	呼吸循環器疾患患者を対象とした介入研究のレビューを演習する。	山田　拓実
２４	呼吸器疾患を対象とした介入研究例の妥当性検証	呼吸器疾患患者に対する介入研究例の妥当性検証について演習する。	山田　拓実
２５	呼吸器疾患患者に生じる身体の機能と構造の変化の追調査	呼吸器疾患患者に生じる身体の機能と構造の変化の調査研究例を提示し、妥当性を検証する。	横山　仁志
２６	呼吸器疾患患者に対する支援プログラムの立案	呼吸器疾患患者に対する支援プログラムの立案を演習する。	横山　仁志
２７	呼吸器疾患患者に対する支援プログラムの立案の妥当性検証	呼吸器疾患患者に対する支援プログラム立案の妥当性検証について演習する。	横山　仁志
２８	呼吸器疾患患者に対する支援の再検と支援プログラムの再立案	模擬呼吸器疾患患者に対して実施した支援の再検と支援プログラムの再立案を演習する。	横山　仁志
２９	呼吸器疾患患者に対する支援効果の解釈	得られた変化の論理的な解釈を演習する。	横山　仁志
３０	呼吸器疾患患者に対する支援の体系化	呼吸器疾患患者に対する支援に用いることのできる代替手段を演習する。	横山　仁志

評価	レポート 100%として評価する。
教科書	なし（随時論文等の資料を配布する）
参考図書 参考WEBページ	内部障害理学療法学テキスト/山﨑裕司・川俣幹雄・丸岡弘（編集）/南江堂/改訂第4版/ISBN:978-4-524-23117-1. 疾患別リハビリテーションリスク管理マニュアル/聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部（編集）/ヒューマン・プレス/ISBN 978-4-908933-11-0
事前・事後学習 留意事項	講義中、毎回発言を求める。必ず事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
運動機能回復学特論	講義	選択	田邉 浩文
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	田邉 浩文、大森 圭貢、山田 拓実、中尾 陽光、下田 栄次

授業概要

身体の運動機能回復の視点から、高齢者や骨関節疾患患者における運動機能障害を広くとらえ、それらを科学的に評価し、回復のためのメカニズムを考慮した治療へ繋げる方法論に関して論じる。また、中枢神経系障害患者に対する運動機能回復も同様に、評価・治療原理・実践的な方法論に関して論じる。

到達目標

運動機能障害の評価と治療に関する研究手法について理解を深めることを目標に、次の到達目標を設定する。
1）中枢神経疾患及び運動器疾患の運動器障害の治療効果の判定と治療法に関する最新の知見を知る。
2）科学的手法による研究成果を、学術的背景に基づき発表できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	脳血管疾患における運動機能回復 論文抄読1. ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	田邉 浩文
2	脳血管疾患における運動機能回復 論文抄読2. ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	田邉 浩文
3	脳血管疾患における運動機能回復 論文抄読3. ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	田邉 浩文
4	脳血管疾患における運動機能回復 論文抄読4. ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の運動機能回復を支援するロボット工学に関する論文を発表し、効果的なアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	田邉 浩文
5	高齢者を中心とした機能・能力障害を捉える理学療法評価および理学療法 論文抄読5. ディスカッション	授業テーマに関する論文を講読し、特に下肢筋力を中心に適切な機能・能力障害評価および理学療法を論議し、この分野に関するエビデンスの理解と実践力を深める。	大森 圭貢
6	高齢者を中心とした機能・能力障害を捉える理学療法評価および理学療法 論文抄読6. ディスカッション	授業テーマに関する論文を講読し、特に下肢筋力を中心に適切な機能・能力障害評価および理学療法を論議し、この分野に関するエビデンスの理解と実践力を深める。	大森 圭貢
7	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読7. ディスカッション	担当教員が示す運動機能障害の回復に関する症例報告論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする	大森 圭貢
8	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読8. ディスカッション	担当教員が示す運動機能障害の回復に関する症例報告論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする	大森 圭貢

授業回数	テーマ	内容	担当教員
9	高齢者運動機能障害に関する事例検討 論文抄読9. ディスカッション	担当教員が示す高齢者の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	山田 拓実 下田 栄次
１０	高齢者運動機能障害に関する事例検討 論文抄読10. ディスカッション	担当教員が示す高齢者の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	山田 拓実 下田 栄次
１１	内部障害運動機能障害に関する事例検討 論文抄読11. ディスカッション	担当教員が示す内部障害患者の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	山田 拓実 下田 栄次
１２	整形外科疾患運動機能障害に関する事例検討 論文抄読12. ディスカッション	担当教員が示す整形外科疾患患者の運動機能回復に関する論文を発表し、効果的な評価法およびアプローチ実践方法について講義し、ディスカッションをする。	山田 拓実 下田 栄次
１３	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害に対する運動機能回復に関する事例検討 文献抄読13. ディスカッション	授業テーマに関する論文を講読し、特に下肢の整形外科疾患やスポーツ疾患を中心に適切な機能・能力評価および理学療法実践方法を論議し、この分野に関するエビデンスの理解と実践力を深める。	中尾 陽光
１４	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害に対する運動機能回復に関する事例検討 文献抄読14. ディスカッション	授業テーマに関する論文を講読し、特に下肢の整形外科疾患やスポーツ疾患を中心に適切な機能・能力評価および理学療法実践方法を論議し、この分野に関するエビデンスの理解と実践力を深める。	中尾 陽光
１５	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害に対する運動機能回復に関する事例検討 文献抄読15. ディスカッション	授業テーマに関する論文を講読し、特に下肢の整形外科疾患やスポーツ疾患を中心に適切な機能・能力評価および理学療法実践方法を論議し、この分野に関するエビデンスの理解と実践力を深める。	中尾 陽光

評価	課題提出レポートと課題発表内容により成績を判定する。評価に占める割合は、レポート60%と発表内容が40%とする。
教科書	運動機能障害に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので、必ず目を通し、質問事項を準備して授業に臨んでください。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
運動機能回復学演習	演習	選択	田邉 浩文
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	田邉 浩文、大森 圭貢、山田 拓実、中尾 陽光、下田 栄次

授業概要

運動機能回復学特論で修得した理論を軸として、高齢者や骨関節疾患患者、脳卒中やパーキンソン病を中心とした中枢神経系患者等、具体的な事象や事例を通じて、実践的な考察を深め、運動機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求していく。

到達目標

運動機能障害の各種事象・事例に対して、具体的な介入研究方法を知るために、次の到達目標を設定する。
1）中枢神経疾患及び運動器疾患の事例に対して、問題点を具体化するとともに改善方法について探求できる。
2）事例研究成果を学術的背景に基づき解釈し発表できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読1. ディスカッション	脳血管疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	田邉 浩文
2	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読2. ディスカッション	脳血管疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	田邉 浩文
3	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読3. ディスカッション	脳血管疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	田邉 浩文
4	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読4. ディスカッション	脳血管疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	田邉 浩文
5	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読5. ディスカッション	脳血管疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	田邉 浩文
6	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読6. ディスカッション	脳血管疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	田邉 浩文
7	脳血管疾患における運動機能回復 論文抄読7. ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の運動機能回復に関する分析方法についての論文を発表し、効果的な評価・分析実践方法についてディスカッションをする。	田邉 浩文
8	脳血管疾患における運動機能回復 論文抄読8. ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の運動機能回復に関する分析方法についての論文を発表し、効果的な評価・分析実践方法についてディスカッションをする。	田邉 浩文
9	高齢者の機能・能力を捉えるための評価 論文抄読9. ディスカッション	高齢者の機能・能力を捉えるための評価に関する論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１０	高齢者の機能・能力を捉えるための評価 論文抄読10. ディスカッション	高齢者の機能・能力を捉えるための評価に関する論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１１	高齢者の運動機能回復 論文抄読11. ディスカッション	高齢者の運動機能回復に関する1事例実験研究論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１２	高齢者の運動機能回復 論文抄読12. ディスカッション	高齢者の運動機能回復に関する1事例実験研究論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１３	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読13. ディスカッション	パーキンソン病などの中枢神経疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１４	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読14. ディスカッション	パーキンソン病などの中枢神経疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１５	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読15．ディスカッション	内部障害などの運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１６	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読16．ディスカッション	内部障害などの中枢神経疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションする。	大森 圭貢
１７	高齢者運動機能障害に関する事例検討 論文抄読17．ディスカッション	高齢者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	下田 栄次
１８	高齢者運動機能障害に関する事例検討 論文抄読18．ディスカッション	高齢者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	下田 栄次
１９	高齢者運動機能障害に関する事例検討 論文抄読19．ディスカッション	高齢者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	山田 拓実
２０	内部障害運動機能障害に関する事例検討 論文抄読20．ディスカッション	内部障害患者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	山田 拓実
２１	内部障害運動機能障害に関する事例検討 論文抄読21．ディスカッション	内部障害患者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	下田 栄次
２２	内部障害運動機能障害に関する事例検討 論文抄読22．ディスカッション	内部障害患者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	下田 栄次
２３	整形外科疾患に関する事例検討 論文抄読23．ディスカッション	整形外科疾患患者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	山田 拓実
２４	整形外科疾患に関する事例検討 論文抄読24．ディスカッション	整形外科疾患患者の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	山田 拓実
２５	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害における運動機能回復に関する事例検討 論文抄読25．ディスカッション	下肢整形外科疾患およびスポーツ疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	中尾 陽光
２６	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害における運動機能回復に関する事例検討 論文抄読26．ディスカッション	下肢整形外科疾患およびスポーツ疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	中尾 陽光
２７	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害における運動機能回復に関する事例検討 論文抄読27．ディスカッション	下肢整形外科疾患およびスポーツ疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	中尾 陽光
２８	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害における運動機能回復に関する事例検討 論文抄読28．ディスカッション	下肢整形外科疾患およびスポーツ疾患の運動機能回復に関する症例報告論文を発表し、その内容についてディスカッションをする。	中尾 陽光
２９	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害における運動機能回復に関する検討 論文抄読29．ディスカッション	下肢整形外科疾患やスポーツ疾患の運動機能回復に関する評価方法について、測定器具を用いて実践し、その内容についてディスカッションする。	中尾 陽光
３０	下肢整形外科疾患およびスポーツ外傷・障害における運動機能回復に関する検討 論文抄読30．ディスカッション	下肢整形外科疾患やスポーツ疾患の運動機能回復に関する評価方法について、測定器具を用いて実践し、その内容についてディスカッションする。	中尾 陽光

評価	課題提出レポートと課題発表内容により成績を判定する。評価に占める割合は、レポート60%と発表内容が40%とする。
教科書	運動機能障害に関連した主な原著論文を用います。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので、必ず目を通し、質問事項を準備して授業に臨んでください。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
脳機能回復学特論	講義	選択	鈴木 雄介
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	鈴木 雄介、鶴見 隆正、坂上 昇、増田 雄亮、三川 年正、杉村 直哉

授業概要

脳機能の障害を理解し、対象者の多様な障害像に応じた実践的アプローチについて、最新の実践技術を探究することを目的とする。脳の機能不全によって引き起こされるところの、脳・神経による運動制御の機能障害、高次脳機能障害、発達障害、精神機能障害等の多様な障害像、ならびに地域社会で生きる上での生活障害について論じる。本科目の特色は、脳機能と障害の関係、具体的には運動制御機能、認知機能、高次脳機能、精神機能等への効果的な運動、動作、行動、ならびに社会参加含む、具体的アプローチについての理論と実践技術の科学的磨き方について論じる。

到達目標

（鈴木）疾病あるいは外傷による脳損傷、それに付随する高次脳機能障害と背景にある脳病態との関連性を理解し、さらにそのリハビリテーションにおける応用について理解することができる。
（鶴見）障害児・者の医療から地域社会への参加活動の意義について理解し、自身の考えを述べることができる。
（坂上）運動発達と中枢神経機構の関連、脳性麻痺に代表される小児の中枢神経疾患の病態と障害を理解し、その概略を述べることができる。
（三川）精神疾患の違いを説明でき、それぞれの関わり方を説明できる。
（増田）神経可塑性に関与するリハビリテーションのエビデンスと神経科学を基盤としたリハビリテーションの臨床応用について理解できる。
（杉村）精神疾患における認知機能の最新の知見を理解し、課題の解決に必要な研究手法やアウトカム指標について検討できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション/高次脳機能障害総論	大脳皮質の解剖と機能の理解、高次脳機能障害の総論	鈴木 雄介
2	高次脳機能障害各論（脳病態との関連）	高次脳機能障害と背景にある脳病態との関連性の理解	鈴木 雄介
3	高次脳機能障害各論（注意・記憶）	注意・記憶に関する高次脳機能障害とリハビリテーション	鈴木 雄介
4	高次脳機能障害各論（高次知覚・行為）	高次知覚・行為に関する高次脳機能障害とリハビリテーション	鈴木 雄介
5	高次脳機能障害各論（遂行機能・情緒と感情）	遂行機能・情緒と感情に関する高次脳機能障害とリハビリテーション	鈴木 雄介
6	障害児・者の医療・地域生活への支援1	医療における障害児・者への社会参加の現状と課題	鶴見 隆正
7	障害児・者の医療・地域生活への支援2	地域社会環境の構築と障害児・者へのアプローチ	鶴見 隆正
8	運動発達と中枢神経機構1	運動発達、特に歩行獲得までの中枢神経機構の関連について	坂上 昇

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	運動発達と中枢神経機構2	運動発達障害に関する脳病変の理解と理学療法について	坂上 昇
１０	神経可塑性とエビデンス1 （EBM・データサイエンス・統計学の基礎知識）	EBMの基礎知識、神経可塑性に関与するリハビリテーションのエビデンス、ひとの知能と人工知能・データサイエンスとリハビリテーション統計学	増田 雄亮
１１	神経可塑性とエビデンス2 （エビデンスの臨床活用）	神経科学を基盤としたリハビリテーションの臨床応用・セラピストのエビデンスに基づく実践スキル	増田 雄亮
１２	精神疾患と脳機能（評価）	脳機能の視点を中心に、精神疾患に対する評価方法	三川 年正
１３	精神疾患と脳機能（関わり）	脳機能の視点を中心に、精神疾患に対する関わり方	三川 年正
１４	神経認知、社会認知、メタ認知	神経認知、社会認知、メタ認知に対するリハビリテーション戦略	杉村 直哉
１５	認知機能に関連するアウトカム	認知機能に関連するアウトカム指標の検討	杉村 直哉

評価	レポート100%
教科書	リハビリテーション学、理学療法学、作業療法学、看護学などに関連した主な原著論文を用いる。 その他は適宜資料配布する。
参考図書 参考WEBページ	（鈴木）高次脳機能障害学／石合純夫／医歯薬出版／2版／978-4-263-21396-4 脳のしくみとそのみかた／植村研一／医学書院／978-4-260-03195-0 （鶴見）障害児・者に関する資料を適宜紹介する。 （坂上）発達を学ぶ　人間発達学レクチャー／森岡周 著／協同医書出版社／978-4-7639-1077-6 （三川）講義内で随時紹介する （増田）ニューロリハビリテーション／道免和久／医学書院／978-4-260-02009-1 みんなのEBMと臨床研究／神田善伸／南江堂／978-4-524-25548-1 （杉村）講義内で随時紹介する。
事前・事後学習 留意事項	各単元のテーマ、内容について事前学習し、講義後は復習すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
脳機能回復学演習	演習	選択	鈴木 雄介
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年後期	鈴木 雄介、鶴見 隆正、坂上 昇、増田 雄亮、三川 年正、杉村 直哉

授業概要

脳機能回復学特論で修得した理論を軸として、脳機能と障害の関係、具体的には身体制御機能、高次脳機能、精神機能等への効果的な運動、動作、行動、作業方法ならびに社会参加を含む、具体的アプローチを演習として実践する。そして実践技術を創造する院生の能力の向上を図る。

到達目標

（鈴木）脳機能回復学特論において学んだ知識を深めるために高次脳機能障害の評価あるいはそれのリハビリテーションに関連する内外の文献について討議し、研究の進展方法、まとめ方、発表、表現方法について学習し、自己の研究を効率的に遂行できる。
（鶴見）障害児・者の社会参加に関する文献抄読から課題の方略について述べることができる。
（坂上）運動発達障害の病態、評価およびリハビリテーションに関する最近の研究動向を、論文抄読を通じて知り、その概略を述べることができる。
（三川）精神疾患の評価方法を理解でき、それぞれの関わり方を実践で用いる事ができる。
（増田）自身の研究テーマと関連性が深い研究論文を抄読し、研究の独自性・新規性・創造性などについて議論する。また、リハビリテーション科学・神経科学分野に関連する質の高い研究論文の抄読を通して、批判的吟味のスキルを高め、臨床適用の可能性について考察する。
（杉村）精神疾患の神経認知に関する最新の知見を理解し、それを多角的かつ慎重に検討することで、新たな研究課題の創出につなげる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	高次脳機能障害に関する文献抄読①	高次脳機能障害に関するさまざまな側面からの具体的アプローチについての文献を抄読し論考演習を行う。	鈴木 雄介
2	高次脳機能障害に関する文献抄読②	高次脳機能障害に関するさまざまな側面からの具体的アプローチについての文献を抄読し論考演習を行う。	鈴木 雄介
3	高次脳機能障害に関する文献抄読③	高次脳機能障害に関するさまざまな側面からの具体的アプローチについての文献を抄読し論考演習を行う。	鈴木 雄介
4	高次脳機能障害に関する文献抄読④	高次脳機能障害に関するさまざまな側面からの具体的アプローチについての文献を抄読し論考演習を行う。	鈴木 雄介
5	高次脳機能障害に関する文献の批判的解釈課題①	高次脳機能障害に関する科学論文をクリティカルに読み論考演習を行う。	鈴木 雄介
6	高次脳機能障害に関する文献の批判的解釈課題②	高次脳機能障害に関する科学論文をクリティカルに読み論考演習を行う。	鈴木 雄介
7	高次脳機能障害に関する文献の批判的解釈課題③	高次脳機能障害に関する科学論文をクリティカルに読み論考演習を行う。	鈴木 雄介
8	高次脳機能障害に関する文献の批判的解釈課題④	高次脳機能障害に関する科学論文をクリティカルに読み論考演習を行う。	鈴木 雄介
9	高次脳機能障害に関する文献抄読と自己の研究の進展①	高次脳機能障害に関する自身の研究における重要な参考文献を一つ選び、自身の研究における位置づけについて検討する。	鈴木 雄介
１０	高次脳機能障害に関する文献抄読と自己の研究の進展②	高次脳機能障害に関する自身の研究における重要な参考文献を一つ選び、自身の研究における位置づけについて検討する。	鈴木 雄介
１１	障害児・者の医療・地域生活への支援に関する文献抄読①	障害児・者の医療・地域生活への支援に関する文献抄読し課題を理解する	鶴見 隆正
１２	障害児・者の医療・地域生活への支援に関する文献抄読②	障害児・者の医療・地域生活への支援に関する文献抄読し論考する	鶴見 隆正
１３	障害高齢者の地域生活への支援に関する文献抄読①	障害高齢者の地域生活への支援に関する文献抄読し課題を理解する	鶴見 隆正
１４	障害高齢者の地域生活への支援に関する文献抄読②	障害高齢者の地域生活への支援に関する文献抄読し論考する	鶴見 隆正

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１５	運動発達障害の病態に関する文献抄読①	運動発達障害の病態に関するさまざまな分野の分野の研究論文を抄読し、論考演習を行う。	坂上 昇
１６	運動発達障害の病態に関する文献抄読②	運動発達障害の病態に関するさまざまな分野の分野の研究論文を抄読し、論考演習を行う。	坂上 昇
１７	運動発達障害の評価およびリハビリテーションに関する文献抄読①	運動発達障害の評価およびリハビリテーションに関するさまざまな分野の分野の研究論文を抄読し、論考演習を行う。	坂上 昇
１８	運動発達障害の評価およびリハビリテーションに関する文献抄読②	運動発達障害の評価およびリハビリテーションに関するさまざまな分野の分野の研究論文を抄読し、論考演習を行う。	坂上 昇
１９	リハビリテーション統計・データサイエンス① （記述統計：代表値、尺度水準）	Python・SQL・統計ソフト・人工知能などを活用したデータ解析演習を通して、リハビリテーション科学分野におけるエビデンスの批判的吟味、図表の作成方法、データに基づいた意思決定プロセスについて学習する。	増田 雄亮
２０	リハビリテーション統計・データサイエンス② （基礎統計：比較・相関）	Python・SQL・統計ソフト・人工知能などを活用したデータ解析演習を通して、リハビリテーション科学分野におけるエビデンスの批判的吟味、図表の作成方法、データに基づいた意思決定プロセスについて学習する。	増田 雄亮
２１	リハビリテーション統計・データサイエンス③ （多変量解析：回帰・分類）	Python・SQL・統計ソフト・人工知能などを活用したデータ解析演習を通して、リハビリテーション科学分野におけるエビデンスの批判的吟味、図表の作成方法、データに基づいた意思決定プロセスについて学習する。	増田 雄亮
２２	リハビリテーション統計・データサイエンス④ （数理モデル：構造方程式モデリング）	Python・SQL・統計ソフト・人工知能などを活用したデータ解析演習を通して、リハビリテーション科学分野におけるエビデンスの批判的吟味、図表の作成方法、データに基づいた意思決定プロセスについて学習する。	増田 雄亮
２３	精神機能と行動①	脳機能の精神機能面からの問題行動・行為の解析（評価）の論考	三川 年正
２４	精神機能と行動②	脳機能の精神機能面からの問題行動・行為の解析（評価）の論考	三川 年正
２５	精神疾患と脳機能（評価）	精神疾患の事例を用いて、実際の評価方法を検討する。	三川 年正
２６	精神疾患と脳機能（関わり）	精神疾患の事例を用いて、実際の関わり方を検討する。	三川 年正
２７	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知 （研究レビュー①）	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知に関する海外論文についてレビューし、討論を行う。	杉村 直哉
２８	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知 （研究レビュー②）	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知に関する海外論文についてレビューし、討論を行う。	杉村 直哉
２９	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知 （研究レビュー③）	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知に関する海外論文についてレビューし、討論を行う。	杉村 直哉
３０	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知 （研究レビュー④）	精神疾患における神経認知、社会認知、メタ認知に関する海外論文についてレビューし、討論を行う。	杉村 直哉

評価	レポート100%
教科書	リハビリテーション学、理学療法学、作業療法学、看護学などに関連した主な原著論文を用いる。 その他適宜資料配布する。
参考図書 参考WEBページ	（鈴木）クリティカルシンキング　研究論文編／J.メルツォフ（中澤潤　監訳）／北大路書房／4-7628-2459-3（鶴見）講義内で随時紹介する。 （鶴見）適宜紹介する。 （坂上）適宜紹介する。 （三川）講義内で随時紹介する。 （増田）みんなのEBMと臨床研究／神田善伸／南江堂／978-4-524-25548-1 （杉村）講義内で随時紹介する。
事前・事後学習 留意事項	各単元のテーマ、内容について事前学習し、講義後は復習すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

Ⅴ　専門科目（助産学領域）

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学概論	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	加藤 尚美、島袋 香子、山﨑 圭子

授業概要

助産師としてのアイデンティティを獲得するための基盤となる科目である。助産学における基本概念、助産の歴史の変遷、助産師の法的責務、倫理等に理解を深めるとともに、保健・医療・福祉における助産師としてのあり方や助産師の役割について探求する。

到達目標

1）助産学および助産に関する主要概念と諸理論を理解し、説明できる。
2）助産の歴史の変遷から学んだことを説明し、記述できる。
3）助産師の法的責務、業務、役割について理解し、説明できる。
4）助産師の臨床倫理、生命倫理、意思決定支援について理解し、説明できる。
5）助産に関する国内外の動向を踏まえ、助産師としてのこれから担うべき役割や課題について考察し、自分の考えを説明・記述できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	導入･ガイダンス	授業ガイダンス、参考資料の解説、事前学習課題の説明	山﨑　圭子
2	助産の概念	助産の定義、助産師のコア・コンピテンシー	加藤　尚美
3	日本・諸外国の助産および助産師の歴史	日本の助産の変遷、助産と文化、日本・諸外国の母子保健の動向と課題	加藤　尚美
4	助産に関係する概念	セクシャルリプロダクティブ・ヘルス/ライツ Woman centered care、 Family centered care	山﨑　圭子
5	助産に関係する理論	母性論、母親役割獲得	島袋　香子
6	助産に関係する理論（母子関係）	アタッチメント理論、母子相互作用、きずな理論	山﨑　圭子
7	助産師の定義と業務	助産および助産師の定義、助産業務、タスクシフト	山﨑　圭子
8	助産師と法律	助産師に関連する法律	山﨑　圭子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	助産の歴史：古代～大正時代まで	古代～大正時代までの助産の歴史の変遷	山﨑　圭子
１０	助産の歴史：昭和～現代まで	昭和～現代時代までの助産の歴史の変遷	山﨑　圭子
１１	助産師と倫理	助産師の倫理綱領、倫理原則	山﨑　圭子
１２	助産師と倫理　事例検討	事例検討	山﨑　圭子
１３	エビデンスに基づく助産ケア	EBM　周産期に関連する主なガイドライン	山﨑　圭子
１４	助産師と教育	助産師教育の変遷、卒後教育	山﨑　圭子
１５	これからの助産師のあり方	日本の母子保健の歴史と医師の働き方改革を進めるためのタスクシフトから助産師の役割について考察する。	山﨑　圭子

評価	毎回プレゼンテーション60%、課題レポート40%
教科書	1)基礎助産学[1]　助産学概論　第6版/我部山キヨ子・安達久美子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04708-1【第1～13回講義で利用】 2)助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「1」妊娠期　第6版/我部山キヨ子・武谷雄二編/医学書院/ISBN:978-4-260-04208-6【第14回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1）WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア/分娩期ケアガイドライン翻訳チーム訳/医学書院/ISBN:978-4-260-04197-3 2）助産師の戦後/大林道子著/勁草書房/ISBN:978-4-326-79863-6 3）世界の出産/松岡悦子・小浜正子編/勉誠出版/ISBN:978-4-585-23005-2
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学特論Ⅰ	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
4単位（60時間）	30回	1年通年	青島 恵美子、岡垣 竜吾、金井 雄二、小林 藍子、寺島 朝子、西﨑 直人、望月 千夏子、山﨑 圭子、龍崎 桂子

授業概要

妊娠による女性の心身の変化や、正常な妊娠・分娩・産褥の経過および正常な新生児・乳児の成長や発達における特徴について理解を深め、エビデンスのある助産ケアを実践展開できる基礎的な能力を修得する。

到達目標

1）正常経過にある母体の妊娠による変化と胎児の成長・発育について説明できる。
2）妊娠・分娩期に用いられる検査について説明できる。
3）正常経過にある妊婦への援助について説明できる。
4）妊娠期の事例について経過診断および健康生活診断ができ、逸脱の予防的支援を説明できる。
5）分娩の概念、分娩の要素、分娩機序と分娩が母体・胎児に及ぼす影響を説明できる。
6）分娩期の事例について経過診断および健康生活診断ができ、逸脱への予防的支援を説明できる。
7）正常経過にある産婦および家族への援助について説明できる。
8）産褥期の事例について経過診断および健康生活診断ができ、逸脱への予防的支援を説明できる。
9）母子相互作用についてアセスメントし、家族形成を促す支援について説明できる。
10）新生児の身体的変化についてアセスメントし、母胎外の適応・成長発達を促す支援を説明できる。
11）母乳育児についてアセスメントし、母乳育児の早期開始と確立を促す支援を説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	性と生殖に関する解剖・生理	女性の内性器・外性器、性周期、骨盤の構造	岡垣　竜吾
2	妊娠の診断	妊娠成立の確定診断、分娩予定日の診断	岡垣　竜吾
3	妊娠に伴う母体の生理的変化	生殖器の変化、免疫能の特性	岡垣　竜吾
4	妊娠に伴う母体の変化	母体の全身の変化	望月　千夏子
5	妊娠に伴う胎児の発育	胎児の発育、臓器の成熟と器官形成	岡垣　竜吾
6	妊娠に伴う胎児付属物の発育	胎盤の構造と機能、羊水の生成と機能、卵膜の構造と機能、 臍帯の構造と機能	望月　千夏子
7	妊娠と栄養	母体の栄養と健康、母体の栄養と胎児の健康	龍崎　桂子
8	周産期に用いられる検査法	超音波診断、分娩監視装置、その他の検査	金井　雄二
9	CTGの判読	CTGを用いた判読の演習	小林　藍子
１０	母子感染	母子感染様式と経路、病原体の感染経路、TORCH症候群、 GBS感染、梅毒他	岡垣　竜吾
１１	助産診断	助産診断類型、助産過程、臨床推論	山﨑　圭子
１２	妊娠期のフィジカルアセスメント	妊婦健康診査、健康診査に必要な技術、妊娠期の心理・社会的変化	望月　千夏子
１３	妊娠初期の助産診断とケア	妊娠初期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子
１４	妊娠中期の助産診断とケア	妊娠中期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１５	妊娠末期の助産診断とケア	妊娠末期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子
１６	分娩の基礎	分娩の3要素、分娩が母胎・胎児に及ぼす影響	岡垣　竜吾
１７	分娩期の助産診断	産婦の健康診査、分娩開始の診断、分娩期の経過診断	望月　千夏子
１８	分娩期のフィジカルアセスメント	母体の健康状態のアセスメント、胎児・胎児付属物のアセスメント、分娩期の心理・社会的変化	望月　千夏子
１９	分娩第Ⅰ期の助産診断とケア	分娩期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子
２０	分娩第Ⅱ期の助産診断とケア	分娩期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子
２１	産褥期の生理	産褥期の全身の変化・特徴　産後の退行性変化、進行性変化	望月　千夏子
２２	産褥期のフィジカルアセスメント	産婦の健康診査　産婦の健康診査に必要な技術　退行性変化促進の支援　進行性変化促進の支援	望月　千夏子
２３	産褥期の褥婦への支援	産褥期の心理・社会的変化、バースレビュー	望月　千夏子
２４	新生児の生理と成長発達：呼吸器、循環器	新生児の生理と成長・発達（呼吸器・循環器系の適応、体温の調節）	西﨑　直人
２５	新生児の生理と成長発達：消化器、免疫系	新生児の生理と成長・発達（消化器系の適応、水分・電解質バランスと腎機能の適応、肝機能の適応免疫系の適応、行動と感覚器の適応）	西﨑　直人
２６	産褥期の母体の助産診断とケア	産褥期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子
２７	産褥期の新生児の助産診断とケア	産褥期の事例を用いた助産診断の展開（ケアを含む）	望月　千夏子
２８	新生児から生後4か月までの成長発達とケア	乳幼児のアセスメントとケア、退院から生後4か月まで	青島　恵美子
２９	妊娠・分娩・産褥と薬物	薬物の母子への影響、授乳期の薬物摂取と影響	寺島　朝子
３０	まとめ	講義内容のまとめ	山﨑　圭子

評価	筆記試験50%、レポート30%、プレゼンテーション20%
教科書	1）基礎助産学[2]母子の基礎科学/我部山キヨ子・武谷雄二・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04204-8【第10回講義で利用】 2)基礎助産学[3]母子の健康科学/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04991-7【第7回講義で利用】 3)助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「1」妊娠期　第6版/我部山キヨ子・武谷雄二編/医学書院/ISBN:978-4-260-04208-6【第1～6,8,9,11～15,29回講義で利用】 4）助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「2」分娩期・産褥期　第6版編集/我部山キヨ子・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9【第16～23回講義で利用】 5）助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「3」新生児期・乳幼児期　第6版/石井邦子・廣間 武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2【第24.25,27,28回講義で利用】 6）新生児学入門 第5版/仁志田博司編/医学書院/ISBN:978-4-260-03625-4【第24,25,27,28回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1）日本助産師会（2019） 助産業務ガイドライン2019 http://www.midwife.or.jp/pdf/guideline/guideline010529）pdf 2）産婦人科診療ガイドライン産科編2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編/日本産科婦人科学会発行/ISBN:978-4-907890-28-5 3）プリンシプル産科婦人科学2　産科編　第3版/武谷雄二・上妻志郎・藤井知行・大須賀穣監修/メジカルビュー社/ISBN:978-4-7583-1220-2 4）母乳育児支援スタンダード第2版/NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編/医学書院/ISBN:978-4-260-02070-1 5）よくわかる母乳育児　第3版/水野克己著/へるす出版/ISBN:978-4-89719-077-7
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学特論Ⅱ	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
6単位（90時間）	45回	1年通年	生駒 直寛、金井 雄二、絹川 朋美、倉田 慶子、小林 藍子、小林 尚明、竹下 直樹、豊島 万希子、西﨑 直人、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

不妊症、ハイリスク妊産婦、新生児・乳幼児の病態・生理、診断、治療について理解を深め、正常からの逸脱を診断し、異常を予測する臨床判断能力を養う。また、異常分娩や母児の救急処置等における知識を深め、正常を逸脱した妊産婦の支援に必要な助産技術を理解する。

到達目標

1）ハイリスク妊産婦の病態、検査、治療について説明できる。
2）妊娠期のハイリスク状態についてアセスメントし、正常を逸脱しない支援および異常発生時の対応について説明できる。
3）分娩期のハイリスク状態についてアセスメントし、正常を逸脱しない支援および異常発生時の対応について説明できる。
4）産褥期のハイリスク状態についてアセスメントし、正常を逸脱しない支援および異常発生時の対応について説明できる。
5）不妊症の原因と治療、不妊治療後の妊産婦の心理について説明できる。
6）出生前診断を受検するカップルへの支援について、説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス	ガイダンス、ハイリスク妊産婦へのケア	山﨑　圭子
2	妊娠期の異常	妊娠悪阻、切迫流・早産、GDM、HDP、FGR、多胎、羊水過多・過少、前置胎盤など	小林　藍子
3	合併症妊娠	心疾患合併妊娠、甲状腺疾患合併妊娠、呼吸器系疾患合併妊娠、腎・泌尿器疾患合併妊娠、自己免疫疾患合併妊娠など	小林　藍子
4	ハイリスク妊婦へのケア：産科合併症	ハイリスク妊婦（切迫流・早産、前期破水、GDM、HDPなど）へのケア	望月　千夏子
5	ハイリスク妊婦へのケア：胎児異常	ハイリスク妊婦（FGR、多胎、羊水過多・過少など）へのケア	望月　千夏子
6	異常分娩：陣痛、産道、進入、回旋、胎位	陣痛異常、産道の異常、児頭進入の異常、回旋異常、胎位の異常など	小林　藍子
7	胎児・胎児付属物の異常：胎児機能不全、胎盤、臍帯、破水	胎児機能不全、破水時期の異常、羊水の異常、IUFDなど	小林　藍子
8	分娩に伴う風発疾患・合併症①	常置胎盤早期剥離、子癇、分娩時異常出血、産科手術・産科的医療処置、DICなど	小林　藍子
9	分娩に伴う風発疾患・合併症②	子宮破裂、絨毛膜羊膜炎、子癇発作、HDP、心疾患・糖代謝異常合併妊娠の分娩管理	小林　藍子
１０	産科的医療処置	産科危機的出血への対応・止血法、母体搬送など	小林　藍子
１１	産科手術	帝王切開術の適応・リスク・術式、骨盤位牽出術、器械的急速娩出術（吸引分娩、鉗子分娩まど）	小林　藍子
１２	無痛・和痛分娩	無痛・和痛分娩、硬膜外麻酔、陰部神経ブロックなど	金井　雄二
１３	周産期で用いる薬剤と管理	分娩誘発、陣痛促進、感染症（GBS、HBV、HBC）	小林　藍子
１４	無痛・和痛分娩における助産ケア	無痛・和痛分娩における助産ケアの実際	絹川　朋美
１５	産褥期の異常	弛緩出血、子宮復古不全、頸管・膣・会陰裂傷など	小林　藍子
１６	ハイリスク褥婦へのケア	乳房トラブル、母乳不足感のある褥婦へのケア	山﨑　圭子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１７	周産期のメンタルヘルスとケア	周産期のメンタルヘルスとは、産後うつ病など	山﨑　圭子
１８	正常を逸脱した新生児の診断	呼吸障害、チアノーゼ、吐血・下血、痙攣、麻痺など	西﨑　直人
１９	新生児の呼吸器・循環器・血液疾患	呼吸管理、光線療法、経管栄養、輸液管理	生駒　直寛
２０	新生児の黄疸・消化器疾患、内分泌代謝、感染症	呼吸障害を起こす疾患、先天性心疾患、血液疾患、病的黄疸、外表奇形他	生駒　直寛
２１	新生児の感染症、免疫疾患、中枢疾患	染色体異常、感染症、免疫疾患、中枢神経他	生駒　直寛
２２	早産・低出生体重児	低出生体重児と早産時の特徴、低出生体重児に起こりやすい合併症、NICUにおける管理	生駒　直寛
２３	NICUにおける児の管理とケア	低出生体重児と親へのケア、ディベロップメンタルケア	豊島　万希子
２４	乳幼児の感染症	感染症（突発性発疹、RSウイルス、カンジダ症、鵞口瘡他）	小林　尚明
２５	乳幼児の発達障害	乳幼児突然死症候群、アレルギー疾患、発達障害など	小林　尚明
２６	予防接種	感染症対策としての位置づけ、予防接種法、定期予防接種、各対象疾患とワクチンの実施上の注意	小林　尚明
２７	乳幼児の事故と予防	窒息、溺死・溺水、転倒・転落、誤飲、交通事故他	小林　尚明
２８	障害をもつ児の親へのケア	障がいを持つ児や予後不良の児を育てる親へのケア、子どもを亡くした親へのケア	倉田　慶子
２９	ハイリスク妊婦の診断	ハイリスク妊婦の事例を基に、アセスメント、助産診断を行なう。	山﨑　圭子
３０	ハイリスク妊婦へのケア	ハイリスク妊婦の事例を基に、アセスメント、助産診断、助産ケア計画の立案を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３１	ハイリスク妊婦へのケア	ハイリスク妊婦の事例を基に、アセスメント、助産診断、助産ケア計画の立案を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３２	就労妊婦の診断	就労妊婦の事例を基に、アセスメント、助産診断を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３３	就労妊婦へのケア	就労妊婦の事例を基に、アセスメント、助産診断、助産ケア計画の立案を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３４	分娩第Ⅰ・Ⅱ期のハイリスク分娩の診断	ハイリスク分娩の事例を基に、アセスメント、助産診断を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３５	分娩第Ⅰ・Ⅱ期のハイリスク産婦へのケア	ハイリスク分娩の事例を基に、アセスメント、助産診断、助産ケア計画の立案を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３６	分娩第Ⅲ・Ⅳ期のハイリスク分娩の診断	ハイリスク褥婦の事例を基に、アセスメント、助産診断を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３７	分娩第Ⅲ・Ⅳ期のハイリスク産婦へのケア	ハイリスク分娩の事例を基に、アセスメント、助産診断、助産ケア計画の立案を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３８	ハイリスク褥婦の診断	ハイリスク褥婦の事例を基に、アセスメント、助産診断を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
３９	ハイリスク褥婦へのケア	ハイリスク褥婦の事例を基に、アセスメント、助産診断、助産ケア計画の立案を行なう。	山﨑　圭子 望月　千夏子
４０	臨床遺伝学総論	生命倫理、医療倫理の5原則、遺伝とは、家系情報の聴取と家系図の書き方など	竹下　直樹
４１	遺伝性疾患①	メンデル遺伝、常染色体顕性遺伝、常染色体顕性遺伝疾患	竹下　直樹
４２	遺伝性疾患②	常染色体潜性遺伝、常染色体潜性遺伝疾患、染色体異常、エピジェネティクス	竹下　直樹

授業回数	テーマ	内容	担当教員
４３	生殖補助医療と遺伝学問題	生殖補助医療の現状、男性不妊、着床前診断、出生前診断	竹下　直樹
４４	不妊治療を経て妊娠・出産た女性へのケア	不妊治療を経て妊娠・出産した女性の心理、不妊治療を経て妊娠・出産した女性へのケア	山﨑　圭子
４５	まとめ	講義内容のまとめ	山﨑　圭子

評価	プレゼンテーション40%、レポート60%
教科書	1）基礎助産学[2]母子の基礎科学/我部山キヨ子・武谷雄二・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04204-8【第40-44回講義で利用】 2)基礎助産学[3]母子の健康科学/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04991-7【第12回講義で利用】 3)基礎助産学[4]母子の心理・社会学第6版/我部山キヨ子・菅原ますみ編/医学書院/ISBN:978-4-260-05003-6【第17,43,44回講義で利用】 4)助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「1」妊娠期　第6版/我部山キヨ子・武谷雄二編/医学書院/ISBN:978-4-260-04208-6【第2-5,29-31回講義で利用】 5）助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「2」分娩期・産褥期　第6版編集/我部山キヨ子・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9【第6-17,32-39回講義で利用】 6）助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「3」新生児期・乳幼児期　第6版/石井邦子・廣間 武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2【第18-28回講義で利用】 7）新生児学入門 第5版/仁志田博司編/医学書院/ISBN:978-4-260-03625-4【第18-22回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1）日本助産師会（2019）助産業務ガイドライン2019　http://www.midwife.or.jp/pdf/guideline/guideline010529）pdf　ISBN:978-4-905023-28-9 2）産婦人科診療ガイドライン産科編2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編/日本産科婦人科学会発行/ISBN:978-4-907890-28-5 3）プリンシプル産科婦人科学2　産科編　第3版/武谷雄二・上妻志郎・藤井知行・大須賀穣監修/メジカルビュー社/ISBN:978-4-7583-1220-2 4）日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく NCPR新生児蘇生法テキスト第4版/細野茂春監修/メジカルビュー社/ISBN:978-4-7583-1998-0 5）母乳育児支援スタンダード第2版/NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編/医学書院/ISBN:978-4-260-02070-1
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
地域・国際助産学特論	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	青島 恵美子、日下 桃子、山﨑 圭子

授業概要

国内外の母子保健の現状と課題について理解を深め、母子保健における助産師の役割と母子およびその家族への支援の方法を習得する。また、地域で生活する多様な母子のニーズを把握し、切れ目ない支援を提供するための助産師の役割について考察する。

到達目標

1）母子保健の意義および地域母子保健の概念を説明できる。
2）国内外の母子保健統計の特徴について説明できる。
3）日本の母子保健の動向を理解し、現状と課題について説明できる。
4）在日外国人への母子保健活動の課題を理解し、支援のあり方について考察し記述できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス、地域母子保健の概念	コースオリエンテーション、地域母子保健の概念、地域の特性と母子保健	山﨑 圭子
2	母子保健の動向と課題	母子保健統計、日本の母子保健の問題と課題の発表	山﨑 圭子
3	母子保健行政のしくみ、母子保健②関わる制度	母子保健行政とは、関係法規、国・都道府県・市町村の役割、健康診査、不妊に対する支援、女性保護	山﨑 圭子
4	母子保健施策	健やか親子21（第3次）、少子化対策、子育て世代負岡津支援センター、育成支援対策推進法他	山﨑 圭子
5	子ども虐待とその予防	子ども虐待の現状　児童虐待防止法、子ども虐待予防	山﨑 圭子
6	母子保健活動の実際	神奈川県の母子保健の実際、地域で活動する助産師との交流	山﨑 圭子
7	産前・産後の地域母子保健活動	妊婦訪問、出産前教育、育児支援他	青島　恵美子
8	産後ケア事業	産後ケア事業とは、産後ケアの対象者、実施類型、産後ケア事業の課題	青島　恵美子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	乳児期の母子のケア	生後5か月～12か月までの乳幼児の成長発達と母親へのケア	青島　恵美子
１０	地区診断	コミュニティ・アズ・パートナー・モデルに基づく地域看護診断について	山﨑 圭子
１１	地区診断の実際	地区視診、地区診断の実際	山﨑 圭子
１２	地域母子保健計画（1）	地域母子保健計画の発表	山﨑 圭子
１３	地域母子保健計画（2）	地域母子保健計画の発表	山﨑 圭子
１４	諸外国の母子保健活動、在留外国人/海外在住日本人への母子保健活動	母子保健の現状と課題、母子保健施策の現状、開発途上国における母子保健活動の実際、在留外国人母子の現状と課題、利用できる母子保健制度、外国人母子への情報提供、海外在住日本人女性が直面する問題とその対策	日下 桃子
１５	まとめ	課題レポートの発表およびディスカッション	山﨑 圭子

評価	プレゼンテーション40%、レポート60%
教科書	1)助産学講座　地域母子保健・国際母子保健　第6版/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-05004-3【第1-9,13回講義で利用】 2）助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「3」新生児期・乳幼児期　第6版/石井邦子・廣間 武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2【第9回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1)国際助産師連盟（ICM） https://www.internationalmidwives.org/ 2)コミュニティ アズ パートナー第2版 地域看護学の理論と実際/エリザベスT.アンダーソン・ジュディアス マクファーレイン編/医学書院//ISBN:978-4-260-00326-1
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産管理・経営学	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	青島 恵美子、岡本 登美子、加藤 尚美、布施 明美、山﨑 圭子

授業概要

助産管理に必要な理論や法的根拠を踏まえ、助産師の業務管理および労務管理について理解を深める。また、妊娠・出産・育児を取り巻く社会の変化や医師の働き方改革に伴う助産師への業務移管を踏まえ、医療施設、助産所、院内助産、助産師外来等における助産業務管理や周産期医療システムとリスクマネジメントについて理解を深める。

到達目標

1）助産管理の基本概念、助産業務管理の過程、助産管理の方法が説明できる。
2）助産ケアが提供される場（病院、助産所等）に応じた助産管理の特徴が説明できる。
3）助産所の開業、運営・管理について説明できる。
4）周産期医療システムについて説明することができる。
5）助産業務におけるリスクマネジメントについて説明できる。
6）平時の災害への備え、災害時の支援について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス、管理の基本概念とプロセス	ガイダンス、管理の基本概念、PDCA	山﨑　圭子
2	助産管理の基本概念、理論	リーダーシップに関する理論、動機付けに関する理論、	加藤　尚美
3	助産管理に関する法律	保健師助産師看護師法、医療法、刑法、労働基準法、育児・介護休業法、男女雇用機会均等法など	山﨑　圭子
4	助産師の人材育成	助産師の人材育成、継続教育、キャリア開発、クロックミップ	加藤　尚美
5	病院における助産管理	助産ケアの質保証、助産管理と経営、産科病棟の管理、院内助産・助産師外来、産後ケア事業	布施　明美
6	院内助産・院内助産院の管理	院内助産システムの定義、院内助産院の業務管理、院内助産院の体制	山﨑　圭子
7	助産所の開設、運営	助産院の開設と経営・業務管理計画および現状の課題	青島　恵美子
8	助産所における助産管理	助産業務管理、助産管理と経営、助産ケアの質保証、助産師の人材育成	岡本　登美子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	オープンシステム/セミオープンシステムにおける助産管理	オープンシステム/セミオープンシステムの現状、文献検討	山﨑　圭子
１０	周産期医療システム、チーム医療	周産期医療システム、地域連携	山﨑　圭子
１１	周産期医療システム、チーム医療の実際	臨床における周産期医療システム、チーム医療の実際からの学びの検討	山﨑　圭子
１２	産科医療補償制度	産科医療補償制度の概要	山﨑　圭子
１３	医療事故の再発防止	産科医療補償制度報告書の事例分析、助産師の役割と責務の検討	山﨑　圭子
１４	災害時の地域母子保健活動	日ごろの備え、災害時の対応、避難所における女性の支援	青島　恵美子
１５	まとめ	講義内容のまとめ	山﨑　圭子

評価	プレゼンテーション60%、課題レポート40%
教科書	助産学講座　助産管理　第6版/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04709-8【第1-14回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1)第14回産科医療補償制度再発防止に関する報告書(2022年)/公益社団法人 日本医療機能評価機構/ISBN:978-4-910861-40-1 2)日本助産師会(2019)助産業務ガイドライン2024　http://www.midwife.or.jp/pdf/guideline/guideline010529)pdf　ISBN:978-4-905023-39-5 3)新版　助産師業務要覧第4版[Ⅰ基礎編]2024年版/福井トシ子・井本寛子編/日本看護協会出版会/ISBN:978-4-8180-2618-6 4)新版　助産師業務要覧第4版[Ⅱ実践編]2024年版/福井トシ子・井本寛子編/日本看護協会出版会/ISBN:978-4-8180-2619-3 5)新版　助産師業務要覧第4版[Ⅲアドバンス編]2024年版/福井トシ子・井本寛子編/日本看護協会出版会/ISBN:978-4-8180-2620-9
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
母乳育児支援論	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
1単位（15時間）	8回	1年後期	青島 恵美子、日下 桃子、山﨑 圭子

授業概要

母親が、授乳に対してをセルフケアできるようにするために、産前・産後を通して必要な母乳育児支援の基礎的な知識と技術について理解を深める。また、文献や事例を用いて、母親に寄り添う助産師の母乳育児支援のあり方について考察する。

到達目標

1）母乳育児推進の歴史を理解し、説明できる。
2）母乳育児が母親と児にもたらすメリット、デメリットを理解し、説明できる。
3）乳房の解剖および母乳分泌の生理を理解し、説明できる。
4）正常な経過にある母児の乳房管理のためのアセスメントができ、ケアについて説明できる。
5）母乳育児が困難な母児の乳房管理のためのアセスメントができ、ケアについて説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス、母乳育児推進の歴史	世界と日本の母乳育児推進の歴史、赤ちゃんにやさしい病院運動、授乳・離乳の支援ガイド	山﨑　圭子
2	母乳育児のメリット・デメリット	母親へのメリット、児へのメリット、母乳育児のデメリット	山﨑　圭子
3	乳房の解剖と生理	乳房の解剖、母乳分泌の機序	日下　桃子
4	乳房管理のためのアセスメント	ポジショニングとラッチオン	日下　桃子
5	正常な経過にある母児の乳房管理	母乳分泌促進、、乳房充満と乳房緊満	山﨑　圭子
6	乳頭トラブルのある母親への支援	乳頭痛と乳頭損傷、扁平乳頭と陥没乳頭の原因とケア、治療	山﨑　圭子
7	乳幼児の栄養とケア	乳幼児の食生活の特徴と栄養、離乳食について	青島　恵美子
8	まとめ	これまでの講義を踏まえ、助産師の母乳育児支援のあり方についてディスカッションを行なう。	山﨑　圭子

評価	プレゼンテーション60%、レポート40%
教科書	助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「2」分娩期・産褥期　第6版編集/我部山キヨ子・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9 【第1-7回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1）母乳育児支援スタンダード第2版/NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編/医学書院/ISBN:978-4-260-02070-1 2）よくわかる母乳育児　第3版/水野克己著/へるす出版/ISBN:978-4-89719-077-7 3)助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「3」新生児期・乳幼児期　第6版/石井邦子・廣間 武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
比較文化助産論	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
1単位（15時間）	8回	2年前期	日下 桃子、山﨑 圭子

授業概要

現代の出産がどのような過去を経て今日に至っているのか、また異文化ではどうなのかを学び、日本の出産について理解を深める。また、妊娠・出産を医学的側面だけでなく社会学、文化人類学の側面からも捉え、「産むこと」「産まないこと」「家族を作ること」等について考察する。

到達目標

1）諸外国の子育て支援策の概要について説明できる。
2）日本の助産の歴史、子育ての特徴について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス、助産の歴史	ガイダンス、学習課題（私、実母、祖母は、どの時代にどこで生まれ、どのような支援が存在していたか等）	山﨑　圭子
2	助産の文化と地域の出産慣習	DVD視聴「ばあちゃん助産師（せんせい）のお産と育児のはなし」 妊産婦や家族に対しての日本の産前産後の出産習俗	山﨑　圭子
3	異文化のお産に学ぶ	文献抄読「世界の出産」	山﨑　圭子
4	産み育てと助産の歴史	文献抄読「産み育てと助産の歴史」	山﨑　圭子
5	国内外の世界の子育て支援	諸外国の制度と日本の子育て支援の比較、日本の課題	山﨑　圭子
6	在留外国人への母子保健活動	在留外国人の現状と課題、利用できる母子保健制度、在留外国人への助産ケア	日下　桃子
7	海外在住日本人への母子保健活動	海外在住日本人の現状と課題、利用できる母子保健制度、海外で生まれた児の健康にかかわる問題と対策	日下　桃子
8	まとめ	社会学・文化人類学的側面からリプロダクションについて討論する。	山﨑　圭子

評価	プレゼンテーション60%、レポート40%
教科書	1)基礎助産学[1]　助産学概論　第6版/我部山キヨ子・安達久美子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04708-1【第1-4回講義で利用】 2)助産学講座　地域母子保健・国際母子保健　第6版/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-05004-3【第5-7回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	1）妊娠と出産の人類学 リプロダクションを問い直す/松岡悦子著/世界思想社　2014年/ISBN:978-4-7907-1627-3 2）世界の出産 儀礼から先端医療まで/松岡悦子・小浜正子編/勉誠出版　2011年/ISBN:978-4-585-23005-2
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学教育・研究・実践論	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
1単位（15時間）	8回	2年前期	日下 桃子、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

エビデンスのあるケアを提供するために、助産ケアの場面で経験する現象について、助産研究で探索・検証を学び、助産における研究の位置づけと研究の成果を実践に還元することの意義を理解する。

到達目標

1）助産における研究の必要性について、説明できる。
2）関心あるテーマに関連する文献を抽出できる。
3）文献検索およクリティークの方法を理解し、クリティークができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	助産における研究の役割	研究の意義、研究の目的、研究における倫理的配慮	山﨑　圭子
2	国内の助産に関する文献レビュー①	国内の助産に関する文献レビュー、ワークと発表討論	日下　桃子
3	国外の助産に関する文献レビュー②	国外の助産に関する文献レビュー、ワークと発表討論	日下　桃子
4	事例検討	事例研究の概要、事例検討の意義	日下　桃子
5	文献検索	文献検索の意義、文献検索の資料と活用の仕方	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
6	文献クリティーク①	学生の関心のある課題について文献をクリティークする	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
7	文献クリティーク②	学生の関心のある課題について文献をクリティークする	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
8	総括	今後の学修課題と発表討論	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子

評価	レポート30%、 課題のプレゼンテーションと討論70%
教科書	関連資料を適宜に配布
参考図書 参考WEBページ	関連資料を適宜に配布
事前・事後学習 留意事項	発表資料は、講義日の前日までに全員に配布し、各自資料を読んで講義に臨むこと。 積極的に討議に参加すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学演習Ⅰ	演習	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（60時間）	30回	1年前期	日下 桃子、小林 藍子、四戸 千香、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過診断および健康生活診断ができ、母子およびその家族に対する助産ケアの実践に必要な助産技術を習得する。妊婦健康診査や分娩介助技術等の技術演習は、シミュレーション形式で実施する。

到達目標

1）妊婦健康診査に必要な助産技術を適切に実施し、得られた情報を基にアセスメントできる。
2）妊婦健康診査の助産診断を踏まえ、妊婦に必要な保健指導を実施できる。
3）分娩の機序を理解し、分娩介助の基本的な技術を実施できる。
4）分娩期の産痛緩和、産婦が安全・安楽に出産に臨めるぞめるような支援について説明できる。
5）褥婦健康診査に必要な助産技術を適切に実施し、得られた情報を基にアセスメントできる。
6）新生児健康診査に必要な助産技術を適切に実施し、得られた情報を基にアセスメントできる。
7）事例課題について情報取集、アセスメントを行い、健康問題に応じた助産計画および保健指導が立案できる。
8）事例課題について、健康な母子への退院指導案および家族計画を立案できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	妊婦健康診査	妊婦健康診査の目的・時期／回数、観察項目	山﨑　圭子
2	妊婦健康診査の実際	問診、妊婦のフィジカル・イグザミネーション（身体計測・骨盤計測、頭部、頸部、胸部、四肢、腹部）、妊婦健康診査で実施する検査（分娩監視装置の装着など）	望月　千夏子 日下　桃子
3	妊娠初期の保健指導	妊娠初期の事例を用いた助産診断および保健指導の展開	望月　千夏子 日下　桃子
4	妊娠中期・後期の保健指導	妊娠中・後期の事例を用いた助産診断および保健指導の展開	望月　千夏子 日下　桃子
5	妊婦健康診査：OSCE	OSCE（妊娠末期のステーション）	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
6	分娩介助の目標と準備	分娩介助の意義、分娩介助の基本姿勢、分娩介助の実際 、分娩の準備、分娩室の環境調整、分娩介助者の準備	望月　千夏子 日下　桃子
7	分娩介助法	清潔野の作成、肛門保護、会陰保護、躯幹娩出、出生直後の新生児ケア、臍帯切断、胎盤娩出、間接介助者の役割	望月　千夏子 日下　桃子
8	分娩介助技術：清潔野の作成	分娩の準備、分娩室の環境調整、分娩介助者の準備、清潔野の作成	望月　千夏子 日下　桃子
9	分娩介助技術：会陰保護	肛門保護、会陰保護、躯幹娩出、出生直後の新生児ケア、臍帯切断 、胎盤娩出、	望月　千夏子 日下　桃子
１０	分娩介助技術：間接介助	間接介助者の役割	望月　千夏子 日下　桃子
１１	分娩介助技術：フリースタイル出産	側臥位分娩、四つん這い分娩、座位分娩、蹲踞位分娩、立位分娩	四戸　千香
１２	分娩介助技術：胎盤計測	胎児付属物の観察項目、胎盤、臍帯、卵膜、羊水の計測	望月　千夏子 日下　桃子
１３	分娩介助技術の実際	分娩介助法の一連の流れにそって分娩介助の演習	望月　千夏子 日下　桃子
１４	分娩介助技術の実際：リフレクション	分娩介助法の一連の流れにそって分娩介助の演習	望月　千夏子 日下　桃子
１５	内診	内診による観察項目、内診	望月　千夏子 日下　桃子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
１６	分娩期に必要な助産技術	分娩介助に必要な技術 （人工破膜、導尿、更衣など）	望月 千夏子 日下 桃子
１７	会陰裂傷縫合術	会陰裂傷の分類、会陰裂傷縫合術	小林 藍子
１８	産痛緩和	産痛の原因、産痛による影響、産痛緩和、	望月 千夏子 日下 桃子
１９	呼吸法、リラクゼーション	呼吸法、アロマセラピー、温罨法など	望月 千夏子 日下 桃子
２０	産褥期の健康診査：身体的側面	褥婦にフィジカル・イグザミネーション（退行性変化、進行性変化、疲労状態など）	望月 千夏子 日下 桃子
２１	産褥期の健康診査：心理・社会的側面	母子関係、バースレビュー	望月 千夏子 日下 桃子
２２	新生児の健康診査	新生児のフィジカル・イグザミネーション（全身の観察）	望月 千夏子 日下 桃子
２３	新生児へのケア	沐浴、ドライテクニック、スキンケア、タッチケア、ベビーマッサージ	望月 千夏子 日下 桃子
２４	育児行動獲得への支援	育児技術（児の抱き方、おもつ交換、衣服の着脱、沐浴など）、育児に対する自信を高めるかかわり	望月 千夏子 日下 桃子
２５	産褥期の保健指導	産褥期の事例を用いた助産診断および保健指導の展開	望月 千夏子 日下 桃子
２６	退院指導	栄養指導、排泄、清潔、協力者の確保、社会資源の情報提供	望月 千夏子 日下 桃子
２７	家族計画と受胎調節法	家族計画の意義、母体保護法、各受胎調節法	望月 千夏子 日下 桃子
２８	NCPR：講義	NCPR Aコース	望月 千夏子 日下 桃子
２９	NCPR：演習	NCPR Aコース	望月 千夏子 日下 桃子
３０	まとめ	これまでの演習を踏まえて、安全で快適な技術について意見交換を行う。また、各技術の振り返りを行ない、実習に向けて課題を明確にする。	山﨑 圭子 望月 千夏子 日下 桃子

評価	技術演習・プレゼンテーション60%、OSCE・分娩介助試験40%
教科書	1)講師が作成した資料を配付して使用 2)助産学講座 助産診断・技術学Ⅰ第6版/堀内成子・片岡弥恵子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04226-0【第25-27回講義で利用】 3)助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ「1」妊娠期 第6版/我部山キヨ子・武谷雄二編/医学書院/ISBN:978-4-260-04208-6【第1-5回講義で利用】 4)助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ「2」分娩期・産褥期 第6版編集/我部山キヨ子・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9【第6-21,24-27回講義で利用】 5)助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ「3」新生児期・乳幼児期 第6版/石井邦子・廣間 武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2【第22-24回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版 医学書院 ISBN:978-4-260-03548-4 写真でわかる 助産技術アドバンス インターメディカ ISBN:978-4-89996-338-7 分娩のしくみと介助法 メディカルビュー ISBN:978-4-7583-1738-2 C3047 分娩介助学第2版 医学書院 ISBN:978-4-260-01886-9 NCPR新生児蘇生法テキスト第4版 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1998-0
事前・事後学習 留意事項	事前準備：各技術演習前に指定したテキストや配布資料を熟読し、関連するDVDの映像を見てイメージをしてから演習に臨む。 技術の自己学習・練習：自らの習得状況を把握し、自己学習によって主体的に補う。必要となる基本技術を確実に習得できるよう繰り返し練習をする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学演習Ⅱ	演習	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期～ 2年前期	日下 桃子、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

助産実践に必要な個人および集団へのさまざまな相談・教育・支援に関する技法について理解を深め、対象者がより良い方向に行動変容できるよう、健康教育の企画・運営・評価できる能力を養う。

到達目標

1）健康教育の概念、主な理論を理解し、説明できる。
2）集団・個人に適した目的、目標、教育内容、教育方法、評価を考え、説明できる。
3）健康な母子への退院指導案を立案できる。
4）家族計画の目的、産後の受胎調節・避妊方法について理解し、説明できる。
5）基本的なカウンセリング技術を理解し、実施できる。
6）乳児の発達に応じた支援をアセスメントし、必要な保健指導について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	相談・教育の方法	相談・教育の方法（個別相談、集団指導）	望月　千夏子
2	家族計画と受胎調節法	家族計画の意義、母体保護法、各受胎調節法	望月　千夏子
3	家族計画指導案の作成	事例課題に対する家族計画指導案の作成	望月　千夏子
4	家族計画指導案の評価	作成した家族計画指導案の評価	望月　千夏子
5	家族計画指導の実際①	家族計画始動案のロールプレイングと評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
6	家族計画指導の実際②	家族計画始動案のロールプレイングと評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
7	家族計画指導の実際③	家族計画始動案のロールプレイングと評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
8	家庭訪問の指導案の作成	事例課題に対する家庭訪問の指導案の作成	山﨑　圭子 日下　桃子

授業回数	テーマ	内容	担当教員
９	家庭訪問の指導案の評価	作成した家族計画指導案の評価	望月　千夏子
１０	家庭訪問の指導の実際①	家庭訪問の指導案のロールプレイングと評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
１１	家庭訪問の指導の実際②	家庭訪問の指導案のロールプレイングと評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
１２	家庭訪問の指導の実際③	家庭訪問の指導案のロールプレイングと評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
１３	離乳食への支援	離乳食の作成	望月　千夏子
１４	離乳食の評価	離乳食の作成の発表、評価	望月　千夏子 山﨑　圭子 日下　桃子
１５	まとめ	これまでの演習を踏まえて、各技術の振り返りを行ない、実習に向けて課題を明確にする。	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子

評価	演習・プレゼンテーション50%、指導案・レポート50%
教科書	1)講師が作成した資料を配付して使用 2)助産学講座　助産診断・技術学Ⅰ第6版/堀内成子・片岡弥惠子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04226-0【第1-8回講義で利用】 3)助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「2」分娩期・産褥期　第6版編集/我部山キヨ子・藤井知行編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9【第11-12回講義で利用】 4)助産学講座　助産診断・技術学Ⅱ「3」新生児期・乳幼児期　第6版/石井邦子・廣間 武彦編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2【第13-14回講義で利用】
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	事前準備：各技術演習前に指定したテキストや配布資料を熟読し、関連するDVDの映像を見てイメージをしてから演習に臨む。 技術の自己学習・練習：自らの習得状況を把握し、自己学習によって主体的に補う。必要となる基本技術を確実に習得できるよう繰り返し練習をする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学実習Ⅰ	実習	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	実習日数	配当年次	科目担当教員
2単位（90時間）	14日	1年後期	日下 桃子、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

母性看護学での演習および実習で未経験や不足している看護技術、助産学実習Ⅱで必要な基本的な助産診断技術、妊婦・褥婦・新生児の健康診査、分娩介助について、臨床の助産師の実践を見学し、今後の実習に向けて、課題を明確にする。また、助産学実習Ⅱの継続事例を受け持ち、母親役割を獲得していく女性とその家族が健康に生活するために必要な助産ケアを実施する。

到達目標

1）妊婦健康診査の一連の実践を見学し、基本的な助産診断技術を学ぶ。
2）妊婦・褥婦・新生児の健康診査に必要な助産診断技術を説明でき、自己の課題を記述できる。
3）分娩介助を見学し、直接介助および間接介助における自己の課題を明確にし、記述できる。
4）産褥期の母子の観察と支援における自己の課題を明確にし、記述できる。
5）臨床指導者とコミュニケーションを取り、良好な関係を築いて見学や一部実践ができる。
6）継続事例の妊娠期の助産過程を展開できる。
7）継続事例に対して、エビデンスに基づいたケアを提供てきる。

日数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス	実習要綱の説明、実習オリエンテーション	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
2～12	1. 妊婦健康診査 2. 分娩介助 3. 出産後の母児支援 4. 継続事例へのかかわり	助産師のシャドーイングを行い、状況に応じて一部実践を行なう。 【妊娠期】 1）妊婦の基礎情報や妊娠期の経過の情報を収集し、妊婦健康診査を一部実施する。 2）母体・胎児、胎児附属物等のアセスメントと診断を行い、個別的なケアを計画する。 【分娩期】 1）妊娠期の経過、分娩の3要素と産婦の健康状態等の情報を収集し分娩経過の診断と分娩予測を行う。 2）分娩予測に基づいた産婦と胎児のリスクアセスメントを行う。 3）分娩各期の産婦の健康状態（身体的・心理的・社会的）の診断を行い、産通緩和・呼吸法等産婦のリラクゼーションや分娩促進のためのケアを助産師の指導のもと行なう。 【産褥・新生児期】 1）褥婦と家族の情報を収集し、退行性変化、進行性変化、母親役割獲得状況等について診断し、対象に必要なケアを提供し、評価する。 2）退院後の自宅での生活を見据え、育児等のセルフケア能力の向上を図るためのケアを実施・評価する。 3）出生直後～入院中の児の胎外生活適応状況等の日齢変化に関する情報を収集し、診断し、必要なケアを一部実施する。	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
13	実習総括	実習Ⅰを通して得た学びと個別の課題を明確にする。	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子

評価	実習態度40%、実習記録40%、出席状況20%で、総合的に評価する。 評価については、実習終了後に面接を行い、課題の共有をする。 ※ 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
教科書	適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
事前・事後学習 留意事項	助産診断技術演習、分娩介助演習等、授業で学んだ内容を復習すること。 助産過程の展開は、所定の記録用紙を用いて展開し、終了後速やかに提出する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学実習Ⅱ	実習	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	**実習日数**	**配当年次**	**科目担当教員**
8単位（360時間）	8週間（45日）	1年後期～ 2年前期	日下 桃子、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

1）妊娠期から妊婦1名を受け持ち妊婦とし、産後1か月まで継続して実習を行う。妊娠期においては、妊娠の経過の診断を行い、診断に基づいて必要な保健指導を行う。分娩時には分娩開始から分娩第4期まで助産ケアおよび分娩介助を行い、産褥入院中の母児に対して助産過程を展開する。また、退院後は、必要に応じて家庭訪問（保健指導を含む）および産婦健康診に同行しその経過を理解する。
2）分娩が開始し入院したローリスクの産婦を受け持ち、臨床指導者や教員の指導を受けながら分娩介助を行う。
3）保健・医療チームの一員として、妊娠・出産・育児を介して女性とその家族の健康を支援する助産師の役割を考察する。
4）助産所における助産管理および地域母子保健活動を学ぶ。
5）総合周産期母子医療センター（NICU・GCU）に入院中のハイリスク児の特徴を理解し、助産師に求められる役割について考察する。

到達目標

1）妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の情報を収集し、助産診断を行い、導き出された目標に応じて助産計画を立案し、実施・評価し、一連の助産過程が展開できる。
2）受け持ち妊婦の妊婦健康診査を実施できる。
3）安全で安楽な分娩介助ができ、産婦に必要なケアを実施できる。
4）個別性を踏まえた保健指導が実施できる。
5）適切な時期にバースレビューが実施できる。
6）対象を取り巻く家族関係を把握し、新たな家族の発達や母親役割獲得を踏まえたケアを実施できる。
7）保健・医療チームの一員として、周産期における助産師の役割や責任助産師の役割について考察し、記述できる。
8）地域における母子の継続支援や社会資源の活用について説明できる。
9）助産所の助産業務管理を学び、妊産婦が満足できる助産ケアについて説明できる。
10）女性の生涯にわたる健康を支援するための助産師の役割について説明できる。
11）ハイリスク児の病態生理・治療・ケアの実際について説明できる。
12）ハイリスク児とその家族に対する看護を見学し、母子分離を余儀なくされた母と子、家族の関係構築に必要な看護について考察する。
13）総合周産期母子医療センターの役割、環境の特徴特殊性を説明できる。

	テーマ	内容	担当教員
全期間を通して	1. 妊婦健康診査 2. 分娩介助 3. 出生後の母児支援 4. 助産所実習 5. 総合周産期医療センター（NICU・GCU）実習	1）妊婦健診 産科外来において妊婦健診における助産師としての役割や支援を主体的に見学・実施し、最終的にほぼ自律して妊婦健診を実施することを目指す。 2）分娩介助 ・分娩直接介助：分娩第1期から受け持ち、経腟分娩の分娩介助を含む助産技術と助産ケアを10例程度とする。分娩の振り返りを指導者と行い、自己の課題を明確にする。 ※分娩介助は、安全な範囲で指導者と相談・調整して見学・一部介助・指導の下で実施する。 ・間接介助：分娩直後の新生児又は母体の健康診査と助産ケアを3例程度とする。 ・帝王切開に移行した場合には、帝王切開における助産師の実践を見学し、一部実施を目指す。 3）産褥期の母児支援 ・妊娠期、分娩期の経過を理解しながら産後の母児に必要な助産師としての支援および役割を主体的に見学し、自律して入院中の褥婦と児およびその家族への支援の実施を目指す。継続事例においては、家庭訪問など退院後の支援および産後の健診を実施する。 ・バースレビューを教員（又は指導者）と実施する。 4）助産所における助産管理実習 5）総合周産期医療センターにおける機能、役割、関連機関との連携を学ぶ。 ●実習終了時にカンファレンスを行う。	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子

評価	実習態度20%、実習記録40%、実習評価表40%で総合的に評価する。 4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価については、実習終了後に面接をして課題の共有をする。
教科書	適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前学習、分娩介助技術練習をしっかり行ってから実習に望むこと。 ヒヤリハットなどの状況時には速やかに指導助産師、教員に報告すること。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学実習Ⅲ	実習	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	**実習日数**	**配当年次**	**科目担当教員**
1単位（45時間）	5日	2年前期	日下 桃子、望月 千夏子、山﨑 圭子

授業概要

地域子育て支援拠点での実習を通し、地域の子育てに関する課題を踏まえた支援事業や拠点の役割について理解を深め、助産師の活動のあり方と助産師の役割について考察する。

到達目標

1）地域子育て支援拠点の概要について説明できる。
2）地域特性や地域で生活する母子と家族の特徴について説明できる。
3）地域子育て支援拠点における乳幼児の成長・発達に応じた支援を説明できる。
4）地域で生活する母子と家族を支える社会資源、グループの活動と連携について説明できる。
5） 地域における助産師活動のあり方について考察できる。

日数	テーマ	内容	担当教員
1～7	地域子育て支援拠点における実習	・地域子育て支援拠点で実施されている事業に参加し、子育て支援事業を把握する。 ・当該地域の子育てに関する背景や課題についてアセスメントを行う。 ・育児期にある母親の心理を理解し、生活する母子を地域で支える支援の実際を理解する。 ・乳幼児の成長・発達に応じた遊びの支援や、感染対策の実際について学ぶ。	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子
8	まとめ	地域における助産師活動のあり方についてディスカッションする。	山﨑　圭子 望月　千夏子 日下　桃子

評価	個別に行動目標の到達度から総合的に評価50%、実習記録30%、実習評価表20%で総合的に評価する。
教科書	適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
参考図書 参考WEBページ	適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
事前・事後学習 留意事項	助産実践の課題確認、実習計画の調整については、指導教員に相談・報告をしながら進める。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

Ⅵ　専門科目
（医療・マネジメントエグゼクティブ領域）

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療政策（特論）	講義	選択	菅河 真紀子
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（30時間）	15回	1年後期	河原 和夫、小林 貴恵、棟重 卓三、長谷川 敏彦、山本 光昭、菅河 真紀子

授業概要

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、医療施設の運営において高度な学術知識と技術を備えた人材が必要とされている。効率的かつ経済的に医療施設を管理するマネジメント力を携えた人材育成のために、医療に関連する重要事項（医療保険、診療報酬制度、医療計画、医療の質管理、医療体制など）について、医療の観点からだけでではなく、法、経済などの角度からも必要な知識を修得させ、自らが問題解決に向けた戦略を立案できる能力を育成していく。（オムニバス方式/全15回）

到達目標

講義で習得した知識や技術を生かし、所属する施設における課題を抽出するとともに、それに対する実践的解決策が立案できる。また、習得した評価方法を活用させ、他の医療政策に対する正しい評価ができる。

授業回数	テーマ	授業内容 事前・事後学習 （予習・復習・課題等）	担当教員
1	医療政策概論	医療政策の概論とこれまでの主だった効果的医療政策について紹介し、ディスカッションを通して各医療政策の利点・欠点について論議しながら、評価の方法と観点について講義する。（概説・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter1)P.1～20	菅河 真紀子
2・3	日本の医療計画①②	日本の医療計画の構成原理について解説し現在の各都道府県における医療計画の内容と問題点についてディスカッションをまじえながら評価し,今後の医療制度の動きや情勢の変化について事前に予測し、対応できる力を培う。（講義・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter2.3)P.21～52	河原 和夫
4・5	日本の医療の現状と課題①②	日本の医療・福祉・介護の現状と課題について概説し、課題に対する解決策をディスカッションを通して検討する。講義の最後に日本の医療制度に対する改善策を小論文にまとめる。（講義・ディスカッション・執筆作業） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter10)P151～176	菅河 真紀子
6・7	日本の医療の質と評価①②	日本の医療の質の評価は日本医療機能評価機構によって評価されている。その評価方法の現状と課題について解説する。医療の質についてディスカッションを通して深め、より良い質のよい医療ついて深めていく。（講義・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter4.5)P53～85	河原 和夫
8・9	医療と法①②	医療機関の運営においては、多岐にわたる法律問題に対処する必要が生じる。本講義では、医療機関を取り巻く法規制を概観した後、特に判例の多い医療過誤と近年話題のペイシェントハラスメントについて考える。判断基準の変遷と現場での対応策について実務的観点でディスカッションをまじえて理解を深める。（講義・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter7)P103～120	小林 貴恵
10・11	医療費の適正化対策①②	医療費の適正化のために保険者が果たすべき役割について、保険者機能を強化するために解決すべき課題や問題点を政策の観点から口述し、医療費の削減問題についてディスカッションをまじえながら対策を考える。（講義・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter8)P121～136	棟重 卓三

授業回数	テーマ	授業内容 事前・事後学習 （予習・復習・課題等）	担当教員
12・13	日本の未来医療と医療政策①②	医療政策の策定過程を説明し理解を促したのち、医療政策の実際を「健康日本21」や「地域医療構想」などの実例を挙げて解説し、ディスカッションを通して理解を深める。（講義・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter9)P137～150	長谷川 敏彦
14・15	医療政策と医療経営①②	医療経営戦略と医療政策の関わりについて診療報酬の観点から解説し、具体的経営戦略を考案する実践力を養成していく。講義は口述とディスカッションで行う。（講義・ディスカッション） 『BCG流病院経営戦略』(Chapter6)P.87～102	山本 光昭

評価	成績評価は、小論文の内容（40%）ならびに授業目標の達成度と発表・討論の内容（60%）を総合的に評価する。
教科書	「BCG流病院経営戦略」植草鉄也　他（ボストンコンサルティンググループ）
参考図書 参考WEBページ	「日本の医療」池上直樹、J.C.キャンベル（中公新書）、「厚生労働白書」・「国民衛生の動向」（厚生統計協会）、日本医師会「病院機能評価マニュアル」（金原出版）、日本医療機能評価機構ホームページ、JCAHOホームページ その他必要があれば適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	【予習】それぞれのテーマについて概要、問題点、現状などを調べておく。教科書の指定箇所を読んでおく。 【復習】講義終了後、各自ふりかえりを行い、疑問点などがあれば解消しておく。
オフィスアワー	オフィスアワーは、講義の前後、適宜対応する。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
福祉と安全（特論）	講義	選択	菅河 真紀子
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（30時間）	15回	1年後期	小林 貴恵、井出 健二郎、金谷 泰宏、長谷川 敏彦、菅河 真紀子

授業概要

介護・障害は福祉サービスの大きな柱である。それぞれの特質を理解するとともに、その財務・マネジメントの知見を得ることはマネジャーやリーダーにとって大変重要なことである。基本的な知識について解説したのち、財務・会計の側面からガバナンスや内部統制といった領域までをカバーし、福祉経営戦略を構築できる実践力を総合的に養成する。安全管理については、災害時における的確な指示、管理ができるよう災害危機管理について理解を深めるとともに、日常の医療、福祉施設において安全管理体制の構築が可能となるよう実践的能力を習得させる。また、医療計画、診療報酬のテーマともなっている医療と福祉の連携については、国の政策やデータ共有体制などについて知識を広げ、地域包括システムの根本的な意義の理解まで導く。（オムニバス方式/全15回）

到達目標

介護・障害の詳細のサービス内容を理解し、財務・会計の知識を、経営意思決定に役立てることができる。また、医療安全と危機管理について理解することによって、災害時の危機管理体制を整備し、施設の安全管理体制を構築することができる。さらに、福祉・介護・医療の連携について学び、地域包括ケアシステムを支える一員であることを理解する。

授業回数	テーマ	授業内容	担当教員
1・2	福祉と法①②	多様性を重んじる社会では、福祉の重要性はますます増しており、様々な法律が制定されている。福祉を取り巻く法律は、命令や禁止というよりも、授権機能が主となる特徴がある。このような特徴を有する法律はどのような法律問題として顕在化するのか、具体的な裁判例を通じてディスカッションをまじえながら検討していく。（講義・ディスカッション）	小林 貴恵
3・4	障害サービスの制度①②	障害サービスの制度の中の就労系・障害児童所・訪問系サービスおよび訪問系・日中活動・訓練系サービスについて現状と課題を講義し、ディスカッションをまじえて理解を深めるとともに対策を検討する。（講義・ディスカッション）	井出 健二郎
5・6	介護サービスの制度①②	介護サービス制度の中で特に施設サービス・居宅サービス地域密着型サービスについてその現状と課題を学び、ディスカッションをまじえて理解を深めるとともにその対策を検討する。（講義・ディスカッション）	井出 健二郎
7・8	財務諸表と意思決定会計①②	福祉・介護施設における意思決定の重要な情報となる財務・会計について説明し、経営者の組織運営に役立つ情報提供の仕方や戦略の立て方を講義する。（講義）	井出 健二郎
9	福祉経営のガバナンスと内部統制	福祉施設運営上のガバナンスと内部統制について説明し、施設管理者として行うべき改善点や、構築すべきシステム等についてディスカッションを通して検討する。（講義・ディスカッション）	井出 健二郎
10・11	災害危機管理①②	医療施設と同様、障害者、高齢者の入居している介護施設や福祉施設では、災害時の安全管理が大変重要である。迅速・安全に有事に対応できるよう、災害時の危機管理について講義を行う。後半はディスカッション中心に課題の抽出とその対策の検討を行う。（講義・ディスカッション）	金谷 泰宏

授業回数	テーマ	授業内容	担当教員
12・13	医療安全①②	医療安全の歴史、原理、方法について日本の医療安全制度に基づいて解説する。平時より求められている医療安全対策、安全基準確保などについて講義の後、ディスカッションを通して理解を深める。（講義・ディスカッション）	長谷川 敏彦
14	医療と福祉の連携	地域包括ケアシステムを中心に日本の医療と福祉介護の連携について講義し、各施設での現状と課題をラウンド・ロビンによって抽出し、その対策についてディスカッションを通して検討する。講義の最後に福祉に関するレポートを課す。（講義・ラウンドロビン・ディスカッション・執筆作業）	菅河 真紀子
15	医療安全対策	医療現場では、診療行為、医療機器、薬剤などあらゆる場面で安全対策が施されており、それが医療費高騰の一因となっている。安全対策の考え方や具体例について講義した後、安全管理に対する考えをラウンドロビンによって発表しあい、小論文にまとめる。（講義・ラウンドロビン・執筆作業）	菅河 真紀子

評価	成績評価は、提出された小論文・レポート（30%）ならびに授業目標達成度、発表の内容と討論の内容（70%）を総合的に評価する。
教科書	特になし
参考図書 参考WEBページ	「厚生労働白書」、「国民の福祉と介護の動向」（厚生労働統計協会）厚生労働省ホームページ「医療安全」「健康危機管理対策」「災害危機管理」「福祉・介護」
事前・事後学習 留意事項	講義中、ディスカッション等で自分の意見が言えるよう、必ず講義テーマについて事前学習を行って臨むこと。
オフィスアワー	オフィスアワーは、講義の前後、適宜対応する。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療情報戦略と物的資源管理（演習）	講義	選択	菅河 真紀子
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（30時間）	15回	1年前期	藤井 晴行、伊藤 昭、近藤 彰宏、沖 卓也、菅河 真紀子

授業概要

エビデンスに基づく意思決定は、どの領域でも共通して求められているものである。医療機関の経営戦略には、データを用いた策が不可欠である。院内の患者情報や院外の競合関係にある医療機関、交通網、人の流れなどの情報を的確に分析し,必要な意思決定を論理的かつ効率的に行うことは病院の競争力強化につながる。本講義では、データを効率的に活用させ、組織の意思決定を構築する実践力を養成する。一方、物的資源に関しても病院という特殊な構造を把握し物理的環境の理解をもとに最大限有効活用していくことが病院のよりよい運営につながる。本講義では、各種病院施設の地域計画や供給、管理、診療計画の基礎的事項および、ヒト、モノ、情報の流れ、建築形態、利用者への配慮、病院に求められる物理的環境（空気調和設備、給排水衛生設備、感染制御、安全衛生管理など）等、実際の病院設備の事例をふまえて講述し、施設資源の有効活用につなげていくとともに物的資源管理について理解を深めていく。（オムニバス方式/全15回）

到達目標

データ資源の取得・活用に関する基礎的知識を理解し、活用方法を総合的・実践的に学ぶことによって、戦略的経営につなげる。医療資源の社会的役割や位置づけ、各種計画、構造上のねらいやメカニズムを学ぶによって物的資源の有効活用と安全対策、感染防御などに配慮することができる。

授業回数	テーマ	授業内容	担当教員
1-3	統計学の基礎①②③	情報分析の基礎知識について講義を行う。基本となる記述統計や簡単なロジスティック回帰分析・クロス集計・因子分析・主成分分析などについて理論的説明を行い、実際にパソコンを使用し、実習を交えながら理解に導く。最終講義にテストを行う。（講義・実習）	菅河 真紀子
4・5	医療施設の建築計画・建築環境計画	医療施設と設備について，建築計画・建築環境計画の観点から理解し，施設運営に必要な知識を習得させる。医療施設の企画・計画・設計の基礎的事項，要求される物理化学的環境とそれを創出する建築設備について安全性、健康性、利便性、快適性の観点から講述する。 （講義）	藤井 晴行
6・7	病院施設の計画・設計①②	病院施設がどのような考え方や根拠をもって計画・設計されているかを建築計画学の視点から概説する。具体的には、地域の中の病院計画、病院の全体計画、各部門の計画、防火防災計画、避難計画などを扱う。（講義）	沖 卓也
8・9	病院施設のメカニズム・感染制御のホールライフデザイン	「病院機能を支える重要な設備（電気、空調、衛生、搬送）の概要や特徴を解説する。更に、感染制御科学のエビデンスに基づく安全で衛生的な環境創りのホールライフデザイン（計画から運用管理まで）について講述する。（講義）	伊藤 昭
10・11	物的資源管理とは①②	病院を建設する際、建設主は目指すべきコンセプトを掲げ、関係者とその志を共有しながら全体を俯瞰し調整するマネジメント力が求められる。病院という物的資源の創造プロセスを通して、物的資源管理とは何かについて理解を深める。（講義）	近藤 彰宏

授業回数	テーマ	授業内容	担当教員
12－15	医療情報戦略①②③④	政府の戦略、医療DXは、医療分野でのデジタル・トランスフォーメーションを通じたサービスの効率化や質の向上により、質の高い医療等の効率的な提供などを実現しようとしている。今は、まさに情報を制すものがすべてを制すといっても過言ではない時代である。この科目では、情報を戦略に生かせるよう、病院内外の情報の収集方法と分析について解説し効率的活用方法を考えさせる。また、実習を通して実際に分析作業を実践することによって理解を深める。さらに、情報を活用した医療経営的戦略について具体例を挙げながら解説し、実践力を育成する（講義・実習・テスト）	菅河 真紀子

評価	成績評価は、チェックテストの成績（30%）ならびに授業概要の達成度と講義への取り組み状況（70%）によって総合的に評価する。
教科書	特になし
参考図書 参考WEBページ	必要があれば適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	パソコンを使用して演習を行うので、ノートパソコンを各自持参すること。また、統計ソフト（SPSS　学生用）を購入し、インストールしておくこと。
オフィスアワー	オフィスアワーは,講義の前後、適宜対応する。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
人的資源教育と組織戦略 （特論）	講義	選択	菅河 真紀子
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
2単位（30時間）	15回	1年後期	熊澤 大輔、小暮 孝道、林 大樹、菅河 真紀子

授業概要

人的資源は、医療機関の経営にとって最も重要な財産であり、個々の能力を最大限引き出し、効率的な配置を実現することが円滑な病院経営につながる。人的管理の基本は教育にあり、戦略的な思考ができる能力を育てることが、組織の向上につながる。本講義では、実例ケースの紹介を交え人的資源の育成・リーダーシップ論・組織運営・社会的競争力の強化について理論的・実践的双方の角度から講義を進めていく。（オムニバス方式/全15回）

到達目標

人的資源に関わる思想、理論、方法の基礎的事項を理解し、多面的経営管理手法やビジネスモデルキャンパスを活用させながら、リーダーとして戦略的に組織をマネジメントできる。

授業回数	テーマ	授業内容 事前・事後学習 （予習・復習・課題等）	担当教員
1・2	人材管理と人的資源①②	組織の中核を成す要素である「ヒト＝人材」の基本を理解するため、人材管理の定義や人材の採用・配置をはじめとする人的資源計画を概説する。あわせて、人事評価やキャリア開発の観点から、人的資源の開発・活用についても理解を深める。（講義・ディスカッション） *最終講義のプレゼンテーションの課題予告 『マネジャーの教科書』　第4章P.80～101	熊澤 大輔
3・4	医療機関における人材管理①②	医療機関特有の体制面や運用面の課題を前提として、人事制度や幹部育成の実際を理解するとともに、医療機関の今後の人事制度のあり方を見据えた人材管理の今日的課題についてディスカッションを交えて考察する。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第1章P.14～34	熊澤 大輔
5・6	人材管理の実例 ～地域における取組～①②	講義前半では実際の医療法人経営者と現場の部門管理者から地域医療機関での人財管理の具体的な取り組みを紹介し、人的資源管理の実際を解説するともに、後半では具体事例を踏まえたディスカッションを行う。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第7章P.150～168	穂坂　邦大
7・8	組織ガバナンス①②	人的資源不足で健全な経営が困難になりつつある中、医療施設を管理、統制する根幹となる組織ガバナンスについて理論的に口述するとともに、近年注目されているビジネステラシ―の一つである交渉学を講義し、心理戦への対処法と信頼される人間の基盤を培う。（講義・グループワーク） 『マネジャーの教科書』　第3章P.60～76	小暮 孝道
9	ヘルスケア組織の特徴	病院、診療所、介護施設などヘルスケア組織には医師、看護師、介護士など多くの専門職が勤務し、組織構造はピラミッド型組織に限られず、多様である。こうしたヘルスケア組織のマネジメントの特徴を学ぶ。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第2章P.38～56	林 大樹
10	ヘルスケア組織におけるPDC活動	ヘルスケア組織においても、そのマネジメント活動の基本は「Plan→Do→Check」が繰り返されるPDC活動（PDCサイクル）である。ここではP（Plan）について、戦略策定、目標設定、計画の立て方などを学ぶ。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第2章P.38～56	林 大樹

授業回数	テーマ	授業内容 事前・事後学習 （予習・復習・課題等）	担当教員
11	ヘルスケア組織における業務改善	組織のリーダーとメンバーは、PDCを軸に徹底したコミュニケーションを通じ、目標を共感し、事業計画目標達成に向けて「D」を実行していくが、そのプロセスにおける正しい課業表へのチェックを通じた業務改善について学ぶ。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第6章P.128～146	林 大樹
12	ヘルスケア組織におけるC （Check）＝検証	PDC活動のC（検証）において、結果をチェックし達成度の確認を行う。これにより、個人目標達成が部門目標達成・施設目標の達成につながり、「ボトムアップによる連鎖」が実現するPDC活動となっているかが確認される。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第6章P.128～146	林 大樹
13	ヘルスケア組織における人事評価と人材育成	ヘルスケア組織におけるチームワークやリーダーシップのあり方について学ぶ。マネジャーにとって、PDC活動を通じた部下とのコミュニケーションが適切な人事評価と効果的な人材育成の肝であることを学ぶ。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第5章P.104～125	林 大樹
14	これからのヘルスケア組織マネジャーのあるべき姿とは	ヘルスケア組織の経営は今後どうあるべきか。そしてこれからのマネジャーには何が求められていて、その求めに応えるためには何が必要かを考察する。（講義・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第9章P.194～205	林 大樹
15	人的資源の有効活用	「所属する施設における人的資源の有効活用」について具体的対策を考案し、プレゼンテーション（事前課題）を行い、それぞれについてあらゆる観点から適切な評価を行うことによって知識を実践につなげていく。（講義・プレゼンテーション・ディスカッション） 『マネジャーの教科書』　第8章P.172～190	菅河 真紀子

評価	成績評価は、プレゼンテーションの内容（50%）ならびに授業目標達成度と発表・討論の内容（50%）によって総合的に評価する。
教科書	『マネジャーの教科書』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考図書 参考WEBページ	必要に応じて、講義の中で指示する。
事前・事後学習 留意事項	講義中、ディスカッション等で自分の意見が言えるよう、必ず講義テーマについて事前学習を行って臨むこと。教科書の指定個所を読んでおくこと。
オフィスアワー	オフィスアワーは、講義の前後、適宜対応する。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療ビジネス（演習）	講義	選択	菅河 真紀子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
2単位（30時間）	15回	1年前期	藤川 裕紀子、井出 健二郎、原茂 順一、久富 護、田邊 弘幸

授業概要

「戦略に役立つ会計」には、会計学の2大領域である「財務会計」と「管理会計」双方の知識が必須である。限られた講義回数の中で、本講義は、その両者のエッセンスについて、ケースをもとに説明していく。会計の最大の特質は、自らが活動した結果が、金額ベースで可視化されることにある。まずは、「制度としての会計、財務会計」について説明し、財務諸表を分析するための「財務分析・経営分析」を習得する。そして「経営管理に役立つ管理会計」について深めながら実際に演習形式で、分析を行う。さらに、あらゆる分野との関連を説きながらコンサルタント、税理士・企業役員の講義をまじえて経営改善につながる戦略的医療ビジネスについて実践力を養成する。 （オムニバス方式/全15回）

到達目標

医療経営のトップマネジメントとして財務会計や管理会計に関する必要な知識を習得し、財務に強みを持ちつことによって財務的課題解決力に長け、経営改善につながる戦略立案が可能なリーダーになることを目的とする。

授業回数	テーマ	授業内容	担当教員
1・2	会計・財務の基礎①②	複式簿記、財務諸表や経営指標を用いた分析など会計・財務の基礎を学んだうえで、財務会計と管理会計、会計と財務の違いなどを理解し、組織の経営管理に会計・財務の知識を活用する能力を身につける。（講義）	藤川 裕紀子
3	病院の財務会計①	病院の財務会計の収益・費用系との関連性について講義を行い、考え方や手法について基礎的な知識を習得させる。（講義）	井出 健二郎
4	病院の財務会計②	病院財務会計における資産・負債系との関連性について講義を行い、考え方や手法について基礎的な知識を習得させる（講義）	井出 健二郎
5・6	病院の経営分析①②	病院の経営分析における3つの観点である、収益性・安全性・機能性について講義を行い、実例を使って検討し理解を深める。（講義・ディスカッション）	井出 健二郎
7	病院の経営管理会計①	病院経営管理会計を把握するうえで必要な変動費と固定費の概念や詳細について講義する。（講義）	井出 健二郎
8	病院の経営管理会計②	病院経営管理会計を把握するうえで必要な直接原価計算・損益分岐点分析の詳細について講義する。また、PDCAを意識した会計について探究する。（講義）	井出 健二郎

授業回数	テーマ	授業内容	担当教員
9	所属医療施設の経営分析①	各所属施設の経営上の問題点について、実際に演習形式で分析を行い、経営改善につながる具体的戦略を構築していく。（講義・ラウンドロビン・ディスカッション）	井出 健二郎
10	所属医療施設の経営分析②と総括	各所属施設の経営上の問題点について、実際に演習形式で分析を行い、経営改善につながる具体的戦略を構築していく。最後に総括を行う。（講義・ラウンドロビン・ディスカッション）	井出 健二郎
11・12	資源の有効活用と収支改善①②	資源の有効活用と収支改善について過去に実施されてきた具体的な戦略例と手法・問題点を紹介する。ディスカッションをまじえながら改善策と新しい可能性について探究する。（講義・ディスカッション）	原茂 順一
13	中小病院の担うべき役割と在宅医療	病院の大半は中小病院であるが、多くは経営難に陥っている。本講義では、今後の人口構成等を見据え、中小病院が担うべき病棟機能や役割について論じるとともに生き残りをかけた戦略的運営を、在宅医療や臨床現場での観点を踏まえて論じる。（講義）	久富　護
14・15	経営戦略①②	社会的競争力の強化について具体的な経験をふまえながら口述し、今後日本において医療施設が勝ち抜くために必要なポイントについて探究するとともに、施設のリーダーとしての心得について論じる。講義の最後に医療ビジネスについてレポートを課す。（講義とディスカッション・執筆）	田邊 弘幸

評価	成績評価は、レポートの内容（30%）ならびに授業目標達成度と発表・討論の内容等（70%）を総合的に評価する。
教科書	特になし
参考図書 参考WEBページ	「BCG流病院経営戦略」植草鉄也　他（ボストンコンサルティンググループ） 必要があれば適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	【予習】それぞれのテーマについてこれまで学習した知識を整理しておくこと。 【復習】各回の授業が終了したのちに、ふりかえりを行い、疑問点などがあれば解消しておくこと。
オフィスアワー	オフィスアワーは、講義の前後、適宜対応する。

Ⅶ　特別研究科目

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	川本 利恵子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、疾病や治療に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響と健康支援に必要な看護実践ケアの課題などを中心にした臨床看護学の意義ある研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）臨床看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	臨床看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	川本 利恵子
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	川本 利恵子
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	川本 利恵子
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	川本 利恵子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	川本 利恵子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	川本 利恵子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	川本 利恵子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	川本 利恵子
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	川本 利恵子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	川本 利恵子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	石川 眞里子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、小児保健・福祉、および小児医療の対象である子どもと家族の健康問題を抱える状況を理解し、その支援に必要な看護実践における課題から自らの研究課題を明確にするとともに、その課題解決のために適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、小児保健・医療における健康増進・予防研究の発展のために貢献できることを目指す。

到達目標

1）小児保健・福祉、小児医療における様々な課題における研究的視点について、文献を整理し説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題・方法の検討	小児保健・福祉、小児医療および小児看護学分野における現状分析に関連する情報・資料を収集、解析し、自身の研究課題について整理する。	石川 眞里子
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から自己の研究課題を決定し、対象・研究方法を絞り、使用する尺度や統計解析の方法を修得する。	石川 眞里子
11～20	研究計画の立案	対象者・施設等への研究依頼文・同意書・同意撤回書、調査用紙の作成や質的研究のスケジュール等もふまえた研究計画を立案する。	石川 眞里子
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	石川 眞里子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	石川 眞里子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	石川 眞里子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	石川 眞里子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	石川 眞里子
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	石川 眞里子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	石川 眞里子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	看護における研究　第2版、南裕子、野嶋佐由美編、日本看護協会出版会、2017年、978-4-8180-2060-5
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	牛田 貴子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

加齢変化、疾患、障害をかかえつつも、それぞれの生活の場で、その人らしくいきいきと暮らし続けるために、医療専門職としてどのように支援するか、履修した教育研究の知識と技術と、看護学、理学療法学、作業療法学を基盤として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、研究論文を完成させ、発表を行う。またこの過程を通して、看護学、理学療法学、作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術の高度化を目指す。

到達目標

1）高齢者の「新たな生活の再構築」を支援する老年看護の実践に関する一連の研究過程により、論理性・整合性のある論文を作成することができる。
2）高齢者や家族の視点に立った看護実践の解釈、分析ができる。
3）研究を遂行するための倫理的感受性を身につけ、対象の尊厳を守ることができる。
4）複雑な問題や状況の全体を見渡して、最適な介入を提案し参画するスキルを身につける。
5）自律的に最新の知識・技術を探求し続ける課題発見力と発信力を身につける。
6）今後の老年看護実践および研究活動について見通しをもつ。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	老年看護学への興味・関心から批判的文献検討を集積し、研究テーマの絞り込みを行う。	牛田 貴子
5～10	研究計画の立案	研究課題に適した研究方法について、フィールドワーク等により、研究課題の背景、意義、研究活動遂行上の課題を明らかにする。	牛田 貴子
11～16	研究計画書の作成	研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	牛田 貴子
17～20	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	牛田 貴子
21～26	研究における前段階の遂行	文献の追加精査や予備調査等により、研究計画を推敲し、計画に基づいてデータ収集を行う。	牛田 貴子
27～34	研究の中間まとめ	研究計画およびデータ収集の途中経過をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	牛田 貴子
35～38	研究中間発表	研究内容をさらに充実させるために、公開での中間発表を行う。	牛田 貴子
39～50	研究における後段階の遂行	中間発表で得られた知見による修正を行いつつ、研究活動を継続する。	牛田 貴子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	牛田 貴子
61～72	論文作成	結果に基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	牛田 貴子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文を完成して公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	牛田 貴子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	特論、演習等の学習が基盤となるため、これまでの学修成果を整理しておく。学習進度によって柔軟に授業形態や方法を変えていきます。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	片山 典子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、精神保健および精神看護学にとって意義ある研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、精神看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）精神保健および精神看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	精神看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	片山 典子
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	片山 典子
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	片山 典子
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	片山 典子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	片山 典子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	片山 典子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	片山 典子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	片山 典子
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	片山 典子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	片山 典子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	倉田 慶子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、疾病や治療に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響と健康支援に必要な看護実践ケアの課題などを中心にした臨床看護学の意義ある研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）臨床看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	臨床看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	倉田 慶子
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	倉田 慶子
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	倉田 慶子
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	倉田 慶子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	倉田 慶子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	倉田 慶子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	倉田 慶子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	倉田 慶子
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	倉田 慶子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	倉田 慶子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	小林 紀明
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、在宅看護学の意義ある研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）臨床看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	精神看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	小林 紀明
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	小林 紀明
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	小林 紀明
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	小林 紀明
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	小林 紀明
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	小林 紀明
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	小林 紀明
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	小林 紀明
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	小林 紀明
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	小林 紀明

評価	研究計画書30%、研究実践（中間発表会含む）30%、修士論文審査結果40%により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	山勢 善江
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

急性期に関連した医療や看護にとって意義ある研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、急性期看護学の発展を目指す。

到達目標

1）急性期医療および急性期看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	急性期看護分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	山勢 善江
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	山勢 善江
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	山勢 善江
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	山勢 善江
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	山勢 善江
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	山勢 善江
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	山勢 善江
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	山勢 善江
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	山勢 善江
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	山勢 善江

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	ラウ 優紀子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、加齢・疾病・廃用性に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLなどについて、ヘルスプロモーションの視点から必要な看護実践の課題などを研究課題として明確にする。当該研究課題の解決に向けて、適切な研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。 また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、老年看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）高齢者医療および老年看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み、研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用するための方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～5	研究課題の検討	老年看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	ラウ 優紀子
6～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	ラウ 優紀子
11～15	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、研究の実現可能性もふまえた研究計画を立案する。	ラウ 優紀子
16～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法・予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	ラウ 優紀子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	ラウ 優紀子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	ラウ 優紀子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。この間に定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	ラウ 優紀子
51～60	研究計画のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	ラウ 優紀子
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	ラウ 優紀子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	ラウ 優紀子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	必修	渡邉 眞理
単位数（時間数）	**授業回数**	**配当年次**	**科目担当教員**
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	岡 多恵、清水 奈緒美、渡邉 眞理

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、がんの予防から診断、治療に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響と健康支援に必要ながん看護実践ケアの研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）臨床看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～5	研究課題の検討	精神看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
6～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	渡邉 眞理 清水 奈緒美 岡 多恵

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	渡部 節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、感染症の予防から診断、治療に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響と健康支援に必要な感染症看護実践、施設や地域における感染看護管理に関する研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）感染看護における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～5	研究課題の検討	感染看護分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	渡部 節子
6～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	渡部　節子
11～15	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	渡部　節子
16～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	渡部　節子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	渡部　節子
35～38	研究計画に基づいたプレテス	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	渡部　節子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	渡部　節子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	渡部　節子
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	渡部 節子
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	渡部 節子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	碓井 瑠衣
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、国内外における健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響と健康支援に必要な看護ケアの課題などを中心にした研究課題を明確にする。当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）国際的視点から看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	国際看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	碓井 瑠衣
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	碓井 瑠衣
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	碓井 瑠衣
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	碓井 瑠衣
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	碓井 瑠衣
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	碓井 瑠衣
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	碓井 瑠衣
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	碓井 瑠衣
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	碓井 瑠衣
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	碓井 瑠衣

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
健康増進・予防特別研究	演習	選択	清水 奈緒美
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した特論や演習を基盤に、がんの予防から診断、治療に伴う健康問題を抱える人々の生活やQOLへの影響と健康支援に必要ながん看護実践ケアの研究課題を明確にするとともに、当該研究課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索し、研究論文を完成し発表を行う。また一連の研究プロセスを通して質の高い実践者・研究者としての基本的能力を修得し、臨床看護学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1）臨床看護学における研究課題について、論理的に説明することができる。
2）自身の研究課題を見出し、その背景や意義について説明することができる。
3）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
4）研究計画書を作成し、一連の研究プロセスにより論理性・整合性のある論文を作成することができる。
5）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
6）研究成果を教育や実践の場に応用する方略を説明できる。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～5	研究課題の検討	がんの臨床看護学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	清水 奈緒美
6～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	清水 奈緒美
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	清水 奈緒美
21～26	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	清水 奈緒美
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	清水 奈緒美
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	清水 奈緒美
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	清水 奈緒美
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	清水 奈緒美
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	清水 奈緒美
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	清水 奈緒美

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	田邉 浩文
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学及び作業療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学・作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）身体に障害のある者の心身機能、活動と参加を回復、改善に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究に必要な倫理のもと実行可能な研究計画を立案できる。
3）研究計画に基づいて研究を実施することができる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信する能力を身につける。
5）研究成果を教育や実践の場でに展開するためのネットワーク構築の方略を考えることができる。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	田邉 浩文
5～10	研究計画の立案	研究疑問に関わる変数を明確にし、心身機能と構造、脳機能及び、医工産学連携に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	田邉 浩文
11～14	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	田邉 浩文
15～18	研究計画の発表および評価	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	田邉 浩文
19～22	研究計画の修正	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	田邉 浩文
23～26	予備研究等の実施	研究結果に影響を及ぼす変数を検討・整備し、状況に応じて予備研究を行い、仮説を明確化して研究に着手する。	田邉 浩文
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	田邉 浩文
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	田邉 浩文
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を勘案し、本研究の推進を実施する。	田邉 浩文
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	田邉 浩文
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	田邉 浩文
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	田邉 浩文

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	中枢神経疾患及びニューロリハビリテーション工学に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、所要の図書・雑誌等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	大森 圭貢
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学及び作業療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学・作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）身体に障害のある者の心身機能，活動と参加を回復，改善に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究に必要な倫理のもと実行可能な研究計画を立案できる。
3）研究計画に基づいて研究を実施することができる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信する能力を身につける。
5）研究成果を教育や実践の場でに展開するためのネットワーク構築の方略を考えることができる。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問に関する文献レビューを行い，当該分野の既知と未知を明らかにし研究課題を決定する。	大森 圭貢
5～9	研究計画の立案	研究課題の解決に必要な取り扱うべき変数の抽出と研究デザインを考え，研究計画を立案する。	大森 圭貢
10～14	研究計画書の作成	立案した研究計画に則り、研究対象、方法、予測される結果を検討し、研究計画書と研究倫理審査申請書を作成する。	大森 圭貢
15～18	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。	大森 圭貢
19～22	研究計画の修正	研究計画の発表で受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	大森 圭貢
23～26	予備研究等の実施	予備研究等を実施する。必要に応じて研究計画を変更・修正し、研究を開始する。	大森 圭貢
27～34	研究の中間まとめ	研究実施によって得られた結果の中間まとめを行う。公開での中間発表にむけて検討を進め、発表資料の作成を行う。	大森 圭貢
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を行う。受けた評価を考慮し、研究を発展させる。	大森 圭貢
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を踏まえ、本研究を実施する。	大森 圭貢
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	大森 圭貢
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、その結果を論文にする。	大森 圭貢
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	大森 圭貢

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	リハビリテーション、理学療法学に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、必要に応じた図書・資料等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	坂上 昇
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）リハビリテーション学の発展に貢献できる研究課題を設定する発想力や着眼力を修得する。
2）研究を実施する企画力と実践力および倫理観を身につける。
3）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
4）研究成果を教育や実践の場に応用する方略が考えられる。
5）上記を通して地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得する。
6）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	坂上 昇
5～9	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、リハビリテーション学的あるいは理学療法学的なエビデンスを背景として研究計画を立案する。	坂上 昇
10～14	研究計画書の作成	立案した研究計画に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	坂上 昇
15～18	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。	坂上 昇
19～22	研究計画の修正	研究計画の発表で受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	坂上 昇
23～26	予備研究等の実施	文献を精査し、先行研究の整理を行い仮説を設定する。仮説に基づいた予備実験等を検討し、研究を始める。	坂上 昇
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	坂上 昇
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	坂上 昇
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を勘案し、本研究を実施する。	坂上 昇
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	坂上 昇
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	坂上 昇
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	坂上 昇

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	なし（リハビリテーション学、理学療法学に関連した主な原著論文を用いる。）
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	柴田 昌和
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本研究過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法、作業療法および看護の各領域を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法、作業療法および看護の各領域におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）基礎的研究を医学的に発展できる研究課題を設定する発想力や着眼力を修得する。
2）研究を実施する立案力とそれを実行する実践力および倫理観を身につける。
3）得られた研究データをまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
4）得られた研究データを教育や実践の場に応用する方略が考えられる。
5）研究を通して地域住民への貢献や教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得する。
6）修士論文作成を通して、臨床実践者や後輩の指導スキルや学部学生への教育スキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究分野における情報を収集、研究課題を決定する。	柴田 昌和
5～10	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、リハビリテーションに関わるエビデンスを背景として目的とする研究計画を立案する。	柴田 昌和
11～16	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	柴田 昌和
17～20	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、他者の評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	柴田 昌和
21～26	研究における前段階の遂行	研究における前段階の遂行。	柴田 昌和
27～34	研究の中間まとめ	中間データをまとめ、中間発表へ向けて検討を進める。	柴田 昌和
35～38	研究中間発表	公開での中間発表の準備および実施。	柴田 昌和
39～50	研究における後段階の遂行	中間発表の結果の批評を勘案し、本研究を推進する。	柴田 昌和
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、基礎医学とリハビリテーション分野および地域貢献とのつながりを考察する。	柴田 昌和
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	柴田 昌和
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	柴田 昌和

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	基礎分野、研究専門分野に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	柴田：Anatomy and Human Movement: Structure and function. Elsevier Health Sciences; /7th Revised版 / ISBN：978-0750609708. エッセンシャル・キネシオロジ―第3版/南江堂/ISBN：978-4-524-22653-5
事前・事後学習 留意事項	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	鈴木 雄介
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、臨床実践・研究を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、高次脳機能ならびに心身機能回復学分野におけるそれぞれの課題を整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）高次脳機能ならびに心身機能回復学分野の発展に貢献できる研究課題を設定する発想力や着眼力を修得する。
2）研究課題に取り組み研究を遂行するための科学的知識・技術・倫理観を身につける。
3）研究計画書を作成し一連の研究プロセスにより整合性のある論文を作成することができる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
5）研究成果を高次脳機能ならびに心身機能回復学分野の実践の場に応用する方略を説明できる。
6）上記を通して臨床実践者や研究者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得する。
7）修士論文の作成を含む実践的な演習経験を通して、臨床実践者や後輩を指導するスキルを身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	当該大学院生の研究分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	鈴木 雄介
5～10	研究計画の立案	批判的文献検討を集積し、研究課題に適した研究方法について熟考しつつ、研究課題やその背景、意義をさらに明確にする。	鈴木 雄介
11～16	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	鈴木 雄介
17～20	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	鈴木 雄介
21～26	研究における前段階の遂行	文献の追加精査や予備調査等により、さらに研究計画を推敲し、計画に基づいてデータ収集を行う。	鈴木 雄介
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	鈴木 雄介
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	鈴木 雄介
39～50	研究における後段階の遂行	中間発表の結果を勘案し、本研究の推進を実施する。	鈴木 雄介
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	鈴木 雄介
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	鈴木 雄介
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	鈴木 雄介

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	高次脳機能ならびに心身機能回復学分野に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	鶴見 隆正
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、高齢者・障害児・者の生活行動や社会的参加などの現状と課題等について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）リハビリテーション学の発展に貢献できる研究課題を設定する発想力や着眼力を修得する。
2）研究を実施する企画力と実践力および倫理観を身につける。
3）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
4）研究成果を教育や実践の場に応用する方略が考えられる。
5）上記を通して地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	文献・臨床課題の吟味	鶴見 隆正
5～10	研究計画の立案	社会・医学的なエビデンスを背景として研究計画を立案	鶴見 隆正
11～16	研究計画書の作成	研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成	鶴見 隆正
17	研究計画の発表および評価	研究計画の発表準備	鶴見 隆正
18～20	研究計画の発表および評価	研究計画の倫理規定の確認と申請	鶴見 隆正
21～26	研究における前段階の遂行	先行研究の整理を行い仮説を設定	鶴見 隆正
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめ	鶴見 隆正
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施	鶴見 隆正
39～50	研究における後段階の遂行	中間発表の結果を勘案し、本研究の推進	鶴見 隆正
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討	鶴見 隆正
61～65	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討	鶴見 隆正
66～72	論文作成	再分析しながら論文を作成	鶴見 隆正
73～74	研究論文の発表および評価	成果を公開発表	鶴見 隆正
75	研究論文の発表および評価	最終試験として評価判定	鶴見 隆正

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	リハビリテーション学、理学療法学に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	リハビリテーションの歩み　上田敏　著　医学書院
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	森尾 裕志
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、保健医療学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、保健医療学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）保健医療における呼吸循環機能障害者・虚弱高齢者に対するリハビリテーションの発展に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究を実施する企画力と実践力および倫理観を身につける。
3）研究計画に基づいて研究を実施することが出来る。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
5）上記を通して地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を習得する。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導する技術を身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	森尾 裕志
5～10	研究計画の立案	身体の機能や能力、社会的背景などから研究課題の解決に必要な取り扱うべき変数の抽出と研究デザインを立案する。	森尾 裕志
11～14	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	森尾 裕志
15～18	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	森尾 裕志
19～22	研究計画の修正	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	森尾 裕志
23～26	予備研究等の実施	研究結果に影響を及ぼす変数を検討・整備し、状況に応じて予備研究を行い、仮説を明確化して研究に着手する。	森尾 裕志
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	森尾 裕志
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	森尾 裕志
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を勘案し、本研究の推進を実施する。	森尾 裕志
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	森尾 裕志
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	森尾 裕志
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	森尾 裕志

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	なし（保健医療学、リハビリテーション学に関連した主な原著論文を提示する）。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、所要の図書・雑誌等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	山田 拓実
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学及び作業療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学・作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）身体に障害のある者の心身機能，活動と参加を回復，改善に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究に必要な倫理のもと実行可能な研究計画を立案できる。
3）研究計画に基づいて研究を実施することができる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信する能力を身につける。
5）研究成果を教育や実践の場でに展開するためのネットワーク構築の方略を考えることができる。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究分野の文献レビューを行い，当該分野の既知と未知を明らかにし研究課題を決定する。	山田 拓実
5～9	研究計画の立案	研究課題の解決に必要な取り扱うべき変数の抽出と研究デザインを考え，研究計画を立案する。	山田 拓実
10～14	研究計画書の作成	立案した研究計画に則り、研究対象、方法、予測される結果を検討し、研究計画書と研究倫理審査申請書を作成する。	山田 拓実
15～18	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。	山田 拓実
19～22	研究計画の修正	研究計画の発表で受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	山田 拓実
23～26	予備研究等の実施	予備研究等を実施し、研究を開始する。	山田 拓実
27～34	研究の中間まとめ	研究実施によって得られた結果の中間まとめを行う。公開での中間発表にむけて検討、資料作成を行う。	山田 拓実
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を行う。中間発表で受けた評価を考慮し、研究をさらに発展させる。	山田 拓実
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を踏まえ、本研究を実施する。	山田 拓実
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	山田 拓実
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、その結果を論文にする。	山田 拓実
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	山田 拓実

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	リハビリテーション、理学療法学に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	櫻井 好美
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、保健医療学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、保健医療学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）保健医療における呼吸循環機能障害者・虚弱高齢者に対するリハビリテーションの発展に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究を実施する企画力と実践力および倫理観を身につける。
3）研究計画に基づいて研究を実施することが出来る。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
5）上記を通して地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を習得する。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導する技術を身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	櫻井 好美
5～10	研究計画の立案	身体の機能や能力、社会的背景などから研究課題の解決に必要な取り扱うべき変数の抽出と研究デザインを立案する。	櫻井 好美
11～14	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	櫻井 好美
15～18	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	櫻井 好美
19～22	研究計画の修正	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	櫻井 好美
23～26	予備研究等の実施	研究結果に影響を及ぼす変数を検討・整備し、状況に応じて予備研究を行い、仮説を明確化して研究に着手する。	櫻井 好美
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	櫻井 好美
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	櫻井 好美
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を勘案し、本研究の推進を実施する。	櫻井 好美
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	櫻井 好美
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	櫻井 好美
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	櫻井 好美

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	なし（保健医療学、リハビリテーション学に関連した主な原著論文を提示する）。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、所要の図書・雑誌等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	杉村 直哉
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学及び作業療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学・作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）労働者の精神保健および職場介入など産業衛生分野の発展に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究に必要な倫理のもと実行可能な研究計画を立案できる。
3）研究計画に基づいて研究を実施することができる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信する能力を身につける。
5）研究成果を教育や実践の場でに展開するためのネットワーク構築の方略を考えることができる。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	杉村 直哉
5～10	研究計画の立案	研究疑問に関わる変数を明確にし、労働者の精神衛生や職場介入など心身機能回復学に関連するエビデンスを背景として研究計画を立案する。	杉村 直哉
11～14	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	杉村 直哉
15～18	研究計画の発表および評価	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	杉村 直哉
19～22	研究計画の修正	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	杉村 直哉
23～26	予備研究等の実施	研究結果に影響を及ぼす変数を検討・整備し、状況に応じて予備研究を行い、仮説を明確化して研究に着手する。	杉村 直哉
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	杉村 直哉
35～38	研究中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	杉村 直哉
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を勘案し、本研究の推進を実施する。	杉村 直哉
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	杉村 直哉
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	杉村 直哉
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	杉村 直哉

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	精神保健および産業衛生に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、所要の図書・雑誌等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	増田 雄亮
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、各大学院生の課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、理学療法学及び作業療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、理学療法学・作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）リハビリテーション科学・作業療法学・心身機能回復学分野の発展に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究課題を遂行するための科学的知識・研究手法・倫理観を身につける。
3）独創性・創造性・実行可能性のある研究計画書を作成できる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信できる能力を身につける。
5）研究成果をリハビリテーション科学・作業療法学分野の実践に応用する方略を説明できる。
6）修士論文の作成を通して、臨床疑問を研究に結びつける能力を身につける。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	増田 雄亮
5～9	研究計画の立案	研究疑問に関わる変数を明確にし、リハビリテーション科学・作業療法学・心身機能回復学に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	増田 雄亮
10～14	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書ならびに研究倫理審査申請書を作成する。	増田 雄亮
15～18	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	増田 雄亮
19～22	研究計画の修正	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	増田 雄亮
23～26	予備研究の実施	研究結果に影響を及ぼす変数を検討・整備し、状況に応じて予備研究を行い、仮説を明確化して研究に着手する。	増田 雄亮
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	増田 雄亮
35～38	研究の中間発表	公開での中間発表を実施し、その後の研究の遂行をさらに発展させる。	増田 雄亮
39～50	本研究の実施	中間発表での結果を勘案し、本研究の推進を実施する。	増田 雄亮
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	増田 雄亮
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	増田 雄亮
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	増田 雄亮

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	リハビリテーション科学・作業療法学・心身機能回復学に関連した主な原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、必要な図書・雑誌等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
心身機能回復特別研究	演習	選択	三川 年正
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本過程で履修した教育研究の知識と技術を基本として、研究課題について各種研究手法に沿った分析や検証を加え、作業療法学を基盤として研究論文を完成させ、発表を行う。高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を習得し、作業療法学におけるそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。

到達目標

1）精神および身体に障害のある者の心身機能、活動と参加を回復、改善に貢献できる研究課題を設定できる。
2）研究に必要な倫理のもと実行可能な研究計画を立案できる。
3）研究計画に基づいて研究を実施することができる。
4）研究成果をまとめ、国内外に発信する能力を身につける。
5）研究成果を教育や実践の場でに展開するためのネットワーク構築の方略を考えることができる。
6）修士論文の作成を通して、実践者や後輩を論理的に指導することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の決定	研究疑問及びその先行研究に関わる情報を収集、解析し、研究課題を決定する。	三川 年正
5～10	研究計画の立案	研究課題の解決に必要な変数の抽出と研究デザインを検討し、研究計画を立案する。	三川 年正
11～14	研究計画書の作成	立案した研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果、研究の意義を検討し、研究計画書と研究倫理審査申請書を作成する。	三川 年正
15～18	研究計画の発表および評価	研究方法論に則った研究計画書を発表し、評価を受ける。	三川 年正
19～22	研究計画の修正	研究方法論に則った研究計画書を評価に基づき、修正を行う。	三川 年正
23～26	予備研究等の実施	研究結果に影響を及ぼす変数を検討・整備し、状況に応じて予備研究を行う。	三川 年正
27～34	研究の中間まとめ	研究実施に基づいて中間での結果をまとめる。公開での中間発表へ向けて検討を進める。	三川 年正
35～38	研究中間発表	公開での研究の中間発表を実施し、その後の遂行をさらに発展させる。	三川 年正
39～50	本研究の実施	中間発表の結果を勘案し、本研究を実施する。	三川 年正
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	三川 年正
61～72	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加実験や検討を行い、論文を作成する。	三川 年正
73～75	研究論文の発表および評価	研究論文の完成に基づいて、その成果を公開発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	三川 年正

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	精神科リハビリテーションに関連した原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	講義に先立ち、適宜、所要の図書・雑誌等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
助産学特別研究	講義	選択	山﨑 圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1～2年通年	

授業概要

助産学および母性看護領域（妊娠・出産・育児などにかかわるリプロダクティブヘルスの問題など）から研究テーマを選び、科学的な根拠に基づく助産ケアを効果的に提供するために寄与する研究を行う。

到達目標

1）研究課題が明確にできる。
2）研究計画の立案ができる。
3）研究倫理の重要性を理解する。
4）研究計画に基づき研究を実施できる。
5）研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6）研究の一連の過程を修士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	助産学分野における現状分析に関わる情報を収集、解析し、自身の専門領域における研究課題について整理する。	山﨑 圭子
5～10	研究課題の決定	情報収集、解析した結果から、自己の研究課題を決定する。	山﨑 圭子
11～20	研究計画の立案	研究課題に関連するより詳細な情報や文献をもとに、実施可能性もふまえた研究計画を立案する。	山﨑 圭子
21～24	研究計画書の作成	科学的研究方法論に則り、研究対象・方法、予測される結果および研究の意義を検討し、研究計画書を作成する。	山﨑 圭子
25～26	研究倫理審査申請及び受審	研究倫理審査を受審する。	山﨑 圭子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき研究計画の修正を行う。	山﨑 圭子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	山﨑 圭子
39～50	調査と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中定期的に発表、討議を行い、目的に沿った研究を遂行する。	山﨑 圭子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	山﨑 圭子
61～73	論文作成	結果のまとめに基づいて、追加調査や検討を行い、再分析しながら論文を作成する。	山﨑 圭子
74～75	研究論文の発表および評価	修士論文の完成に基づいて、その成果を発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	山﨑 圭子

評価	研究計画・研究実践ならびに修士論文審査結果により評価する。
教科書	特になし。
参考図書 参考WEBページ	看護研究 第2版 原理と方法/D.F.ポーリット・C.T..ベック著 近藤潤子監訳/医学書院/ISBN:978-4-260-00526-5
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。
オフィスアワー	授業の前後及び別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目責任者
医療・マネジメント エグゼクティブ領域特別研究	演習	選択	菅河 真紀子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	科目担当教員
10単位（150時間）	75回	1年～2年通年	

授業概要

本課程で習得した医療マネジメントに関する知識や技能を基に、医療を取り巻く社会環境の中あるいは所属する医療施設の内外から、解決すべき医療経営に関する課題を見出し、それについてあらゆる角度から分析、検証を加え研究報告書を作成する。研究報告書の内容は、調査、分析結果にとどまらず、その課題に対する戦略的解決策の提案につながることを理想とし、研究成果は成果発表会におけるプレゼンテーションおよび研究報告書の内容によって評価される。

到達目標

1）所属する医療施設内外に、医療マネジメントにつながる課題を見出すことができる。
2）自身が見出した課題について研究する意義や目的、方法について説明することができる。
3）課題について研究を行う計画を立て、その研究計画に基づいて調査・分析を実施することができる。
4）研究課題に対する具体的な戦略的解決策の提案ができる。
5）研究の成果をまとめ、その結果をわかりやすく人に発信することができる。
6）研究成実践の場に応用し施設のリーダーとして医療経営に生かすことができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	所属する施設内外の医療に関する情報を収集し、解析することによって研究課題を検討する。	菅河 真紀子
5～10	研究課題の決定	収集した情報や解析した結果および課題解決策の実現性などをふまえて最も研究テーマとしてふさわしい研究課題を見つけ出し決定する。	菅河 真紀子
11～14	研究計画の立案	研究の目的・具体的な対象、調査方法、分析手段について検討し、研究の計画を立てる。	菅河 真紀子
15～22	研究計画の発表および修正	研究計画を発表し合い、お互いの研究計画について検討、評価を行う。評価に基づき修正を行う。	菅河 真紀子
23～26	研究課題の最終決定と倫理審査申請書の作成	研究課題、研究計画の最終決定を行い、倫理審査申請書を作成する。	菅河 真紀子
27～34	調査研究の実施	研究課題について資料収集、検索、調査活動を実施する。	菅河 真紀子
35～38	研究の中間発表	公開での中間発表を実施し、評価を基に研究の修正を行う	菅河 真紀子
39～50	本研究の実施	情報収集、調査分析等研究に取り組む。	菅河 真紀子
51～58	研究結果のまとめと考察	研究結果を整理し、執筆の内容を調整するとともに結果に対する考察・立案等をまとめる。	菅河 真紀子
59～72	研究報告書の執筆	調査結果および考察について報告書にまとめる。	菅河 真紀子
73～75	発表会及び最終修正	研究報告書を発表し合い、評価する。評価に基づき最終修正を行う。	菅河 真紀子

評価	研究計画・研究実践ならびに研究報告書審査結果により評価する。
教科書	特になし
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて提示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や報告書発表会は、公開を原則とする。
オフィスアワー	講義の前後および別途公開する一覧表の時間に受け付ける。

Ⅷ　教員一覧

副学長・研究科長

氏名	職位	メールアドレス
寺本　明	副学長／教授	akira.teramoto@sums.ac.jp
喜多村　健	研究科長／教授	kitamura.oto@tmd.ac.jp

健康増進・予防領域／助産学領域教員

氏名	職位	メールアドレス
川本　利恵子	副研究科長／教授	rieko.kawamoto@sums.ac.jp
石川　眞理子	教授	mariko.ishikawa@sums.ac.jp
牛田　貴子	教授	takako.ushida@sums.ac.jp
片山　典子	教授	noriko.katayama@sums.ac.jp
倉田　慶子	教授	keiko.kurata@sums.ac.jp
小林　紀明	教授	noriaki.kobayashi@sums.ac.jp
田中　秀子	教授	hideko.tanaka@sums.ac.jp
内藤　亜由美	教授	ayumi.naito@sums.ac.jp
山崎　圭子	教授	keiko.yamazaki@sums.ac.jp
山勢　善江	教授	yoshie.yamase@sums.ac.jp
ラウ　優紀子	教授	yukiko.lau@sums.ac.jp
渡邉　眞理	教授	mari.watanabe@sums.ac.jp
渡部　節子	教授	setsuko.watabe@sums.ac.jp
青島　恵美子	准教授	emiko.aoshima@sums.ac.jp
伊藤　ふみ子	准教授	fumiko.ito@sums.ac.jp
碓井　瑠衣	准教授	rui.usui@sums.ac.jp
佐々木　千佳	准教授	chika.sasaki@sums.ac.jp
澤井　美奈子	准教授	minako.sawai@sums.ac.jp
清水　奈緒美	准教授	naomi.shimizu@sums.ac.jp
東村　志保	准教授	shiho.higashimura@sums.ac.jp
望月　千夏子	准教授	chikako.mochizuki@sums.ac.jp
安部　仁美	講師	hitomi.abe@sums.ac.jp
岡　多恵	講師	tae.oka@sums.ac.jp
小野寺　悠斗	講師	yuto.onodera@sums.ac.jp
櫻井　友子	講師	tomoko.sakurai@sums.ac.jp
陶山　克洋	講師	katsuhiro.suyama@sums.ac.jp
塚原　ゆかり	講師	yukari.tsukahara@sums.ac.jp
野口　京子	講師	kyoko.noguchi@sums.ac.jp
山崎　真帆	講師	maho.yamazaki@sums.ac.jp
日下　桃子	助教	momoko.kusaka@sums.ac.jp
三堀　いずみ	助教	izumi.mitsuhori@sums.ac.jp
渡部　李菜	助教	rina.watanabe@sums.ac.jp

心身機能回復領域教員

氏名	職位	メールアドレス
田邉　浩文	副研究科長／教授	hirofumi.tanabe@sums.ac.jp
大森　圭貢	教授	yoshitsugu.omori@sums.ac.jp
小林　和彦	教授	kazuhiko.kobayashi@sums.ac.jp
柴田　昌和	教授	masakazu.shibata@sums.ac.jp
鈴木　雄介	教授	yusuke.suzuki@sums.ac.jp
坂上　昇	教授	noboru.sakanoue@sums.ac.jp
田島　明子	教授	akiko.tajima@sums.ac.jp
鶴見　隆正	教授	takamasa.tsurumi@sums.ac.jp
森尾　裕志	教授	yuji.morio@sums.ac.jp
山田　拓実	教授	takumi.yamada@sums.ac.jp
齋藤　琴子	准教授	kotoko.saito@sums.ac.jp
櫻井　好美	准教授	yoshimi.sakurai@sums.ac.jp
杉村　直哉	准教授	naoya.sugimura@sums.ac.jp
中尾　陽光	准教授	yoko.nakao@sums.ac.jp
増田　雄亮	准教授	yusuke.masuda@sums.ac.jp
三川　年正	准教授	toshimasa.mikawa@sums.ac.jp
下田　栄次	講師	eiji.shimoda@sums.ac.jp
土田　将之	講師	masayuki.ysuchida@sums.ac.jp
中村　壽志	講師	hisashi.nakamura@sums.ac.jp

医療・マネジメントエグゼクティブ領域教員

氏名	職位	メールアドレス
菅河　真紀子	准教授	makiko.sugawa@sums.ac.jp

薬学部教員

氏名	職位	メールアドレス
鈴木　勉	学部長／教授	tsutomu.suzuki@sums.ac.jp
定本　清美	副学部長／教授	kiyomi.sadamoto@sums.ac.jp
石橋　芳雄	教授	yashio.ishibashi@sums.ac.jp
加賀谷　肇	教授	hajime.kagaya@sums.ac.jp
加藤　裕久	教授	yasuhisa.kato@sums.ac.jp
木村　聡一郎	教授	soichiro.kimura@sums.ac.jp
国分　秀也	教授	hideya.kokubun@sums.ac.jp
佐野　和美	教授	kazumi.sano@sums.ac.jp
市川　智恵	准教授	tomoe.ichikawa@sums.ac.jp
小田中　啓太	講師	keita.odanaka@sums.ac.jp
浦　裕之	助教	hiroyuki.ura@sums.ac.jp

*2025年3月5日現在の情報をもとに掲載しています。